

千葉東南部ニュータウン22

— 鎌取場台遺跡 —

平成11年3月

住 宅 ・ 都 市 整 備 公 団
財団法人 千葉県文化財センター

千葉東南部ニュータウン22

—なまとりばだい鎌取場台遺跡—



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第368集として、住宅・都市整備公団千葉地域支社（旧首都圏都市開発本部）の千葉市東南部土地区画整理事業に伴って実施した千葉市緑区鎌取場台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代から古代までの遺物や遺構が発見されるなど、この地域の先史・古代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成11年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中村好成

凡 例

- 1 本書は、住宅・都市整備公団千葉地域支社（旧首都圏都市開発本部）による千葉市東南部地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県千葉市緑区鎌取町2,853-9 ほかに所在する鎌取場台遺跡（遺跡コード201-095）である。
- 3 発掘調査から報告書に至る業務は、住宅・都市整備公団千葉地域支社（旧首都圏都市開発本部）の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者は、本文中に記した。
- 5 本書の執筆は、副所長 高橋博文が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、住宅・都市整備公団千葉地域支社（旧首都圏都市開発本部）、千葉市教育委員会、宇井義典氏の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「蘇我」（N-54-19-15-2）
- 8 遺跡周辺地形の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 挿図に使用したスクリーントーンの用例は、次のとおりである。なお、記号についてはその使用に当たってその都度説明した。



本文目次

序文

凡例

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	
1	調査の経緯と経過	1
2	調査の方法	1
第2節	遺跡の位置と環境	4
1	遺跡の位置	4
2	遺跡の環境	4
第2章	検出した遺構と遺物	
第1節	旧石器時代	8
第2節	縄文時代	43
第3節	古墳時代	88
第4節	貝層サンプルの分析結果	112
第3章	まとめ	
第1節	旧石器時代	130
第2節	縄文時代	131
第3節	古墳時代	132
報告書抄録		巻末

挿図目次

第1図	上層グリッド配置図	2	第35図	018号・020号・022号土坑	59
第2図	下層グリッド配置図及び本調査範囲	3	第36図	026号・027号・028号・029号030号・032号 034号土坑	61
第3図	鎌取場台遺跡位置図	5	第37図	038号・039号・043号・044号・046号・047号 048号・049号土坑	63
第4図	鎌取場台遺跡と周辺の遺跡	6	第38図	053号・054号・055号・056号土坑	65
第5図	鎌取場台遺跡遺構配置図	7	第39図	057号・058号・059号・061号土坑	67
第6図	基本層序	9	第40図	045号炉穴	69
第7図	石器集中地点1出土状況(器種別)	10	第41図	グリッド・トレンチ出土遺物	69
第8図	石器集中地点1出土状況(石材別)	10	第42図	縄文時代以外遺構出土遺物	70
第9図	石器集中地点1出土石器(1)	12	第43図	縄文時代遺構出土土器片鏟(1)	72
第10図	石器集中地点1出土石器(2)	13	第44図	縄文時代遺構出土土器片鏟(2)	73
第11図	石器集中地点1出土石器(3)	15	第45図	縄文時代遺構出土土器片鏟(3)	74
第12図	礫群出土状況(器種別)	16	第46図	グリッド・トレンチ・縄文時代以外遺構出 土土器片鏟(1)	75
第13図	礫群出土状況(石材別)	17	第47図	縄文時代以外遺構出土土器片鏟(2)	76
第14図	礫群内出土石器	19	第48図	土製珠状耳飾	77
第15図	石器集中地点2出土状況	21	第49図	縄文時代石器(1)	78
第16図	単独石器出土状況図	22	第50図	縄文時代石器(2)	79
第17図	石器集中地点2・単独出土石器	23	第51図	縄文時代石器(3)	80
第18図	礫群接合状況(1)	25	第52図	縄文時代石鏝	82
第19図	礫群接合状況(2)	26	第53図	その他の縄文時代石器	83
第20図	礫群接合状況(3)	27	第54図	縄文時代遺構出土土製品	83
第21図	礫群接合状況(4)	29	第55図	古墳時代遺構配置図(住居跡)	88
第22図	縄文時代遺構配置図	43	第56図	001号住居跡	89
第23図	012号住居跡(1)	44	第57図	002号・003号住居跡	90
第24図	012号住居跡(2)	45	第58図	007号住居跡	92
第25図	013号住居跡(1)	46	第59図	009号・010号住居跡	94
第26図	013号住居跡(2)	47	第60図	006号住居跡(1)	95
第27図	016号住居跡	49	第61図	006号住居跡(2)	96
第28図	017号住居跡	50	第62図	006号住居跡(3)	97
第29図	023号住居跡	51	第63図	021号住居跡(1)	99
第30図	024号・025号住居跡・042号土坑	53	第64図	021号住居跡(2)	101
第31図	031号住居跡	55	第65図	古墳時代遺構配置図(周溝状遺構)	102
第32図	033号・035号住居跡	56			
第33図	036号・037号・041号住居跡	57			
第34図	051号・052号・060号住居跡	58			

第66図	004号周溝状遺構	103	第69図	015号周溝状遺構	107
第67図	005号・008号・011号周溝状遺構	105	第70図	050号地下式坑	108
第68図	014号周溝状遺構	106	第71図	表探遺物	109

表 目 次

第1表	石器属性表	31	第10表	サンプル別シオフキ殻長一覧表	116
第2表	礫母岩別接合表	40	第11表	シオフキ殻長一覧表	117
第3表	縄文土器観察表	84	第12表	サンプル別ハマグリ殻長一覧表	118
第4表	土器片錘観察表	85	第13表	ハマグリ殻長一覧表	120
第5表	石器観察表(1)	87	第14表	サンプル別貝種同定表	121
第6表	石器観察表(2)	87	第15表	貝種同定表	123
第7表	古墳時代土器観察表	110	第16表	貝種同定表(個体数)	126
第8表	サンプル別アサリ殻長一覧表	114	第17表	貝種同定表(重量)	128
第9表	アサリ殻長一覧表	115			

図 版 目 次

図版1	遺跡周辺航空写真		土器	
図版2	石器集中地点1出土石器		図版14	土器片錘(遺構出土)
図版3	石器集中地点1・2・礫群内出土石器		図版15	土器片錘(遺構、トレンチ、グリッド)
図版4	礫接合(1)		図版16	土器片錘(縄文時代外遺構出土)
図版5	礫接合(2)		図版17	土製珠状耳飾、石製品
図版6	012号・013号・016号住居		図版18	石製品
図版7	017号・023号・024号住居		図版19	遺跡近景、001号・002号竪穴住居跡
図版8	025号・031号・033号住居		図版20	003号・007号・009号竪穴住居跡
図版9	035号・036号・037号住居		図版21	010号・006号・021号竪穴住居跡
図版10	018号・020号土坑、045号炉穴、012号・013号・016号・018号遺構出土土器		図版22	004号・005号・008号周溝状遺構
図版11	023号・024号・031号・035号・051号・053号・057号・014号・015号遺構、グリッド出土土器		図版23	011号・014号・015号周溝状遺構
図版12	012号・013号・016号・017号・018号・023号遺構出土土器		図版24	002号住居出土土器
図版13	024号・025号・028号・032号・033号・035号・036号・038号・052号・053号・056号・059号・060号・061号遺構及びグリッド出土		図版25	006号住居出土土器
			図版26	006号・007号・009号住居出土土器
			図版27	021号住居出土土器
			図版28	004号・006号・013号・014号・015号・021号・007号遺構出土土器、鉄製品、土製品、玉類及び遺構出土貝製品

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯

住宅・都市整備公団による千葉東南部地区における土地区画整理事業に伴い、対象区域内に所在する埋蔵文化財の発掘調査による記録保存を行うこととなり、昭和50年から当センターが委託を受け、発掘調査を継続してきた。鎌取場台遺跡もこうした経緯のもとで調査された遺跡の一つである。ただし、本遺跡は、当初から所在は知られていたが、遺跡の範囲及び種類・規模の確定はされずにいた。その後鎌取場台遺跡の発掘調査の要望が住宅・都市整備公団から出され、平成2年度に本遺跡の遺跡境界確認調査が実施された。その結果、塚1基を含む縄文・古墳時代遺物包蔵地6,000㎡にいて遺跡であるとして千葉県教育委員会から通知があり、鎌取場台遺跡の範囲及び種類・規模が確定された。

発掘調査は、遺跡範囲6,000㎡のうち保存区域(2,300㎡、塚1基を含む)を除く3,700㎡について平成2年11月1日から平成3年3月30日まで、上層と下層の確認調査及び本調査を実施した。発掘調査及び整理作業を行った組織と担当者は以下のとおりである。

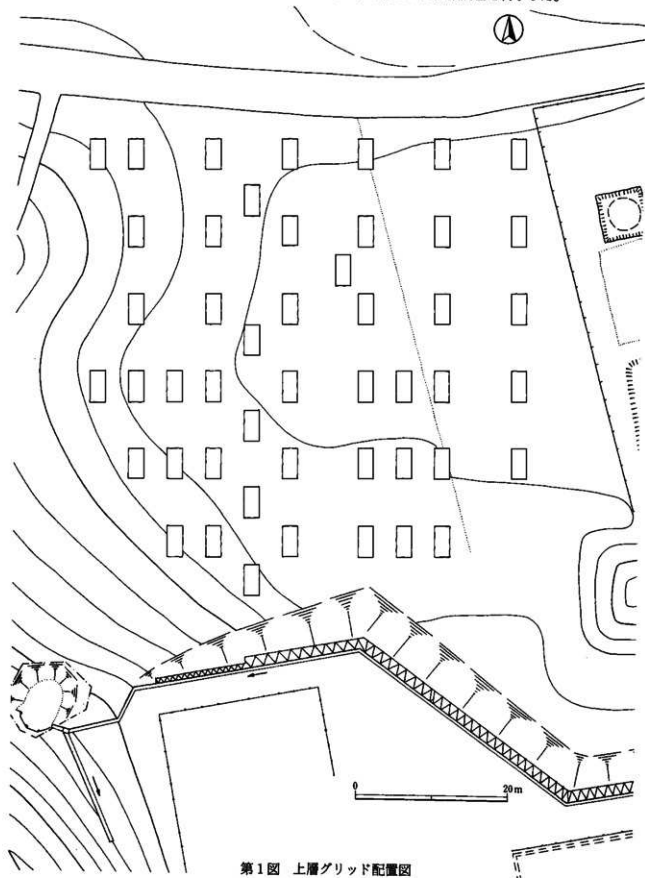
発掘調査	平成2年度	調査部長	堀部昭夫	班長	三浦和信
		主任技師	森本和夫、技師	福田明美	
整理作業	平成4年度	調査部長	天野 努	班長	矢戸三男
			(水洗・注記)		
	平成9年度	調査部長	西山太郎	所長	藤崎芳樹
		副所長	高橋博文(記録整理から挿図・図版作成の一部)		
			遺物の実測・トレースについては、資料部整理課が実施		
	平成10年度	調査部長	沼澤 豊	所長	石田広美
		副所長	高橋博文(挿図・図版作成の一部から原稿執筆)		

2 調査の方法

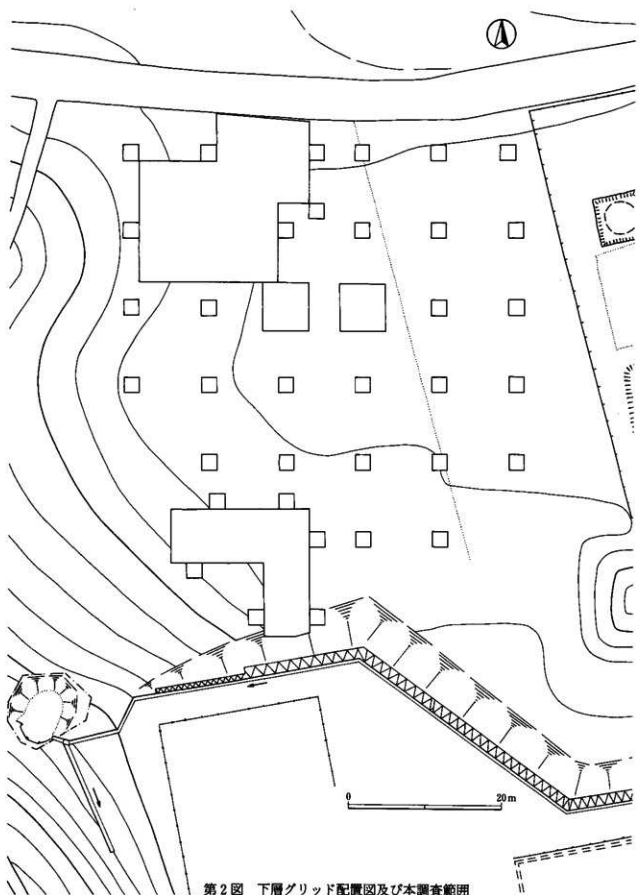
発掘調査の開始に際して、対象となる区域を包括するよう国土地理院国家座標(第IX座標)を基準とした発掘区の設定を行った。一辺40mの大グリッドを基本に設定し、さらにその大グリッドを一辺4mの小グリッドに分割し大グリッドの北西隅の小グリッドを00とし東へ向かって01、02、…08、09と、南へ向かって10、20、…80、90と命名し100の小グリッドに分割して最小区域の調査区とした。

上層の確認調査は、調査対象面積の10%に当たる370㎡について2m×4mのグリッドを調査区に設定し平成2年11月1日から12月19日まで実施した、その結果、遺物の検出がなかった西側谷頭付近の500㎡を除く3,200㎡について平成2年12月20日から平成3年2月16日まで上層本調査を実施した。また上層本調査終了に引き続いて調査対象面積3,700㎡の6.4%に当たる236㎡について2m×2mのグリッドを設定し、平成3年2月17日から3月13日まで下層の確認調査を実施し、調査区西側谷頭に近いグリッド7か所から立川ローム層のⅢ層～Ⅳ層にわたり旧石器時代石器の出土が見られた。そのうち2か所については周囲を拡張

したが遺物の広がりは見られず、残りの5か所について石器集中地点としては2地点の合計500㎡について平成3年3月14日から3月30日まで下層本調査を実施し、予定どおり発掘調査を終了した。



第1図 上層グリッド配置図



第2図 下層グリッド配置図及び本調査範囲

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置

鎌取場台遺跡は千葉市緑区鎌取町2853-9ほかに所在する。JR外房線鎌取駅の東約800mの位置に当たり、線路の南側に接するような位置にある。千葉市の南、市原市との境を西進し東京湾へ注ぐ村田川の下流域から直線にして約3km北にある小支谷を南に望む標高38mの台地上に立地する。

本遺跡で最も遺構・遺物の検出が多い縄文時代中期ごろの地形を概観すると、本遺跡は当時の東京湾奥部東側の海岸線に接して、現在の村田川の河口付近に形成された村田川低地に向かって開口する泉谷津、その開口部付近から北東に向かって分かれる赤塚支谷を南に望む谷奥の台地上の平坦部に位置する。当時の海岸線からは直線にして約2.5kmほどの距離となる。これら支谷に向かう台地からの水の流れは侵食を繰り返しさらに細かな小支谷を作り台地を細かく分けている。こうした小さな台地上に幾多の時代を重ねて多くの遺跡が残されており、鎌取場台遺跡もそうした遺跡の一つである。

本支谷の最奥部の台地のさらに約300mほどの東端には、千葉市のもう一つの水系である都川本谷から南へ分かれる仁戸名谷と、そこから分かれる小支谷が入り込んでいる。また、現在は本遺跡の立地する東西に長い台地の南寄りやJR外房線とこれに接するように平行して走る道路が台地を大きく南北に分断している。今回調査を実施した区域の北側ではこれらと接しており、遺構の一部が道路と重なりあつて調査ができなかったことを考えると、本遺跡はさらに北側へ広がっていたことが十分に考えられる。

なお、「千葉市遺跡地図」（千葉市教育委員会 1993）に「鎌取場台貝塚」として登録されている遺跡については、本遺跡と同一遺跡であることを記しておく。

2 遺跡の環境

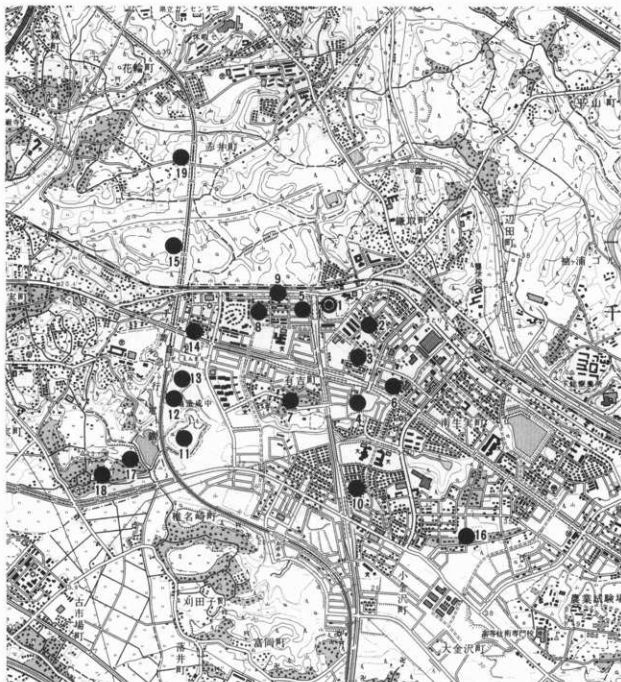
鎌取場台遺跡の主体となる時代は縄文時代中期（加曾利E式期）と古墳時代前期・中期である。まず、縄文時代中期に注目してみると西に隣接する南二重堀遺跡があり、本遺跡同様に竪穴住居内に貝層を伴うものもある。また谷を挟んで北から鎌取遺跡、有吉北貝塚、有吉南貝塚が向かい合っている。このうち鎌取遺跡は貝層を伴わないが有吉北貝塚は台地の北側に大規模な斜面貝塚を、有吉南貝塚は直径約140mの馬蹄形貝塚を台地上に形成している。これらの貝塚や遺跡では縄文時代中期に集落が営まれていたことが分かっている。

古墳時代については、千葉東南部ニュータウン地区では数多くの古墳（群）や集落跡が検出されている。本遺跡と時期を同じくする前・中期に注目してみると、鎌取遺跡、馬ノ口遺跡、南二重堀遺跡、高沢遺跡、有吉遺跡、城ノ台遺跡などで当該期の竪穴住居跡や遺物が検出されている。これらの遺跡は本遺跡も含め赤塚支谷を囲むように集中している。また本支谷開口部付近の台地の南端に造られている上赤塚1号墳は、5世紀前半代にさかのぼる数少ない古墳の一つである。

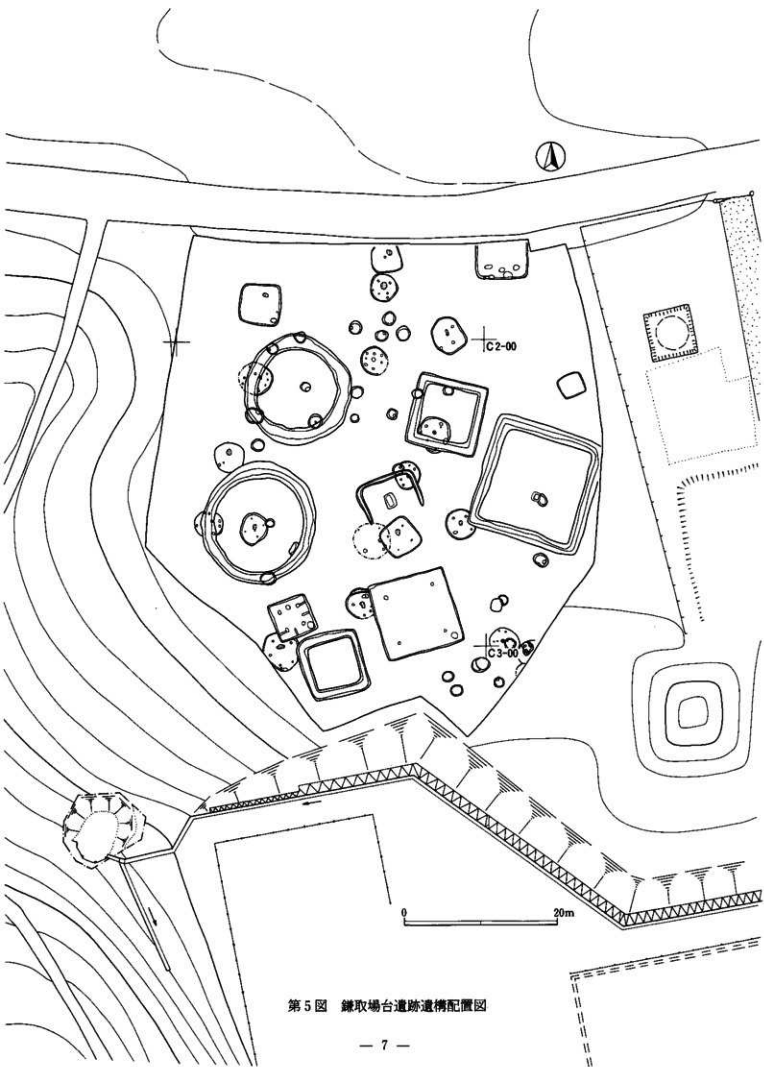


第3圖 鎌取場台遺跡位置圖 (1/5,000)

- 1 鎌取場台遺跡 2 鎌取遺跡 3 有吉北貝塚 4 有吉南貝塚 5 南二重堀遺跡 6 馬ノ口遺跡
 7 有吉城跡 8 高沢遺跡 9 生浜及び高沢古墳群 10 小金沢貝塚 11 城ノ台遺跡
 12 上赤塚古墳群 (1号墳) 13 上赤塚貝塚 14 有吉遺跡 15 種ヶ谷津遺跡 16 六通貝塚
 17 松原東遺跡 18 東堀遺跡 19 榎作遺跡



第4図 鎌取場台遺跡と周辺の遺跡 (1/25,000)



第5図 録取場台遺跡遺構配置図

第2章 検出した遺構と遺物

第1節 旧石器時代

1 概要

鎌取場台遺跡は、東京湾に注ぐ村田川河口付近に形成された村田川低地に向かって開口する赤塚支谷を南に望む台地上に立地する。付近の地形は支谷・谷津により台地は樹枝状に浸食されているため、遺跡が営まれる好条件を備えているといえる。最奥部に立地するわけではないが、分水嶺に近いこともあり、移動しやすい場所であったといえる。分水嶺の東側には都川水系の仁戸名支谷が南北に走っている。

谷をさんだ南側の台地には鎌取遺跡、西へ2つ谷を挟む台地には有古遺跡があり、共に旧石器時代の遺物が確認されている。

今回の調査範囲は台地の西側の小さな谷を望む奥部に近いところであり、遺物も緩斜面から急斜面に移る縁辺部に沿うような形で検出された。Ⅶ層、Ⅵ層、Ⅳ層の3枚に文化層が確認される。

基本層序（第6図）

遺物の分布範囲は垂直方向にⅣ層からⅦ層まで広がるが、今回の調査では立川ローム層が部分的にしか確認されていないため、地点が異なる2地点の土層断面を示す。

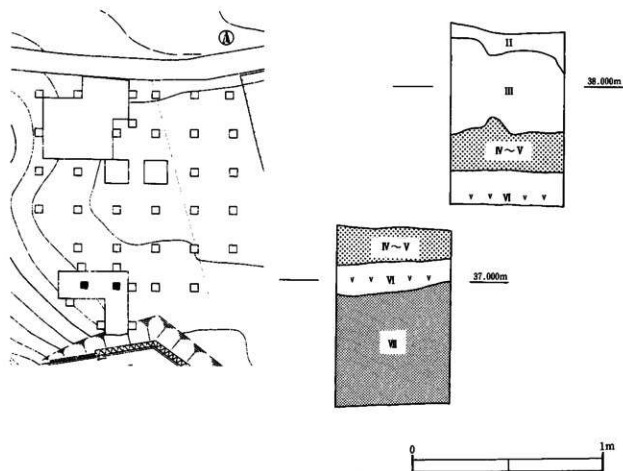
- Ⅱ 黒色土層。縄文時代以降に相当する。火山灰による堆積土層ではない。
- Ⅲ ソフトローム層。ハードローム層に波状に深く浸食する所もある。
- Ⅳ～Ⅴ ハードローム層から第1黒色帯に相当する。当遺跡ではⅣ層が一部軟質化しており分層が難しい。
- Ⅵ 始良丹沢火山灰（AT）を含む層。厚みは10cmほどであるが、場所により20cmの所も見られる。このため漸移層を含む地点と含まない地点があるようである。
- Ⅶ 第2黒色帯上部。本来下部（Ⅸ層）と分層されねばならないが、60cmほどの厚みがあるためここでは分層されていない可能性がある。

2 遺構・遺物

旧石器時代の石器集中地点は2か所、単独出土の石器出土地点が4か所、隣接する礫群が2か所検出された。以下にその概要を述べる。

石器集中地点1（第7～11図、図版2・3）

本遺跡における旧石器時代の石器の出土としては、最もまとまった地点である。グリッドB1-75を中心におおよそ6m×7mの範囲から47点の遺物が検出されている。分布密度はあまり濃くなく、やや散漫に分布するといった状況である。分布状況を見ると北側と南側の2つのグループに分けられるように見える。出土層位を観察すると北側はⅣ層上面～Ⅵ層中に遺物が広がっており、Ⅶ層上面に生活跡を、南側は



第6図 基本層序

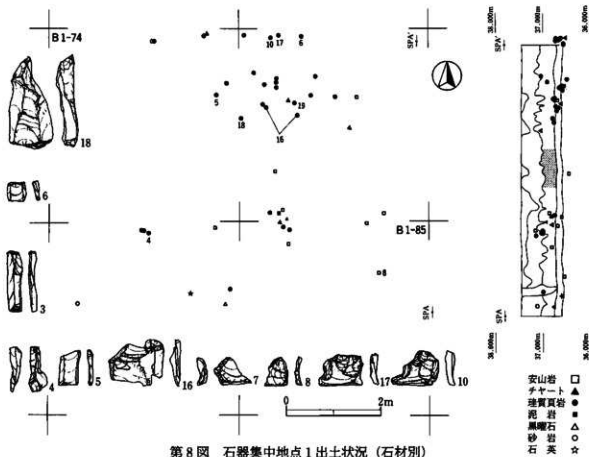
III層中～VI層上面に遺物が広がるため、V層中にも生活跡があるように観える。ただし、石材から検討してみると、両地点出土の石器の中には同一母岩とみられるものもあるため、この集中地点はある短時間に形成されたものであり、生活跡はほぼ同時期と考えられ、共にVI層上面としても差し支えないであろう。

石材 総数47点の石器が検出されているが、石材の種類はそれほど多種にわたっていない。以下にその内訳を示す。最も多かったのは珪質頁岩（28点・点数、59.6%・占有率・99.32g・総重量、39.9%占有率）である。ほかに黒曜石（5点、10.6%・28.57g、11.5%）、安山岩（9点、19.1%・29.81g、12%）、チャート（1点、2.1%・26.55g、10.7%）、泥岩（1点、2.1%・6.13g、2.5%）、石英（1点、2.1%・1.95g、0.8%）、砂岩（2点、4.3%・56.83g、22.8%）となる。点数・重量をとっても珪質頁岩が最も多い。これらの中に砂岩が2点あるが礫群の礫片と接合関係が見られることから、この石器集中地点と関係はないといえる。

石器 石材からも見られるように珪質頁岩を中心として剥片剥離作業が行われているが、石材はそれほど多くが本遺跡に搬入された様子は見られない。出土石器の中には本遺跡で剥片剥離が行われておらず、製品として持ち込まれた良質な珪質頁岩があり、一方で素材を持ち込まれ、本遺跡において剥片剥離が行われたやや質の劣る珪質頁岩とに分けられる。具体的には、前者には石刃と、石材は異なるが本来それらの石核になると考えられる厚手の大型剥片がある。後者には自然面が残る石器があり、粗割が行われていた



第7図 石器集中地点1出土状況(器種別)



第8図 石器集中地点1出土状況(石材別)

ようである。

本集中地点から出土した石器の器種構成は、ナイフ形石器 2 点、石刃 4 点、使用痕がある剥片又は二次加工がある剥片（以下略称して「URF」と記す）3 点、石核 2 点、剥片 34 点、礫片 2 点である。以下器種別にまとめて示す。

ナイフ形石器 1 は黒曜石製である。両側縁に急斜度調整が行われ、特に左側縁には全体に入念な調整が施されている。縦長剥片を用い入念に仕上げられ非常に規格性の高いものと捉えられる。刃部は右側縁になる。腹面から見ると右側縁の調整が深いことがわかり、形態的な規格性を意識していたようである。打面は除去されているが、バルブは完全には除去されていない。先端部の欠損は石器使用の際のものであろう。製品での搬入である。

2 は安山岩製である。右側縁に急斜度調整が施され、刃部は素材剥片をそのまま利用しており、手ごろな縦長剥片を上手に利用したという印象を受ける。素材はほとんど形態的変形を受けていない。打面・バルブともに遺存し、右側縁の一部に自然面が残っていることから、粗割段階の剥片を有効利用したようである。右側縁の調整は自然面を落とす意味もあったと考えられる。製品での搬入である。

石刃 以下石刃と記すが、実際には小石刃として捉えたほうが妥当であろう。また挿図・図版作成後に 3 と 5 が接合することが明らかとなった。

3 は珪質頁岩製である。ほぼ平行な側縁をもつが、腹面にねじれがある。左側縁は鋭利である一方、右側は面を有しており、石核はそれほど幅はなく細身のものであったと推測される。打面には打面調整が施されている。末端部の折損の際、ステップフラクチャー（step fracture＝階段状剝離）が生じている。

4 はチャート製である。他の石刃と比べ石材の質は良いとはいえない。左右側縁とも面を有しているため、石核そのものに規制があったと考える。打面は自然面か節理面であり、調整がされないまま剝離が行われている。やや厚みがあり、ねじれがある。

5 は珪質頁岩製である。左側縁は鋭利であるが右側は面を有している。打面側、末端側ともに折損し、両端ともステップフラクチャーが生じている。前掲 3 の石刃と接合する。

6 は珪質頁岩製である。石材は 3・5 に類似することから同一母岩とも考えられる。両側縁とも鋭利であることからこれまでの石刃と異なり、幅のある石核から剝離されたと考えられる。打面調整が施されている。右側縁には微細な欠損や、二次加工とみられるものがあることから、刃部となった可能性もある。末端側は折損している。

URF 以下、使用痕のある剥片をUF、二次加工痕のある剥片をRFと示す。

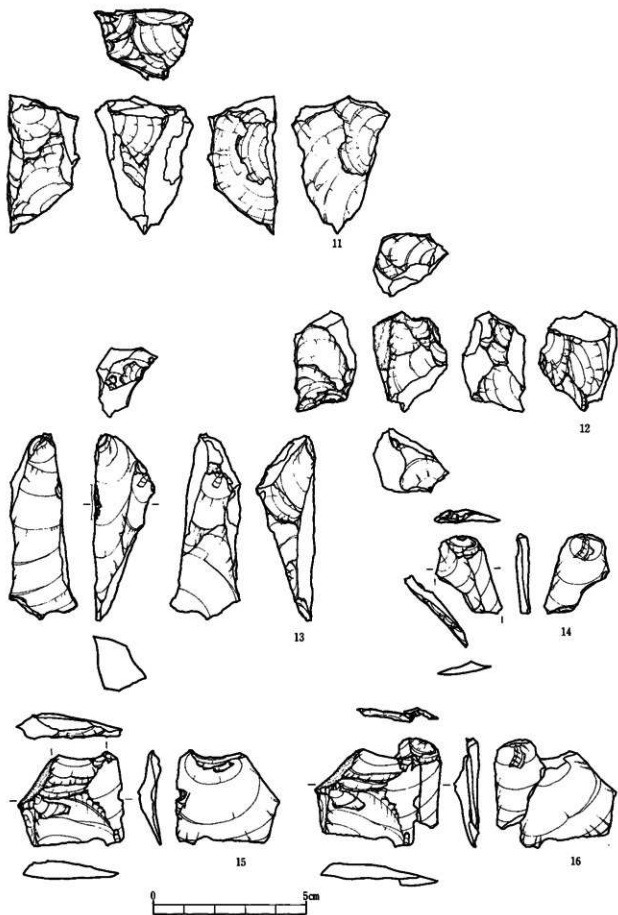
7 は黒曜石製のUFである。背面と腹面の剝離方向が異なる。素材をそのまま用いており、末端部右側に微細剝離痕が確認できる。剥片の大きさから石核は大形であったろう。製品として搬入された。

8 は珪質頁岩製のRFである。末端部は面を有しており、そこに規則的に二次加工が施されている。背面の剝離は右側縁側から行われているが、90度回転されたこの剥片が剝離された。末端に面を有していることから、石材はあまり大きくないこと、そして半載された石核を用いたことが考えられる。

9 は珪質頁岩製のUFである。横長寸詰まりの剥片であり、末端の面には、高さ、幅の不規則な微細剝離が行われている。左側面に自然面が残っていることから、剥片剝離初期段階のものであろう。打面は平坦である。



第9图 石器集中地点1出土石器 (1)



第10图 石器集中地点1出土石器 (2)

10は珪質頁岩製のU Fである。横長寸詰まり剥片で、末端に行くほど広がっており、形状的には9と良く似ている。末端の面には微細剥離痕があり、右側縁には自然面が残っている。石材も9と同一母岩と考えられ、接合はしないものの一連の剥離作業で作出されたものであると考える。打面は平坦である。

石核 3点が出土しているがそれぞれ形状等が異なり、一定の剥離工程を踏んでいないことがわかる。その結果、これら石核により作出される剥片も異なっていたようである。

11はチャート製である。節理が多くあり、あまり石器製作には適した石材とはいええない。右側面、腹面は一回の剥離で整形され、それぞれ一回の二次的剥離が行われている。打面は求心的に打点を変えながら形成されているが、打面形成ののち剥離が行われたのは、左側面の一度のみである。

12は珪質頁岩製である。ほかに出土している珪質頁岩よりも見た目やや軟質である。一部に残っている自然面から見ると原石はそれほど大きくはなく、拳大より一回り小さい礫であろう。両設打面を形成しており、両面とも一回の剥離によって打面が形成されている。それぞれを打面として剥離が行われているが、打面を転移させても不定形か横長寸詰まりの剥片しか取れなかったようである。打面調整は行われていない。

13は珪質頁岩製である。主に縦長剥片が剥離されており、石核自体も細身である。打面形成ののちに一度剥離が行われている。正面、右側面の打点は一点に集中している。また、下方からの剥離も認められるが、これは調整のために行われた可能性がある。側縁の一部に二次加工が施されている。

剥片 34点の剥片が出土している。中には一定の剥離作業を復元できるようなものや、厚手の良質なものも見られる。

14は珪質頁岩製の本来縦長剥片であったと思われる。中央あたりで折損していた。打面は一枚で構成されていたと考える。背面の右側には自然面がわずかに残る。

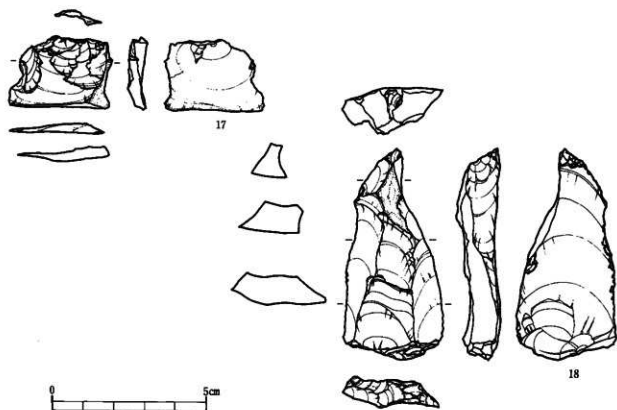
15は珪質頁岩製の横長寸詰まり剥片である。打面側は折損し、末端部と右側縁には細かい折れが続いている。使用によるものか欠損によるものか判断はつかない。左側縁の一部自然面が残っている。背面は全体的に黄色味を帯びているが、腹面は灰色を呈しているためこの剥片自体、原石の表面に非常に近い位置のものであったと思われる。

16は前記の14・15の剥片剥離が行われた剥片が接合したものである。状況から剥離作業は15→14の順序である。

17は珪質頁岩製である。14・15と同一の母岩と考えられる。右側縁には自然面が残っている。また10のU Fとも同一の母岩であると考えられ、平坦打面、自然面の残る位置、末端部が面となることなどの類似点から同一剥離工程の中で剥離が行われたと考える。検出されているほかの石核では打面転移、打点の移動が見られるが、この剥片には平坦打面を後退しながら剥離を繰り返す傾向がある。これのほかに作出された剥片は本遺跡では見られないことから、遺跡外に搬出されたのであろう。

18は珪質頁岩製である。非常に良質な石材である。これと同一の母岩と思われる石器はほかに出していない。またこの剥片自体の打面は横からの複数剥離からなっている。背面の剥離方向も腹面と同一であり単設打面である。剥片の上部には新たに打面を形成した痕跡が残っており、この打面をもとに縦長剥片(小石刃)が作出されている。この石器再生方法はいわゆる下総型石刃再生技法¹⁾と呼ばれるものである。本遺跡から検出された剥片、石核のほとんどにこのような打面調整が行われている形跡はなく、ただ一点この剥片には施されている。このことから石器製作の段階で既に他の石器と区別されていたと考えてよい。

あろう。



第11図 石器集中地点1出土石器(3)

礫群(第12~14、18~21図、図版4・5)

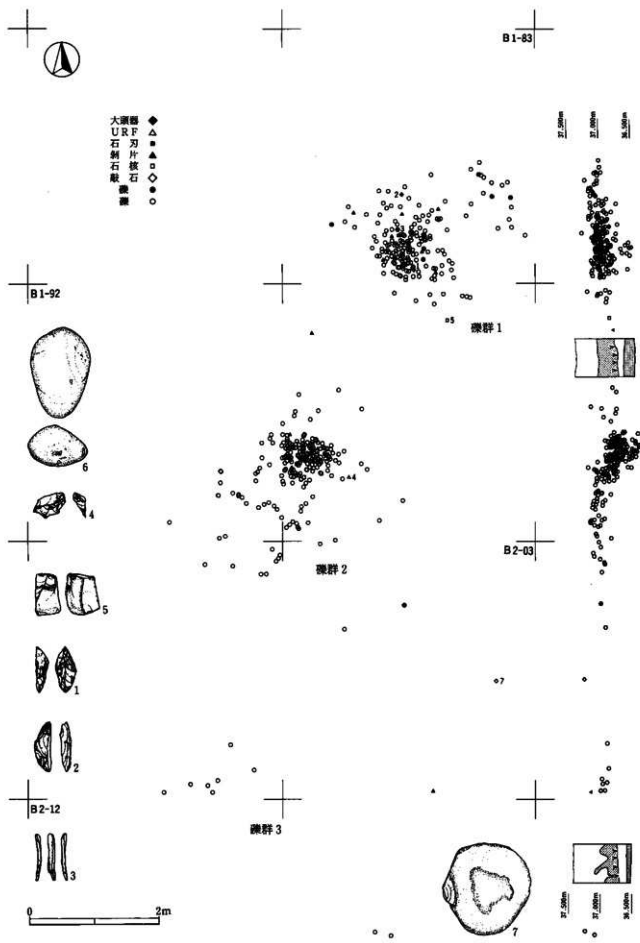
石器集中地点1に近く、グリッドB1-83・93を中心に台地上の緩斜面からやや急斜面に移ろうとする縁辺に沿うように検出されている。分布状況からおおむね3つに分けられるが、遺物が顕著に出土したのは礫群1と礫群2の2か所であり、いずれも遺物の数が200点を超える。残る一群とは数の上で差が見られる。遺物の分布状況を見ると1・2群ともに集中部分があり、周辺へ徐々に散漫になって行く傾向にある。総数459点を数える礫片は接合状況から33の母岩に分類され、そのうち272点の礫・礫片に接合関係が認められた。これらの状況から判断すると、礫群は形成された時期に大きな違いは見られず、ほぼ同時期に形成されたものであることと推察できる。

ここでは礫群の出土状況の概要を述べるにとどめ、接合状況については後に項を改めて詳しく述べることにする。

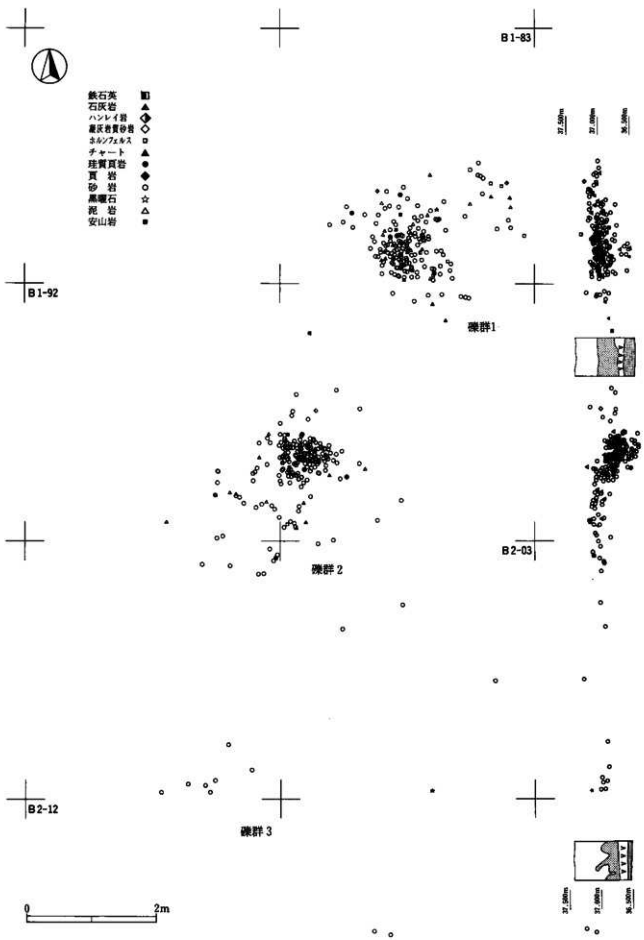
礫群1 グリッドB1-83に集中部をもつ一群で、平面分布は集中部から北東方向に向かって遺物が広がってゆく。垂直分布ではVI層上面~IV・V層中に集中部が認められる。

遺物総数は216点からなり、礫・礫片195点、尖頭器2点、石刃1点、剥片10点、石核1点、敲石1点である。石器と礫・礫片は混然と分布している。

礫群2 グリッドB1-93に集中部をもつ一群で、平面分布は集中部から南西方面に向かって遺物が広がっている。礫群1とは対照的である。垂直分布では、集中部分と周辺に広がる部分とで出土地点の相異が生じている。遺構らしきものは確認されていないが、落ち込んでいる様子が見られる。出土層位がVII層中~III



第12図 群出土状況（器種別）



第13図 礫群出土状況（石材別）

層までとかなりの差が見られるが、基本的にはVI層上面～IV下・V層に位置付けられ、礫群1とはほぼ同時期であると考えられる。このことは、両礫群にまたがって接合する剥片がかなり存在することからも明らかであろう。

遺物総数は263点で内訳は、礫・礫片252点、剥片4点、URF1点、敲石1点である。礫群1と同様に石器と礫・礫破片は混然と分布している。

礫群3 グリッドB2-02の南、礫群2から南西方向にやや離れて分布する。平面分布は、集中部がなく散在して分布し、垂直分布はIV～V層中に認められる。礫群2との関係が強いようである。接合関係や出土層位から他の礫群と同時代の礫群と考えてよい。遺物総数は13点と少なく、そのうち剥片が1点のみでほかは礫・礫片である。

礫群内出土石器 (第14図・図版3)

礫群1・2・3から合わせて22点の石器が出土している。以下に図示できた遺物について器種別にその詳細を述べることにする。

尖頭器 2点とも礫群1からの出土である。1は安山岩製である。腹面にはほとんど剝離が行われておらず、片面調整の尖頭器である。大きさの割にはやや背が高く、厚手の剥片を用いたと考えられる。器体整形は粗い剝離が行われ、縁辺部に細かい調整が入れている。左側にファシット (facet=切り子(種)状の剝離?)が入っており、中央の稜線を打面として細かい剝離を行っている。

2は珪質頁岩製である。長軸に沿ってほぼ半分に折損している、製品としてほぼ出来上がっていたとみられ、製作途中による折損とは考えられない。求心的に剝離が行われているが、さらなる細かい微調整はあまり見られない。一定の厚みをもつ剥片を素材としていたようである。

1は片面調整、2はおそらく両面調整であり、これら形態が違うのは素材の形状に影響されたものと考えられる。

石刃 3は珪質頁岩製である。左右両方に面を有し、薄手の剥片を素材にしていた可能性がある。小石刃と呼ぶほうが相応しいかも知れないが、IV～V層からの出土であるためここでは石刃とする。腹面と逆方向の剝離があり、素材自体が両設打面を有する石核から剝離されたと考えられる。なお打面は複数打面となっている。同一母岩の石器は見られない。

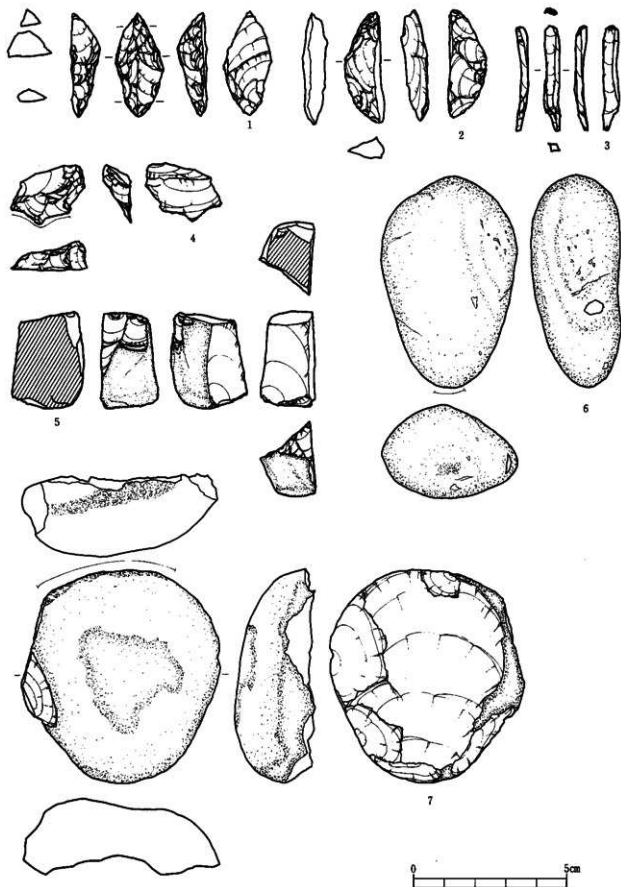
UF 4はチャート製である。末端部の鋭利な部分を刃部として用いた。打面は除去されている。

石核 5はチャート製である。自然面の残り具合から考えて、素材の礫は拳よりもかなり小さいものを利用したとみられる。左面と上面は節理により割れている。上面は節理面を打面として剝離が行われている。5回ほど剝離が行われているが、ステップフラクチャー・ヒンジフラクチャー (hinge fracture = 鎌番剝離)が生じたため、その後剝離作業面は下面に移った。そして打面を作るために一部自然面を除去した後、そこを打面として剥片剝離を行っているが、一回のみの剝離にとどまったようである。

敲石 使用頻度にかかなりの差がある。

6は砂岩製である。丸く尖った方に微細ではあるが敲打痕が認められる。

7は砂岩製である。敲打痕の残る部分は一定の幅をもって4.5cmほどの長さで使用痕が認められる。打撃により半壊され、一部赤化している。また、出土位置などから礫群との関係は不明である。また一時期磨石としても用いられている。



第14図 磯群内出土石器

石器集中地点2及び単独出土資料等（第17図、図版3）

ここでは、石器の出土点数の少ない石器集中地点2及び単独出土資料等の遺物を一括して述べることにする。

石器集中地点2は、石器集中地点1から南へ約45mのグリッドB3-03におおむね位置する。台地西側の支谷に面した縁辺部に分布する。遺物の総数はおおよそ4m×4mの範囲に4点が散在する極めて小規模な一群である。垂直分布では70cmと高低差があり、すべてを一群としてとらえることにはやや疑問である。出土層位としてはVII層の中位に位置すると考える。石材は安山岩1点（25%）、黒曜石2点（50%）、珩質頁岩1点（25%）である。器種の種類は剥片3点（75%）、URF1点（25%）である。なお、黒曜石が2点確認されているが、同一母岩ではない。その他単独出土及び位置不明の石器が6点ある。

RF1は珩質頁岩製で単独出土である。非常に薄い剥片を用い、左側縁に急斜度調整を思わせるような細い剝離が規則的に行われている。右側縁に鋭い縁辺があるが、使用されたため欠損したものと思われる。打面は複数剝離である。両側縁の状況からナイフ形石器として用いられていた可能性がある。

2は珩質頁岩製で石器集中地点2からの出土である。縦長剥片をそのまま利用している。左側縁にはやや不規則な細い剝離が見られる。また末端部の微細な剝離痕は使用痕と考えられる。

ピエス・エスキュー3は黒曜石製である。腹面と背面の剝離方向が異なっており、腹面のリングの取束が強いことから判断した。また所々に剝離痕が認められるため、UFとして用いられたとも考えられる。出土位置は不明である。

ナイフ形石器4は珩質頁岩製である。素材は横長寸詰まりの剥片であったが、腹面を見てもわかるように、急斜度調整によりかなりの形態的な変形が行われている。また腹面からだけではなく背面からも調整が施されている。自然面を打面としているが、バルブ、打面除去等は行われていない。出土位置は不明である。

礫母岩別接合状況（第18～21図、図版4・5）

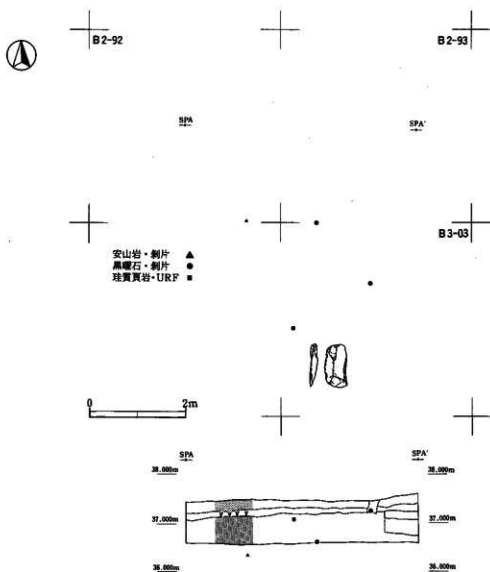
ここでは先に概要を述べた礫片の母岩別の接合状況を中心にして述べることにする。以下に述べることについては接合図及び別表を参考にされたい。⁹⁾

№1 石材はチャートである。9点が接合し、全体で81.00gである。7点は礫群2にあり、2か所に分かれて分布する。残り2点は礫群1に分布し、その2点は接合する。ほぼ原石にまで復元されている。

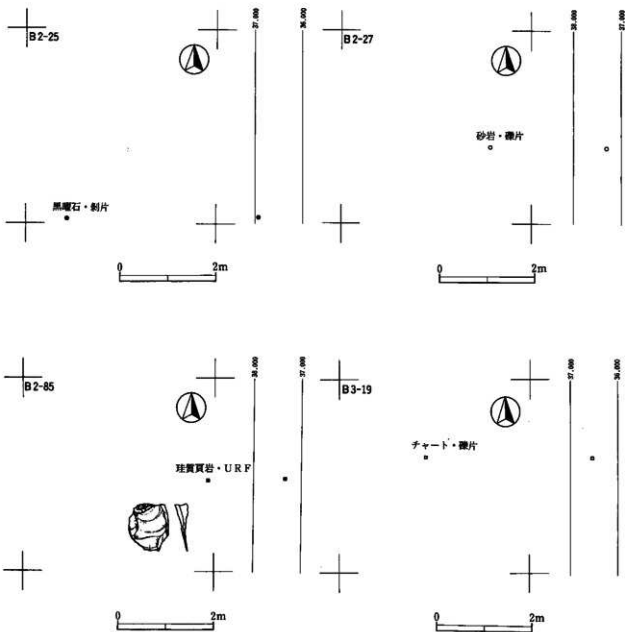
№2 石材は砂岩である。8点が接合し、全体で58.75gである。8点中7点が礫群1にあり、残り1点が礫群2にある。礫群1での分布は集中する。ほぼ原石にまで復元されている。

№3 石材は砂岩である。2点の接合で62.01gである。礫群1と礫群2に1点ずつ分布する。2点で全体の7割くらいが復元されているが、原石に戻っても100g程度のものである。

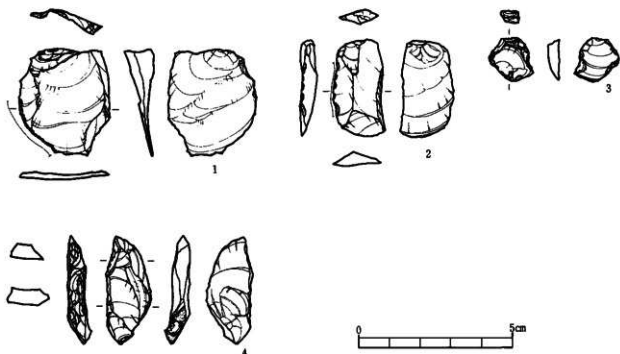
№4 石材は砂岩である。4点が接合し、全体で91.71gである。礫群1と礫群2に2点ずつ分布する。被熱により2つに割れたものが礫群1、礫群2に行き、さらに両地点で2つに割れたとみられる。4割くらいまで復元されている。



第15図 石器集中地点2 出土状況



第16図 単独石器出土状況図



第17図 石器集中地点2・単独出土石器

No 5 石材は砂岩である。5点が接合し、全体で23.97gである。礫群1に1点、礫群2に4点が分布する。礫群2に集中して3点、やや離れて1点あるが、集中する3点は既に半載された礫が3つに割れたものである。全体の7割ほどが復元されているが、完全に戻っても50g前後の礫であり、非常に小さなものである。

No 6 石材は砂岩である。4点が接合し、全体で102.47gである。4点とも礫群1に分布し、さらに集中している。全体の7割くらいが復元されている。

No 7 石材は砂岩である。6点が接合し、全体で75.98gである。6点とも礫群1に分布し、さらに4点が集中する。割れた順序を考慮すると、No164がやや離れていることから、人為的移動があったとみられる。

No 8 石材は泥岩である。5点が接合し、全体で97.25gである。5点とも礫群1に分布し、やや集中している。全体で6割程度が復元されている。

No 9 石材は砂岩である。2点が接合し、全体で18.05gである。2点とも礫群2に分布するが、地点が2m程離れている。5割程度復元されているが、完全に復元さても50g前後くらいの小さな礫である。

No10 石材は砂岩である。3点が接合し、全体で80.53gである。3点とも礫群1に分布するが、そのうち2点が隣り合う。割れた順序と隣り合う礫の不自然さから、人為的移動があったとみられる。

No11 石材は砂岩である。17点が接合し、全体で576.29gにもなる。礫群1に12点が分布するが、やや散漫に広がっている。礫群2には5点が分布する。礫群2に分布する礫片は接合し一つのまとまりとなる。全体で7割くらいが復元されており、拳よりも二回り大きいくらいである。

No12 石材は砂岩である。6点が接合し、全体で102.60gである。礫群1に集中して分布する。全体で5割程度の復元とみられる。

No13a 石材は砂岩である。7点が接合し、全体で102.07gである。礫群1に1点、残り6点が礫群2に分布する。割れ順序の最初であるNo161が礫群1にある。復元率は3割前後と思われる。

Na13b 石材は砂岩である。2点が接合し、全体で71.17gである。礫群1と礫群3に1点ずつが分布する。約8mの距離がある。

Na14 石材は砂岩である。4点が接合し、全体で838.18gにもなる。礫群1にすべてが分布し、地点は外皮のある小さな礫片と、中心的な大きな礫片2点の2つに分かれるようである。復元率は3割程度かと思われるが、現状から考えると、かなり大きな礫であったようである。

Na15 石材は砂岩である。9点が接合し、全体で220.85gとなる。礫群1に3点、礫群2に6点が分布する。礫群1に分布する分は礫の中心部分であり、礫群2に分布するものはその周りに接合する。復元率は7割程度であり、ほとんど縦に割れている。

Na16 石材は砂岩である。総点数は26点からなり、全体で429.90gとなる。礫群1に13点、礫群2に12点、礫群3に1点が分布する。礫群1、2の中での接合率が高い。26点中20点に明瞭な赤化が窺えるが、礫群2に分布する礫片の赤化の度合いが高いことが指摘できる。7割程度復元されており、拳より二回り大きいくらいの礫である。半載したものをそれぞれの礫群へと移動させたとみられる。また礫群内では集中し分布する。

Na17 石材はホルンフェルスである。2点が接合し、全体で25.88gである。2点間の距離は約1.5mと多少の開きがある。表面全体に自然面があるが、薄く割れているため全体の様相を推測するのは困難である。他のホルンフェルスとの関係も考えられ、おそらくは拳と同じくらいの大きさであったと考えられる。

Na18a 石材は砂岩である。4点が接合し、全体で77.55gとなる。礫群1に2点、礫群2に2点が分布する。礫群1では2点間の距離が1mほどあり、礫群2では中心部分に1点、そこから2.5mくらいの距離がある。接合状況は、全体の2割程度とみられ、この礫片は半載されたものがさらに割れたものである。

Na18b 13点が接合し、全体で128.53gとなる。礫群1に6点、礫群2に6点、さらに石器集中地点1に1点が分布する。2つに割れたものが礫群1、礫群2に行き、さらにそれぞれで割れたとみられる。拳より一回り大きい礫と考えられ、3割程度が復元されている。

Na18c 2点が接合し、全体で31.89gである。2B-13から検出されており、礫群3からも2m以上離れており、孤立している。2つの距離も30cmほど離れている。

Na19a 石材は砂岩である。2点の接合で、全体で18.96gになる。礫群2で出土しており、2点間の距離は70cmほどである。

Na19b 2点が接合し、全体で29.63gになる。礫群1、礫群2に1点ずつが分布する。

Na19c 4点が接合し、全体で137.32gとなる。礫群1、礫群2に2点ずつが分布する。はじめに二つに割れた後、各地点でさらに二つに割れたものとみられる。

Na19d 2点の接合で、全体で122.47gとなる。礫群1、礫群2に1点ずつが分布する。

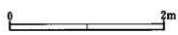
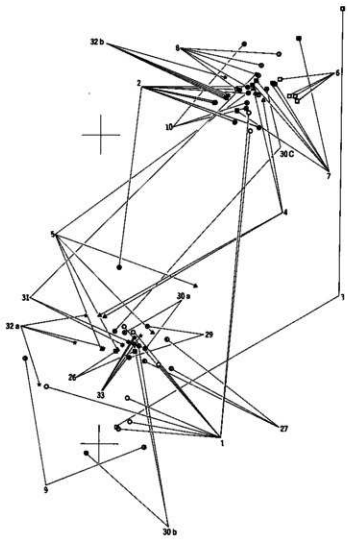
Na20a 石材は砂岩である。4点が接合し、全体で46.70gである。礫群2に4点が集中して検出された。

Na20b 3点が接合し、全体で32.00gである。3点とも礫群2に分布する。そのうち2点が隣接し、1点が50cmほど離れている。割れた順序として、はじめに孤立する1点が割れ、次に隣接する2つが割れたとみられる。

Na21a 石材は砂岩である。2点が接合し、全体で14.06gである。2点とも礫群2に分布する。大きな接合資料ではないため、礫の推定は困難であるが、一部に自然面が残り、半載されたものが2つに割れたとみられる。

B1-92

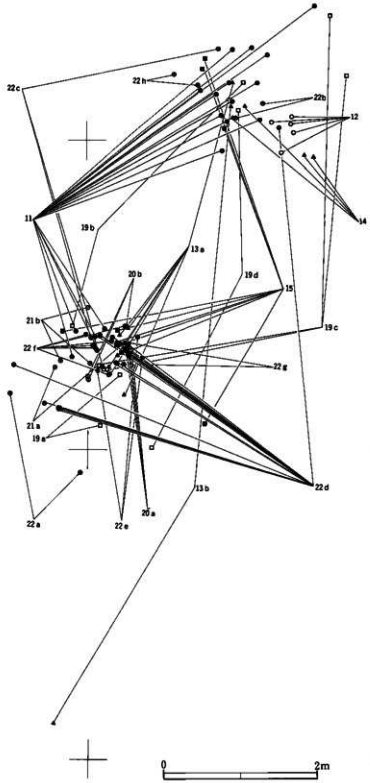
B2-02



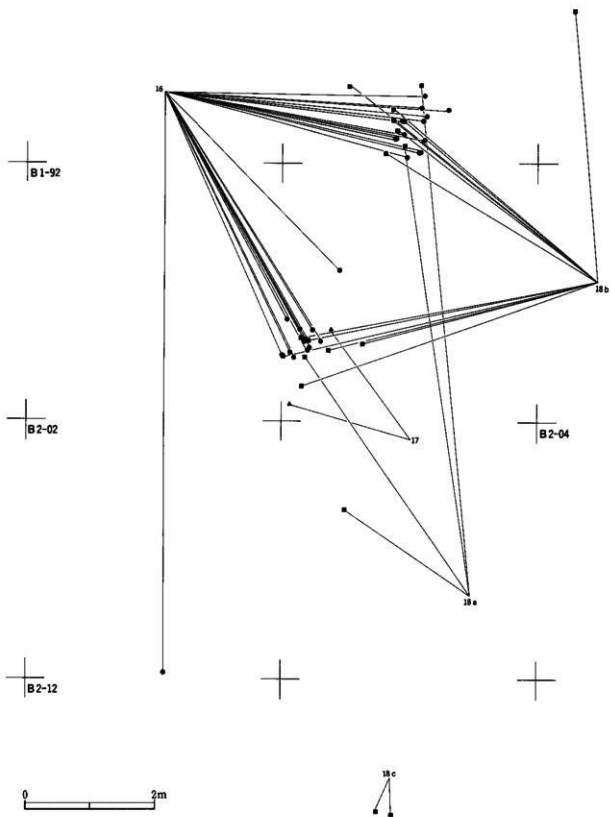
第18图 裸群接合状況 (1)

B1-92

B2-02



第19図 礫群接合状況 (2)



第20図 礫群接合状況 (3)

Na21b 3点の接合で、全体で27.66gである。3点とも礫群2に分布し、それぞれに距離がある。状況的に21aに似通っている。

Na22a 石材は砂岩である。2点が接合し、全体で18.40gである。2点とも礫群2に分布し、礫片の集中部ではなく、散漫になって行くあたりで確認されている。2点間の距離も1.5mとやや離れている。

Na22b 2点の接合で、全体で12.48gである。2点とも礫群1に分布し、自然面が大きく残っている。

Na22c 3点が接合し、全体で22.77gである。礫群1に1点、礫群2に2点が分布する。接合状況からすると、礫群1と礫群2の1点が礫群2のもう1点から割れた様子である。分布では礫群1の礫片に人為的移动が認められる。

Na22d 16点が接合し、全体で163.04gになる。礫群1に1点、残りの15点が礫群2に分布する。礫群2の中でも2か所の集中が認められる。それぞれの集中の中で接合し合うため、もとは2つに割れたものが地点を異にしてさらに割れたと見られる。

Na22e 3点の接合であり、全体で25.01gになる。3点とも礫群2に分布するが、それほど集中はしていない。分布上近い2点は、もとは1点であり、そこで割れたとみられる。

Na22f 6点が接合し、全体で77.98gとなる。6点とも礫群2に分布し、やや集中する。接合状況からして少し大きめの礫であったと見られる。

Na22g 2点の接合であり、全体で78.28gとなる。2点とも礫群2に分布し、また自然面も大きく残っており、半載された礫片がさらに2点に割れたとみられる。

Na22h 2点の接合で、全体で30.34gになる。2点とも礫群1に分布する。自然面が残されており、外皮の部分となる。2点の距離は30cmほどある。

Na23a 石材は砂岩である。2点が接合し、全体で19.14gである。2点とも礫群2に分布する。自然面が残されており、外皮の部分である。

Na23b 4点が接合し、全体で50.35gとなる。4点とも礫群1に分布する。自然面はあまり残っておらず、礫の中心部分とみられる。半載されてからの被熱のためか、中心部に強い赤化がみられる。4点中2点がやや離れている。

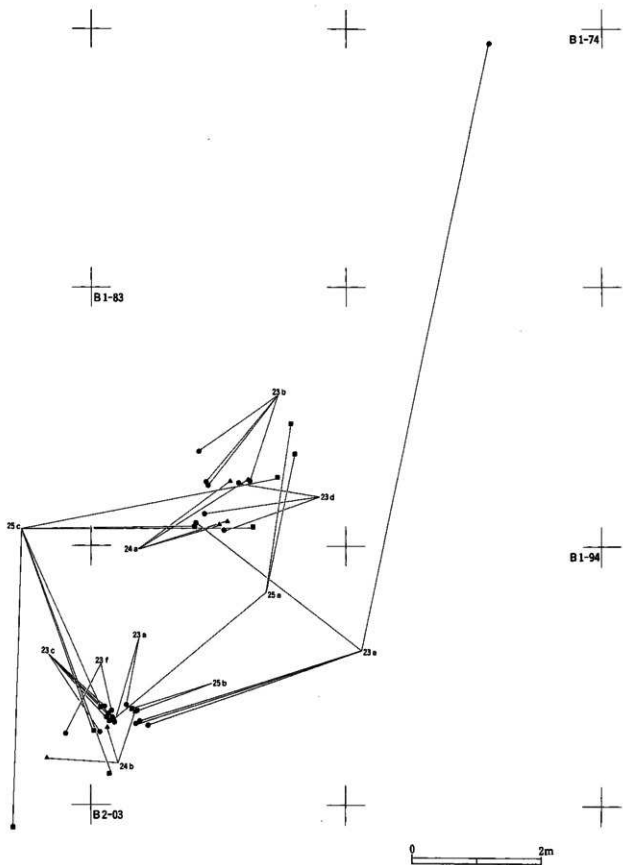
Na23c 5点が接合し、全体で62.74gとなる。5点とも礫群2に分布する。4点が集中し、1点はやや離れている。全体が接合した礫片が半載され、さらに割れたものである。全体的に強い赤化を示している。

Na23d 3点が接合し、全体で32.56gである。3点とも礫群1に分布するが、相互にやや距離がある。自然面の残る外皮の部分である。23c同様強い赤化が見られる。

Na23e 5点が接合し、全体で106.50gである。礫群1に1点、礫群2に3点、石器集中地点付近に1点とかなり分布が広がっている。接合状況からすると、礫群2の3点と他の2点に割れたことがわかる。礫群2では3点が集中しているが、他の2点に関しては7m以上の距離がある。全体的に自然面はほとんど残っていない。

Na23f 2点の接合で、全体で16.79gとなる。2点とも礫群2に分布するが、やや距離がある。半載されたというより、被熱による割れである。

Na24a 石材は砂岩である。4点が接合し、全体で81.55gである。4点とも礫群1に分布し、その中でも2点づつ集中する。礫の中心部と外皮に分けられ、外皮が割れた後に中心部が2つに割れたとみられる。全体像は把握しにくい、拳より1回り大きい礫であったとみられる。



第21図 碑群接合状況 (4)

№24b 3点が接合し、全体で49.18gである。3点とも礫群2に分布し、それぞれに距離がある。外皮の部分であり、接合状況から扁平な礫であったようである。また、被熱の程度に差が認められる。

№25a 石材は砂岩である。3点が接合し、全体で48.16gである。2点が礫群1、1点が礫群2に分布する。礫群1の礫片がこの接合関係の外側に当たり、ほか2点より赤化の度合いが強くやや黒っぽく見える部分もある。

№25b 2点の接合で、全体で5.16gしかない。2点とも礫群2に分布し、隣接している。自然面の残る外皮である。

№25c 7点が接合し、全体で80.21gである。礫群1に3点、礫群2に4点が分布する。礫群1には礫片全体の主体部が分布し、礫群2では外皮ものが分布する。礫群2の集中部にある2点と、そこから散漫になる所の2点がそれぞれ接合する。しかしその2つの間には直接の接合関係はなく、主体部を介して接合する。礫群2の集中部にある2点の被熱の具合が非常に強く、黒っぽく見える。

№26 石材は砂岩である。2点の接合で、全体で43.00gになる。2点とも礫群2に分布する。拳より一回り小さい礫とみられ、3割ほどが復元されている。

№27 石材は砂岩である。3点が接合し、全体で23.97gとなる。3点とも礫群2に分布する。手のひら程度で、あまり大きくない礫である。

№28 石材は砂岩である。4点が接合し、全体で20.41gになる。4点とも礫群3に分布する。礫の全体像を把握するのは困難であるが、№26と同じくらいのもと考えられる。

№29 石材は砂岩である。2点が接合し、全体で35.02gになる。2点とも礫群2に分布する。礫片は外皮の部分であり、自然面の湾曲の様子から大きめの礫であったとみられる。

№30a 石材は砂岩である。2点が接合し、全体で45.22gとなる。2点とも礫群2の集中部分に分布する。一部に自然面が残っており、もとは半載された礫片であったと思われる。

№30b 3点が接合し、全体で45.90gになる。3点とも礫群2に分布し、そのうち2点が集中部、1点が散漫部にある。集中部にある2点は相互に接合し合う。もとは半載された礫とみられ、拳程度の大きさであったと考えられる。

№30c 2点が接合し、全体で24.62gである。礫群1と礫群2に分布し、3.5m以上の距離がある。全体像はつかめない。

№31 石材は砂岩である。3点が接合し、全体で44.04gである。礫群1に1点、礫群2に2点が分布する。もともと扁平な礫であるが、全体を把握することはできない。

№32a 石材は泥岩である。4点が接合し、全体で35.62gである。4点とも礫群2に分布するが、それぞれ集中することなく、散漫に広がる。半載された様子であり、自然面が残る。全体で3割ほどが復元されており、拳より一回り小さい礫であったと考えられる。

№32b 5点が接合し、全体で41.07gになる。5点とも礫群1に分布する。もとの礫片は半載されたものと思われ、自然面も残る。

№33 石材はチャートである。4点が接合するが、全体で7.59gしかない。4点とも礫群2に分布する。1点のみやや離れるが、礫群2の集中部に分布する。もとの形は細長い礫であり、現状から見て大きいものではなく手のひらに収まる程度の礫であったと思われる。

第1表石器属性表(1)

No	グリップ	遺物番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	赤化	備考
1	01B74	1	石刃	珪質頁岩	2.70	1.51	0.40	1.67	36.786		No8と整合、第9回-5
2	01B74	2-1	石核	珪質頁岩	6.00	2.29	1.74	16.26	36.578		第10回-13
3	01B74	2-2	薄片	砂岩				52.54	36.578	○	
4	01B74	3	剥片	珪質頁岩	2.05	1.03	0.36	0.49	36.562		
5	01B74	4	剥片	珪質頁岩	1.35	2.01	0.69	1.64	36.646		
6	01B74	5	ナイフ形石器	黒曜石	(3.31)	1.67	0.76	(3.66)	36.598		第9回-1
7	01B75	1	剥片	珪質頁岩	1.75	1.62	0.51	0.57	37.050		
8	01B75	2	石刃	珪質頁岩	(4.45)	1.15	0.64	(2.73)	36.823		No1と整合、第9回-3
9	01B75	3	剥片	珪質頁岩	6.60	4.05	1.50	26.79	36.770		
10	01B75	4	剥片	珪質頁岩	(2.74)	(2.09)	0.45	(1.35)	36.797		
11	01B75	5	剥片	珪質頁岩	3.00	3.41	0.77	4.89	36.806		No23と整合、第9回-15
12	01B75	6	剥片	黒曜石	(1.82)	1.47	0.28	(0.52)	37.047		
13	01B75	7	剥片	黒曜石	1.46	1.89	0.25	0.45	36.795		
14	01B75	8	剥片	安山岩	1.84	1.31	0.42	0.74	36.865		
15	01B75	9	石核	チャート	4.41	3.15	2.28	26.55	36.927		第10回-11
16	01B75	10	剥片	珪質頁岩	1.42	1.08	0.32	0.26	36.735		第9回-7
17	01B75	11	U R F	珪質頁岩	2.65	3.51	0.73	4.37	36.748		第9回-10
18	01B75	12	剥片	珪質頁岩	2.29	3.35	0.60	3.26	36.626		
19	01B75	13	石刃	珪質頁岩	(1.41)	1.43	0.43	(1.05)	36.677		第9回-6
20	01B75	14	剥片	珪質頁岩	1.41	2.05	0.35	0.49	36.672		
21	01B75	15	剥片	珪質頁岩	(0.75)	0.82	0.26	(0.15)	36.608		
22	01B75	16	剥片	珪質頁岩	3.00	2.67	1.28	7.48	36.586		
23	01B75	17	剥片	珪質頁岩	2.63	2.05	0.40	1.73	36.703		No11と整合、第10回-14
24	01B75	18	U R F	黒曜石	4.54	5.81	1.00	23.21	36.607		第9回-7
25	01B75	19	U R F	珪質頁岩	2.63	2.82	0.81	2.17	36.733		第9回-9
26	01B75	20	剥片	珪質頁岩	(1.15)	1.17	0.37	(0.29)	36.757		
27	01B75	21	剥片	安山岩	3.31	1.77	0.54	2.71	36.687		
28	01B75	22	剥片	安山岩	2.92	1.77	0.86	3.68	36.699		
29	01B75	23	剥片	珪質頁岩	1.19	0.98	0.19	0.20	36.745		
30	01B75	24	剥片	蛇岩	1.54	3.34	1.14	6.13	36.816		
31	01B75	25	剥片	安山岩	(2.60)	1.88	0.29	(1.48)	36.600		
32	01B75	26	剥片	珪質頁岩	(1.28)	1.25	0.28	(0.25)	36.667		
33	01B75	27	剥片	珪質頁岩	(1.44)	2.72	0.45	(1.20)	36.496		
34	01B75	28	ナイフ形石器	安山岩	3.60	1.74	1.11	5.14	36.455		第9回-2
35	01B83	1	薄片	砂岩				22.77	37.090	○	
36	01B83	2	薄片	砂岩				21.45	37.111	○	
37	01B83	3	薄片	砂岩				9.75	37.098	○	
38	01B83	4	薄片	ホルンフェルス				2.96	37.102	○	
39	01B83	5	薄片	砂岩				14.96	37.087	○	
40	01B83	6	薄片	砂岩				57.95	37.062	○	
41	01B83	7	その他					0.000			
42	01B83	8	尖頭器	安山岩	3.37	1.56	0.93	4.35	36.985		第14回-8
43	01B83	9	薄片	砂岩				20.59	37.036	○	
44	01B83	10-1	薄片	砂岩				5.70	37.013	○	
45	01B83	10-2	薄片	砂岩				1.95	37.013	○	
46	01B83	11	薄片	砂岩				32.93	36.973	○	
47	01B83	12	薄片	砂岩				6.82	36.968	○	
48	01B83	13	薄片	砂岩				8.18	36.991	○	
49	01B83	14	薄片	砂岩				16.03	37.005	○	
50	01B83	15	薄片	砂岩				3.40	36.961	○	
51	01B83	16	薄片	砂岩				9.00	37.001	○	
52	01B83	17	薄片	泥岩				34.58	37.058	○	
53	01B83	18	薄片	砂岩				5.82	37.046	○	
54	01B83	19	薄片	砂岩				12.01	37.096	○	
55	01B83	20	薄片	砂岩				10.38	37.063	○	
56	01B83	21	薄片	砂岩				20.87	37.023	○	
57	01B83	22	薄片	泥岩				15.40	37.030	○	
58	01B83	23	薄片	泥岩				23.89	37.069	○	
59	01B83	24	薄片	砂岩				36.66	37.064	○	
60	01B83	25	薄片	砂岩				10.04	37.061	○	
61	01B83	26	薄片	砂岩				3.86	37.050	○	
62	01B83	27-1	薄片	砂岩				12.33	37.144	○	
63	01B83	27-2	薄片	チャート				1.87	37.144	○	
64	01B83	28	薄片	砂岩				13.01	37.148	○	
65	01B83	29	薄片	砂岩				9.86	37.119	○	
66	01B83	30	剥片	黒曜石	1.35	1.92	0.90	2.07	37.110		
67	01B83	31	薄片	砂岩				12.32	37.126	○	
68	01B83	32-1	薄片	砂岩				3.68	37.131	○	

第1表石器属性表(2)

No.	グリッド	遺物番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	剥化	備考
69	01B83	32-2	鏃片	砂岩				18.24	37.131	○	
70	01B83	33	丸頭鏃	珪質頁岩	3.55	1.25	0.84	3.16	37.086	○	第14回-2
71	01B83	34	鏃片	砂岩				2.46	37.058		
72	01B83	35	鏃片	砂岩				6.52	37.128	○	
73	01B83	36	鏃片	砂岩				19.20	37.143	○	
74	01B83	37	鏃片	泥岩				5.12	36.989		
75	01B83	38	鏃片	ハンレイ岩				14.77	37.120		
76	01B83	39	鏃片	砂岩				8.34	37.153	○	
77	01B83	40	鏃片	砂岩				36.16	37.060	○	
78	01B83	41	鏃	チャート				104.88	37.066	○	
79	01B83	42	鏃片	ハンレイ岩				2.25	37.213		
80	01B83	43	鏃	チャート				76.80	37.039		
81	01B83	44	鏃片	泥岩				32.13	37.040		
82	01B83	45-1	鏃片	砂岩				4.34	37.080	○	
83	01B83	45-2	鏃片	砂岩				1.64	37.080		
84	01B83	46	鏃片	ホルンフェルス				44.63	37.261		
85	01B83	47	鏃片	砂岩				9.28	37.060	○	
86	01B83	48	鏃片	砂岩				13.01	37.000		
87	01B83	49	鏃片	砂岩				35.71	37.007	○	
88	01B83	50	鏃片	砂岩				12.15	36.960	○	
89	01B83	51	鏃片	砂岩				1.39	36.980	○	
90	01B83	52	鏃片	砂岩				2.25	36.960	○	
91	01B83	53	鏃片	砂岩				34.59	36.950	○	
92	01B83	54	鏃片	砂岩				0.97	37.065		
93	01B83	55	鏃片	砂岩				1.66	37.060	○	
94	01B83	56	鏃片	砂岩				9.77	37.020	○	
95	01B83	57	刮削	珪質頁岩	(2.32)	1.07	0.90	(1.30)	36.990		
96	01B83	58	鏃片	砂岩				1.73	37.020	○	
97	01B83	59	鏃片	砂岩				7.85	37.015	○	
98	01B83	60	鏃片	砂岩				56.47	37.030	○	
99	01B83	61	鏃片	砂岩				16.27	36.995	○	
100	01B83	62	鏃片	砂岩				40.25	36.995	○	
101	01B83	63	鏃片	砂岩				56.65	37.005	○	
102	01B83	64	鏃片	花崗岩				12.04	37.095	○	
103	01B83	65	鏃片	砂岩				4.29	37.054	○	
104	01B83	66	鏃片	砂岩				8.24	37.047	○	
105	01B83	67-1	鏃	砂岩				136.86	37.045	○	
106	01B83	67-2	鏃片	砂岩				30.47	37.045	○	
107	01B83	68-1	鏃片	砂岩				44.90	36.970	○	
108	01B83	68-2	鏃片	砂岩				30.28	36.970	○	
109	01B83	69	鏃片	砂岩				20.64	36.957	○	
110	01B83	70	鏃片	砂岩				1.36	36.975	○	
111	01B83	71	鏃片	砂岩				4.88	37.000	○	
112	01B83	72	刮削	珪質頁岩	1.57	2.42	0.58	2.13	36.995		
113	01B83	73	鏃片	ホルンフェルス				0.18	37.025		
114	01B83	74	鏃片	砂岩				68.21	37.035	○	
115	01B83	75	鏃片	砂岩				8.23	37.020	○	
116	01B83	76	鏃片	砂岩				18.27	37.037	○	
117	01B83	77	鏃片	砂岩				10.59	36.990	○	
118	01B83	78	鏃片	チャート				12.86	36.915	○	
119	01B83	79	鏃片	砂岩				27.27	36.955	○	
120	01B83	80	鏃片	石灰岩				0.33	36.977		
121	01B83	81	鏃片	砂岩				1.07	37.000		
122	01B83	82	鏃片	泥岩				6.51	36.955		
123	01B83	83	鏃片	砂岩				39.98	37.050	○	
124	01B83	84	鏃片	砂岩				4.78	36.965	○	
125	01B83	85	鏃	砂岩				257.78	37.030	○	
126	01B83	86	鏃片	ホルンフェルス				1.85	37.020		
127	01B83	87	鏃片	ホルンフェルス				0.83	37.018		
128	01B83	88	鏃片	砂岩				19.00	37.010	○	
129	01B83	89	鏃片	砂岩				46.16	37.000	○	
130	01B83	90	鏃片	砂岩				27.27	37.025	○	
131	01B83	91	鏃片	砂岩				16.24	36.980	○	
132	01B83	92	鏃片	砂岩				32.28	36.995	○	
133	01B83	93	鏃片	砂岩				13.04	37.025	○	
134	01B83	94	鏃片	砂岩				34.70	37.015	○	
135	01B83	95	石刀	珪質頁岩	3.41	0.59	0.42	0.51	36.965		第14回-3
136	01B83	96	鏃片	砂岩				2.51	36.965	○	

第1表石器属性表(3)

%	ブリッド	遺物番号	器種	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	赤化	備 考
137	01B83	97	礫片	砂岩				34.00	37.010	○	
138	01B83	98-1	礫片	砂岩				2.16	36.970	○	
139	01B83	98-2	礫片	砂岩				1.28	36.970		
140	01B83	98-3	礫片	砂岩				0.40	36.970	○	
141	01B83	98-4	礫片	石灰岩				0.59	36.970		
142	01B83	99	礫片	砂岩				2.44	37.020		
143	01B83	100	礫片	砂岩				94.72	36.940	○	
144	01B83	101	礫片	砂岩				2.92	36.995	○	
145	01B83	102	礫片	砂岩				0.54	36.930	○	
146	01B83	103	礫片	砂岩				4.91	36.910	○	
147	01B83	104	礫片	砂岩				47.54	36.950	○	
148	01B83	105	礫片	砂岩				4.27	36.900	○	
149	01B83	106	礫片	砂岩				20.40	36.830	○	
150	01B83	107	崩石	泥岩	6.94	4.88	1.91	69.48	36.860		
151	01B83	108	礫片	砂岩				0.57	36.830		
152	01B83	109	礫片	砂岩				2.01	36.935	○	
153	01B83	110	礫片	チャート				4.80	36.920	○	
154	01B83	111	礫片	砂岩				0.39	36.880		
155	01B83	112	礫片	砂岩				136.97	36.915	○	
156	01B83	113	削片	鉄石英(赤玉石)	2.47	3.27	1.15	10.46	36.950		
157	01B83	114	礫	石灰岩				0.56	36.990		
158	01B83	115	礫片	砂岩				11.62	36.920	○	
159	01B83	116	礫片	砂岩				8.22	36.980	○	
160	01B83	117	礫片	砂岩				7.58	37.000	○	
161	01B83	118	礫片	砂岩				27.46	36.970	○	
162	01B83	119	礫	砂岩				20.39	36.910	○	
163	01B83	120	礫片	砂岩				1.95	36.855	○	
164	01B83	121	削片	珩質頁岩	2.55	1.34	0.39	1.11	36.915		
165	01B83	122	礫片	砂岩				25.93	36.695	○	
166	01B83	123	礫片	砂岩				19.33	36.795	○	
167	01B83	124-1	礫片	砂岩				34.02	36.900	○	
168	01B83	124-2	礫片	砂岩				18.01	36.900	○	
169	01B83	125	礫片	砂岩				51.07	36.870	○	
170	01B83	126	礫片	泥岩				1.60	36.855		
171	01B83	127	その他					0.00			
172	01B83	128	礫片	砂岩				13.18	36.915	○	
173	01B83	129	削片	安山岩	1.77	3.21	0.38	1.64	36.935		
174	01B83	130	礫片	砂岩				16.38	36.935	○	
175	01B83	131	礫片	砂岩				4.88	36.940	○	
176	01B83	132	礫	安山岩				0.12	36.825		
177	01B83	133	礫片	砂岩				7.66	36.885	○	
178	01B83	134	礫片	泥岩				0.41	36.915		
179	01B83	135	その他					0.00			
180	01B83	136	礫片	砂岩				4.49	36.720	○	
181	01B83	137	礫片	砂岩				2.43	36.760	○	
182	01B83	138	礫片	砂岩				1.54	36.720	○	
183	01B83	139	礫片	砂岩				41.52	36.850	○	
184	01B83	140	削片	チャート	1.75	1.13	0.36	0.50	36.790		
185	01B83	141	礫片	砂岩				1.61	36.785	○	
186	01B83	142	礫片	砂岩				1.79	36.755	○	
187	01B83	143	礫片	砂岩				1.65	36.860	○	
188	01B83	144	礫片	砂岩				1.75	36.890	○	
189	01B83	145	その他					0.00			
190	01B83	146	礫片	砂岩				15.33	36.880	○	
191	01B83	147	礫片	砂岩				3.32	36.835	○	
192	01B83	148	礫片	砂岩				1.05	36.715	○	
193	01B83	149	その他					0.00			
194	01B83	150	礫片	砂岩				0.42	36.805		
195	01B83	151	礫片	砂岩				2.50	36.875	○	
196	01B83	152	礫片	砂岩				7.65	36.905	○	
197	01B83	153	礫片	砂岩				15.22	36.910	○	
198	01B83	154	礫片	砂岩				46.83	36.905	○	
199	01B83	155	礫片	砂岩				8.73	36.980	○	
200	01B83	156	礫片	砂岩				0.73	36.990		
201	01B83	157	礫片	砂岩				0.64	36.885	○	
202	01B83	158	礫片	砂岩				4.32	36.920	○	
203	01B83	159	礫片	砂岩				1.48	36.920	○	
204	01B83	160	礫片	砂岩				7.56	36.905	○	

第1表石器属性表(4)

No	グリップ	遺物番号	部	種	石	材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	赤化	備	考
205	01B83	161	破片		砂岩					35.66	36.985	○		
206	01B83	162	破片		砂岩					7.20	36.945	○		
207	01B83	163	破片		泥岩					1.79	36.935	○		
208	01B83	164	破片		砂岩					5.92	36.876	○		
209	01B83	165	その他								0.000			
210	01B83	166	破片		砂岩					38.16	36.865	○		
211	01B83	167	破片		石灰岩					0.12	36.960	○		
212	01B83	168	破片		砂岩					8.40	36.800	○		
213	01B83	169	破片		泥岩					11.48	36.840	○		
214	01B83	170-1	破片		砂岩					1.59	36.916	○		
215	01B83	170-2	破片		砂岩					0.75	36.916	○		
216	01B83	171	破片		砂岩					4.62	36.740	○		
217	01B83	172	破片		砂岩					0.18	36.805	○		
218	01B83	173	破片		砂岩					6.47	36.837	○		
219	01B83	174	破片		砂岩					0.14	36.866	○		
220	01B83	175	破片		砂岩					681.04	36.795	○		
221	01B83	176	破片		砂岩					13.62	36.826	○		
222	01B83	177	破片		砂岩					54.43	36.837	○		
223	01B83	178-1	破片		泥岩					8.03	36.643	○		
224	01B83	178-2	破片		泥岩					23.11	36.643	○		
225	01B83	178-3	破片		泥岩					5.25	36.643	○		
226	01B83	179-1	剥片		安山岩					0.23	36.778	○		
227	01B83	179-2	破片		砂岩					15.63	36.778	○		
228	01B83	179-3	破片		砂岩					3.54	36.778	○		
229	01B83	179-4	破片		砂岩					0.85	36.778	○		
230	01B83	180-1	破片		砂岩					10.80	36.618	○		
231	01B83	180-2	破片		砂岩					2.59	36.618	○		
232	01B83	181	破片		砂岩					10.34	36.720	○		
233	01B83	182-1	破片		砂岩					41.87	36.570	○		
234	01B83	182-2	破片		砂岩					0.97	36.570	○		
235	01B83	183	破片		砂岩					2.06	36.535	○		
236	01B83	184	破片		泥岩					3.05	36.485	○		
237	01B83	185	破片		砂岩					5.33	36.540	○		
238	01B83	186	破片		砂岩					4.35	36.505	○		
239	01B83	187	破片		砂岩					4.28	36.520	○		
240	01B83	188	破片		チャート					1.83	36.495	○		
241	01B84	1	石刃		珧質頁岩		3.31	1.38	1.04	2.21	37.139	○	第9回-4	
242	01B84	2	剥片		安山岩		3.04	2.15	1.16	6.06	37.153	○		
243	01B84	3	剥片		珧質頁岩		(1.94)	2.30	0.19	(0.68)	36.996	○		
244	01B84	4	剥片		黒曜石		(1.86)	1.50	0.42	(0.73)	36.760	○		
245	01B84	5	剥片		石英		(1.83)	1.35	0.77	(1.95)	36.595	○		
246	01B84	6-1	剥片		珧質頁岩		(1.77)	1.96	0.45	(1.50)	36.922	○		
247	01B84	6-2	剥片		珧質頁岩		(1.75)	1.19	0.35	(0.42)	36.922	○		
248	01B84	7	破片		砂岩					4.29	37.118	○		
249	01B85	1	石核		珧質頁岩		2.71	2.68	2.20	14.10	36.963	○	第10回-12	
250	01B85	2	U R F		珧質頁岩		2.10	1.75	0.54	1.12	37.025	○	第9回-8	
251	01B85	3	剥片		安山岩		1.03	2.04	0.55	0.87	36.811	○		
252	01B85	4	剥片		安山岩		1.87	1.63	0.42	0.95	36.559	○		
253	01B85	5	剥片		安山岩		3.38	3.03	1.34	8.18	36.467	○		
254	01B92	1	破片		砂岩					2.21	36.800	○		
255	01B92	2	破片		砂岩					44.55	36.891	○		
256	01B92	3	その他								0.000			
257	01B92	4	破片		砂岩					12.12	36.789	○		
258	01B92	5	破片		泥岩					3.62	36.896	○		
259	01B92	6	破片		砂岩					10.54	36.830	○		
260	01B92	7	破片		砂岩					12.40	37.040	○		
261	01B92	8	破片		砂岩					18.75	36.900	○		
262	01B92	9	破片		砂岩					9.27	37.070	○		
263	01B92	10	破片		砂岩					3.20	36.760	○		
264	01B92	11	破片		砂岩					7.96	37.056	○		
265	01B92	12	破片		泥岩					25.20	37.010	○		
266	01B92	13	破片		チャート					4.94	37.030	○		
267	01B92	14	破片		砂岩					36.77	37.010	○		
268	01B92	15	破片		砂岩					13.53	37.080	○		
269	01B92	16-1	破片		砂岩					16.45	36.940	○		
270	01B92	16-2	破片		砂岩					7.92	36.940	○		
271	01B92	16-3	破片		砂岩					5.80	36.940	○		
272	01B92	16-4	破片		砂岩					3.60	36.940	○		

第1表石器属性表(5)

No	ドリッド	遺物番号	器 種	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	赤化	備 考
273	01B92	17	礫片	砂岩				28.17	37.090	○	
274	01B92	18	礫片	砂岩				1.10	37.100	○	
275	01B92	19	礫片	砂岩				9.54	37.000	○	
276	01B92	20	礫片	泥岩				6.24	36.950	○	or凝灰質砂岩
277	01B92	21	礫片	砂岩				28.01	37.050		
278	01B92	22	礫片	砂岩				52.06	37.030	○	
279	01B92	23	その他						0.000		
280	01B92	24	礫片	泥岩				62.77	36.950		
281	01B92	25	礫片	砂岩				10.41	36.935	○	
282	01B92	26	礫片	砂岩				17.88	36.955	○	
283	01B92	27	礫片	砂岩				6.75	36.960	○	
284	01B92	28	礫片	砂岩				1.23	36.935		
285	01B92	29	礫片	泥岩				3.01	36.900		
286	01B92	30	礫片	砂岩				33.15	36.765	○	
287	01B92	31	その他								
288	01B92	32	礫片	泥岩				1.31	36.750	○	
289	01B92	33	巖石	泥岩	6.79	4.37	3.07	123.61	36.745		第14図-6
290	01B93	1	礫片	砂岩				10.70	36.910	○	
291	01B93	2	礫片	砂岩				2.08	37.030		
292	01B93	3	礫片	泥岩				3.37	37.170		
293	01B93	4	礫片	砂岩				23.48	37.015	○	
294	01B93	5	礫片	砂岩				8.18	36.825	○	
295	01B93	6	礫片	砂岩				3.16	36.800	○	
296	01B93	7	礫片	チャート				7.24	36.860	○	
297	01B93	8	礫片	ホルンフェルス				20.82	36.820	○	
298	01B93	9-1	礫片	砂岩				2.94	36.785	○	
299	01B93	9-2	礫片	砂岩				3.51	36.785	○	
300	01B93	10	切片	チャート	(1.85)	2.18	0.46	(1.01)	36.800		
301	01B93	11	礫片	砂岩				4.56	36.795	○	
302	01B93	12	礫片	砂岩				41.86	36.805	○	
303	01B93	13	礫片	砂岩				4.01	36.835	○	
304	01B93	14	礫片	砂岩				13.76	36.800	○	
305	01B93	15	礫片	砂岩				0.73	36.825	○	
306	01B93	16	礫片	砂岩				9.48	36.880	○	
307	01B93	17	礫片	砂岩				7.52	36.820	○	
308	01B93	18	その他						0.000		
309	01B93	19	礫片	砂岩				3.48	36.785	○	
310	01B93	20	礫片	砂岩				4.38	36.820	○	
311	01B93	21	礫片	チャート				3.55	36.850	○	
312	01B93	22	礫片	砂岩				1.13	36.845	○	
313	01B93	23	礫片	砂岩				13.13	36.875	○	
314	01B93	24	礫片	凝灰質砂岩				3.82	36.810		
315	01B93	25	礫片	砂岩				3.78	36.875	○	
316	01B93	26	礫片	砂岩				13.84	36.875	○	
317	01B93	27	礫片	砂岩				3.38	36.810	○	
318	01B93	28-1	礫片	砂岩				3.42	36.850	○	
319	01B93	28-2	礫片	泥岩				5.50	36.850	○	
320	01B93	29	礫片	砂岩				19.12	36.880	○	
321	01B93	30	礫片	砂岩				9.94	37.030	○	
322	01B93	31-1	礫片	砂岩				0.64	37.030	○	
323	01B93	31-2	礫片	砂岩				7.63	37.030	○	
324	01B93	32	礫片	砂岩				7.32	36.840	○	
325	01B93	33	礫片	砂岩				5.73	36.840	○	
326	01B93	34	礫片	砂岩				9.01	36.835	○	
327	01B93	35	礫片	砂岩				5.96	37.055	○	
328	01B93	36	礫片	砂岩				5.90	36.990	○	
329	01B93	37	礫片	砂岩				4.08	37.030	○	
330	01B93	38	礫片	砂岩				7.09	36.955		
331	01B93	39-1	礫片	砂岩				7.55	36.915		
332	01B93	39-2	礫片	砂岩				11.02	36.915	○	
333	01B93	40	礫片	砂岩				2.78	36.812	○	
334	01B93	41	礫片	チャート				17.40	37.030	○	
335	01B93	42	礫片	砂岩				6.62	37.045	○	
336	01B93	43	礫片	砂岩				6.78	37.055	○	
337	01B93	44	礫片	チャート				11.24	37.120	○	
338	01B93	45	礫片	砂岩				9.04	37.070	○	
339	01B93	46	礫片	砂岩				5.78	37.135	○	
340	01B93	47	礫片	砂岩				25.90	37.070	○	

第1表石器属性表(6)

No	グリッド	遺物番号	種	種	石	材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベラ(m)	赤化	備	考
341	01B93	48	礫片			ホルンフェルス				5.11	37.130	○		
342	01B93	49	礫片			砂岩				6.31	36.920	○		
343	01B93	50	礫片			砂岩				14.62	36.800	○		
344	01B93	51	礫片			チャート				12.64	37.010	○		
345	01B93	52	礫片			砂岩				13.82	36.980	○		
346	01B93	53	礫片			砂岩				39.09	36.930	○		
347	01B93	54	礫片			砂岩				97.88	36.865	○		
348	01B93	55	礫片			砂岩				46.68	36.880	○		
349	01B93	56	礫片			砂岩				9.37	36.865	○		
350	01B93	57	礫片			砂岩				16.50	36.900	○		
351	01B93	58	礫片			砂岩				17.44	36.915	○		
352	01B93	59	礫片			砂岩				26.51	36.860	○		
353	01B93	60	礫片			砂岩				32.98	36.825	○		
354	01B93	61	礫片			ホルンフェルス				24.48	36.740	○		
355	01B93	62	礫片			砂岩				27.91	36.765	○		
356	01B93	63	その他							0.000				
357	01B93	64	礫片			砂岩				16.59	36.755	○		
358	01B93	65	礫片			砂岩				15.91	36.770	○		
359	01B93	66	礫片			砂岩				17.79	36.760	○		
360	01B93	67	礫片			砂岩				6.19	36.720	○		
361	01B93	68	礫片			砂岩				16.08	36.790	○		
362	01B93	69	礫片			砂岩				26.54	36.750	○		
363	01B93	70	礫片			砂岩				33.52	36.795	○		
364	01B93	71	礫片			砂岩				9.82	36.730	○		
365	01B93	72	礫片			砂岩				16.83	36.740	○		
366	01B93	73	URF			珧質頁岩	2.29	2.30	1.30	2.86	36.755		第14図-4	
367	01B93	74	礫片			砂岩				1.09	36.725			
368	01B93	75	礫片			砂岩				1.00	36.730	○		
369	01B93	76	礫片			砂岩				5.38	36.730	○		
370	01B93	77	礫片			砂岩				21.89	36.720	○		
371	01B93	78	礫片			砂岩				2.60	36.730	○		
372	01B93	79	礫片			砂岩				7.51	36.700	○		
373	01B93	80	礫片			砂岩				3.10	36.730	○		
374	01B93	81	礫片			砂岩				7.77	36.720	○		
375	01B93	82	礫片			砂岩				13.26	36.730	○		
376	01B93	83	礫片			高灰質砂岩				7.50	36.955	○		
377	01B93	84	礫片			砂岩				5.19	37.120	○		
378	01B93	85	礫片			砂岩				46.63	36.790	○		
379	01B93	86	礫片			火山岩	2.40	2.56	0.61	2.33	36.765			
380	01B93	87	礫片			砂岩				4.02	36.890	○		
381	01B93	88	礫片			砂岩				2.15	36.870	○		
382	01B93	89	礫片			砂岩				1.11	36.825			
383	01B93	90	礫片			チャート				9.11	36.880	○		
384	01B93	91	石核			チャート	2.81	2.01	1.95	17.06	36.826		第14図-5	
385	01B93	92	礫片			砂岩				5.53	37.180	○		
386	01B93	93	礫片			砂岩				12.09	36.960	○		
387	01B93	94	礫片			砂岩				7.72	37.020	○		
388	01B93	95	礫片			砂岩				13.07	37.010	○		
389	01B93	96	礫片			砂岩				1.29	36.705	○		
390	01B93	97	礫片			砂岩				1.71	36.700	○		
391	01B93	98	礫片			砂岩				4.84	36.700	○		
392	01B93	99	礫片			砂岩				5.47	36.700	○		
393	01B93	100	礫片			砂岩				11.25	36.685	○		
394	01B93	101-1	礫片			砂岩				33.78	36.665	○		
395	01B93	101-2	礫片			砂岩				1.24	36.665	○		
396	01B93	101-3	礫片			砂岩				0.63	36.665	○		
397	01B93	101-4	礫片			砂岩				2.13	36.665	○		
398	01B93	101-5	礫片			砂岩				1.08	36.665	○		
399	01B93	101-6	礫片			砂岩				1.00	36.665	○		
400	01B93	101-7	礫片			砂岩				0.41	36.665	○		
401	01B93	102-1	礫片			砂岩				0.84	36.695	○		
402	01B93	102-2	礫片			チャート				0.60	36.695	○		
403	01B93	103	礫片			砂岩				2.32	36.720	○		
404	01B93	104	礫片			砂岩				23.67	36.720	○		
405	01B93	105	礫片			砂岩				1.15	36.735	○		
406	01B93	106	礫片			砂岩				4.28	36.700	○		
407	01B93	107	礫片			砂岩				12.99	36.730	○		
408	01B93	108	礫片			砂岩				3.20	36.715	○		

第1表石器属性表(7)

No	グリップ	遺物番号	部	種	石	材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	剥化	備	考
409	01B93	109	破片		砂岩					8.10	36.725	○		
410	01B93	110	破片		砂岩					9.57	36.700	○		
411	01B93	111	破片		砂岩					35.85	36.850	○		
412	01B93	112	破片		砂岩					5.19	36.765	○		
413	01B93	113	破片		砂岩					9.85	36.770	○		
414	01B93	114	剥片		安山岩	(2.34)	2.29	0.49	(1.79)	36.765				
415	01B93	115	破片		砂岩					3.31	36.740	○		
416	01B93	116	破片		砂岩					0.22	36.680	○		
417	01B93	117	破片		砂岩					9.17	36.715	○		
418	01B93	118	破片		砂岩					62.70	36.690	○		
419	01B93	119	破片		砂岩					2.52	36.700	○		
420	01B93	120	破片		砂岩					30.44	36.705	○		
421	01B93	121	破片		砂岩					1.39	36.695	○		
422	01B93	122	破片		砂岩					0.63	36.735	○		
423	01B93	123	破片		砂岩					1.90	36.685	○		
424	01B93	124	破片		砂岩					2.99	36.710	○		
425	01B93	125	破片		砂岩					2.56	36.760	○		
426	01B93	126	破片		砂岩					17.26	36.720	○		
427	01B93	127	破片		砂岩					42.55	36.670	○		
428	01B93	128	破片		砂岩					13.65	36.675	○		
429	01B93	129	破片		砂岩					23.13	36.675	○		
430	01B93	130	破片		砂岩					66.14	36.665	○		
431	01B93	131	破片		砂岩					0.79	36.670	○		
432	01B93	132	破片		砂岩					52.64	36.650	○		
433	01B93	133	破片		砂岩					26.69	36.655	○		
434	01B93	134	破片		砂岩					18.74	36.655	○		
435	01B93	135	破片		砂岩					1.29	36.690	○		
436	01B93	136	破片		砂岩					9.84	36.610	○		
437	01B93	137-1	破片		石灰岩					0.36	36.665	○		
438	01B93	137-2	破片		石灰岩					0.19	36.695	○		
439	01B93	138	破片		砂岩					17.77	36.660	○		
440	01B93	139	破片		泥岩					0.99	36.645	○		
441	01B93	140	破片		砂岩					1.39	36.670	○		
442	01B93	141	破片		砂岩					0.75	36.700	○		
443	01B93	142	破片		砂岩					2.57	36.655	○		
444	01B93	143	破片		砂岩					1.78	36.640	○		
445	01B93	144	破片		砂岩					1.88	36.635	○		
446	01B93	145	破片		砂岩					6.00	36.610	○		
447	01B93	146	破片		砂岩					2.69	36.610	○		
448	01B93	147	破片		砂岩					0.94	36.660	○		
449	01B93	148	破片		砂岩					0.21	36.605	○		
450	01B93	149	破片		砂岩					6.18	36.615	○		
451	01B93	150	破片		砂岩					7.08	36.620	○		
452	01B93	151	破片		砂岩					2.73	36.605	○		
453	01B93	152	破片		砂岩					46.88	36.585	○		
454	01B93	153	破片		砂岩					2.43	36.570	○		
455	01B93	154	剥片		安山岩	(1.33)	1.42	0.20	(0.39)	36.575				
456	01B93	155	破片		砂岩					0.96	36.885	○		
457	01B93	156	破片		砂岩					3.10	36.690	○		
458	01B93	157	剥片		風靡石	0.95	0.74	0.39	0.12	36.685				
459	01B93	158	破片		砂岩					4.83	36.570	○		
460	01B93	159	破片		砂岩					25.85	36.585	○		
461	01B93	160-1	破片		砂岩					0.64	36.600	○		
462	01B93	160-2	破片		石灰岩					0.33	36.600	○		
463	01B93	161	破片		砂岩					7.35	36.575	○		
464	01B93	162	破片		チャート					6.23	36.640	○		
465	01B93	163	破片		チャート					0.85	36.635	○		
466	01B93	164	破片		砂岩					33.87	36.625	○		
467	01B93	165	破片		砂岩					7.17	36.620	○		
468	01B93	166	破片		砂岩					0.77	36.565	○		
469	01B93	167	破片		砂岩					5.96	36.710	○		
470	01B93	168	破片		砂岩					1.33	36.650	○		
471	01B93	169	破片		砂岩					4.45	36.600	○		
472	01B93	170	破片		砂岩					14.77	36.540	○		
473	01B93	171	破片		砂岩					41.91	36.560	○		
474	01B93	172	破片		砂岩					18.08	36.545	○		
475	01B93	173	破片		砂岩					1.45	36.530	○		
476	01B93	174-1	破片		砂岩					12.26	36.560	○		

第1表石器属性表(8)

No.	グリッド	遺物番号	部 類	石 材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	赤化	備 考
477	01B93	174-2	薄片	砂岩				8.75	36.560	○	
478	01B93	175	薄片	砂岩				1.29	36.510		
479	01B93	176-1	薄片	砂岩				24.28	36.510	○	
480	01B93	176-2	薄片	砂岩				1.79	36.510		
481	01B93	177	薄片	砂岩				2.77	36.450	○	
482	01B93	178	薄片	砂岩				52.07	38.442	○	
483	01B93	179-1	薄片	チャート				1.91	36.460	○	
484	01B93	179-2	薄片	砂岩				3.11	36.460	○	
485	01B93	180	薄片	砂岩				12.86	36.467	○	
486	01B93	181-1	薄片	砂岩				20.91	36.468	○	
487	01B93	181-2	薄片	砂岩				5.03	36.468	○	
488	01B93	181-3	薄片	砂岩				15.85	36.468	○	
489	01B93	181-4	薄片	砂岩				14.25	36.468	○	
490	01B93	181-5	薄片	砂岩				0.88	36.468	○	
491	01B93	181-6	薄片	砂岩				6.80	36.468	○	
492	01B93	182-1	薄片	チャート				3.44	36.478	○	
493	01B93	182-2	薄片	砂岩				0.56	36.478	○	
494	01B93	182-3	薄片	砂岩				0.54	36.478	○	
495	01B93	182-4	薄片	砂岩				10.71	36.478	○	
496	01B93	182-5	薄片	砂岩				6.22	36.478	○	
497	01B93	182-6	薄片	砂岩				2.35	36.478	○	
498	01B93	182-7	薄片	砂岩				0.53	36.478	○	
499	01B93	182-8	薄片	砂岩				0.11	36.478		
500	01B93	183	薄片	砂岩				8.32	36.460	○	
501	01B93	184-1	薄片	砂岩				8.19	36.468	○	
502	01B93	184-2	薄片	砂岩				1.91	36.468		
503	01B93	184-3	薄片	砂岩				0.71	36.468		
504	01B93	185	薄片	砂岩				1.75	36.409		
505	01B93	186	薄片	砂岩				24.41	36.409	○	
506	01B93	187-1	薄片	チャート				1.39	36.411	○	
507	01B93	187-2	薄片	チャート				0.86	36.411	○	
508	01B93	188	薄	砂岩				74.81	36.390	○	
509	01B93	189	薄片	砂岩				1.51	36.355	○	
510	01B93	190	薄片	砂岩				3.64	36.355	○	
511	01B93	191	薄片	砂岩				4.56	36.405	○	
512	01B93	192	薄片	砂岩				44.78	36.370	○	
513	02B02	1	薄片	砂岩				20.54	36.970	○	
514	02B02	2	薄片	砂岩				5.87	37.090	○	
515	02B02	3	薄片	砂岩				10.49	36.980		
516	02B02	4	薄片	砂岩				9.31	36.960	○	
517	02B02	5	薄片	砂岩				1.70	36.960		
518	02B02	6	薄片	砂岩				18.71	36.910	○	
519	02B02	7	薄片	砂岩				5.54	36.920	○	
520	02B02	8	薄片	砂岩				3.80	36.880	○	
521	02B02	9	薄片	砂岩				54.54	36.860	○	
522	02B02	10	薄片	砂岩				10.33	36.970	○	
523	02B02	11-1	薄片	砂岩				44.29	36.960		
524	02B02	11-2	薄片	砂岩				13.01	36.960		
525	02B02	12	薄片	砂岩				3.62	36.990		
526	02B02	13-1	薄片	砂岩				13.31	36.890	○	
527	02B02	13-2	薄片	砂岩				1.13	36.890	○	
528	02B02	13-3	薄片	砂岩				2.22	36.890	○	
529	02B02	14	薄片	砂岩				15.97	36.920	○	
530	02B02	15-1	薄片	火山岩				0.09	37.075		
531	02B02	15-2	薄片	砂岩				0.02	37.075	○	
532	02B03	1	薄片	砂岩				75.02	36.805	○	
533	02B03	2	薄片	砂岩				8.79	37.000	○	
534	02B03	3	薄	砂岩				62.24	36.975		
535	02B03	4	薄片	砂岩				49.27	36.900	○	
536	02B03	5	巖石	砂岩	6.96	6.38	2.56	136.63	37.245		第14図-7
537	02B03	6	剥片	黒曜石	2.61	2.21	0.57	2.21	0.900		
538	02B13	1	薄片	砂岩				18.70	37.092	○	
539	02B13	2	薄片	砂岩				13.24	37.243	○	

第1表石器属性表(9)

No.	グリッド	遺物番号	部	種	石	材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	レベル(m)	非化	備考
540	02B25	1	剥片		黒曜石		2.29	2.54	0.49	2.25	36.924		
541	02B27	1	剥片		砂岩					0.35	37.298		
542	02B85	1	U R F		珪質頁岩		3.57	2.90	0.76	2.66	37.155		第17図-1
543	02B92	1	剥片		安山岩		2.82	3.80	1.15	8.91	36.325		*
544	02B93	1	剥片		黒曜石		4.55	2.98	2.54	18.15	36.606		*
545	02B94	1	ナイフ形石鏃		珪質頁岩		3.48	1.52	0.80	3.73	36.391		第17図-4
546	03B03	1	U R F		珪質頁岩		3.14	1.74	0.56	2.93	37.082		第17図-2
547	03B03	2	剥片		黒曜石		2.45	0.86	0.78	1.41	37.243		*
548	03B05	1	U R F		黒曜石		1.41	1.51	0.46	0.77	36.910		第17図-3
550	03B19	1	鏃片		チャート					59.31	36.570		

※属性表のうち、石種については長さ・幅・厚さ・重量について、鏃・鏃片については重量のみ計測を実施した。

※計測値の欄で(数字)は欠損しているので現存値を記入した。

※備考欄に*印のあるものは石畑集地点2から出土した遺物を示す。

第2表 礫母岩別接合表(1)

接合グループ	グリッド	遺物番号	石 材
--------	------	------	-----

No01	01B83	78	チャート
No01	01B83	110	チャート
No01	01B92	13	チャート
No01	01B93	7	チャート
No01	01B93	21	チャート
No01	01B93	41	チャート
No01	01B93	44	チャート
No01	01B93	51	チャート
No01	01B93	162	チャート

No02	01B83	69	砂岩
No02	01B83	98-1	砂岩
No02	01B83	168	砂岩
No02	01B83	180-1	砂岩
No02	01B83	180-2	砂岩
No02	01B83	183	砂岩
No02	01B83	187	砂岩
No02	01B93	81	砂岩

No03	01B83	40	砂岩
No03	01B93	47	砂岩

No04	01B83	49	砂岩
No04	01B83	173	砂岩
No04	01B93	151	砂岩
No04	01B93	152	砂岩

No05	01B83	101	砂岩
No05	01B93	9-1	砂岩
No05	01B93	28-1	砂岩
No05	01B93	16	砂岩
No05	01B93	84	砂岩

No06	01B83	74	砂岩
No06	01B83	75	砂岩
No06	01B83	76	砂岩
No06	01B83	116	砂岩

No07	01B83	13	砂岩
No07	01B83	56	砂岩
No07	01B83	59	砂岩
No07	01B83	65	砂岩
No07	01B83	83	砂岩
No07	01B83	164	砂岩

No08	01B83	17	泥岩
No08	01B83	22	泥岩
No08	01B83	23	泥岩
No08	01B83	64	泥岩
No08	01B83	169	泥岩

No09	01B92	9	砂岩
No09	02B03	2	砂岩

接合グループ	グリッド	遺物番号	石 材
--------	------	------	-----

No10	01B83	128	砂岩
No10	01B83	176	砂岩
No10	01B83	177	砂岩

No11	01B83	6	砂岩
No11	01B83	31	砂岩
No11	01B83	32-2	砂岩
No11	01B83	50	砂岩
No11	01B83	60	砂岩
No11	01B83	79	砂岩
No11	01B83	91	砂岩
No11	01B83	97	砂岩
No11	01B83	100	砂岩
No11	01B83	137	砂岩
No11	01B83	139	砂岩
No11	01B92	2	砂岩
No11	01B92	30	砂岩
No11	01B93	23	砂岩
No11	01B93	87	砂岩
No11	01B93	127	砂岩
No11	01B93	130	砂岩

No12	01B83	1	砂岩
No12	01B83	2	砂岩
No12	01B83	47	砂岩
No12	01B83	71	砂岩
No12	01B93	53	砂岩
No12	01B93	92	砂岩

No13a	01B83	161	砂岩
No13a	01B93	31-1	砂岩
No13a	01B93	40	砂岩
No13a	01B93	77	砂岩
No13a	01B93	111	砂岩
No13a	01B93	155	砂岩
No13a	01B93	158	砂岩
No13b	01B83	14	砂岩
No13b	02B02	9	砂岩

No14	01B83	112	砂岩
No14	01B83	175	砂岩
No14	01B93	93	砂岩
No14	01B93	94	砂岩

No15	01B83	124-1	砂岩
No15	01B83	125	砂岩
No15	01B83	147	砂岩
No15	01B92	4	砂岩
No15	01B93	1	砂岩
No15	01B93	138	砂岩
No15	01B93	159	砂岩
No15	01B93	171	砂岩
No15	01B93	176-1	砂岩

第2表 礫母岩別接合表(2)

接合グループ	グリッド	遺物番号	石 材
--------	------	------	-----

No16	01B83	12	砂岩
No16	01B83	19	砂岩
No16	01B83	20	砂岩
No16	01B83	26	砂岩
No16	01B83	63	砂岩
No16	01B83	67-2	砂岩
No16	01B83	68-1	砂岩
No16	01B83	68-2	砂岩
No16	01B83	99	砂岩
No16	01B83	117	砂岩
No16	01B83	153	砂岩
No16	01B83	179-2	砂岩
No16	01B83	179-3	砂岩
No16	01B93	36	砂岩
No16	01B93	39-1	砂岩
No16	01B93	59	砂岩
No16	01B93	65	砂岩
No16	01B93	67	砂岩
No16	01B93	85	砂岩
No16	01B93	98	砂岩
No16	01B93	103	砂岩
No16	01B93	106	砂岩
No16	01B93	119	砂岩
No16	01B93	132	砂岩
No16	01B93	182-5	砂岩
No16	02B02	14	砂岩

No17	01B93	8	ホルンフェルス
No17	01B93	48	ホルンフェルス

No18a	01B83	32-1	砂岩
No18a	01B83	146	砂岩
No18a	01B93	56	砂岩
No18a	02B03	4	砂岩
No18b	01B83	18	砂岩
No18b	01B83	96	砂岩
No18b	01B83	133	砂岩
No18b	01B83	142	砂岩
No18b	01B83	181	砂岩
No18b	01B83	186	砂岩
No18b	01B84	7	砂岩
No18b	01B93	4	砂岩
No18b	01B93	39-2	砂岩
No18b	01B93	42	砂岩
No18b	01B93	66	砂岩
No18b	01B93	68	砂岩
No18b	01B93	72	砂岩
No18c	02B13	1	砂岩
No18c	02B13	2	砂岩

No19a	01B93	30	砂岩
No19a	01B93	45	砂岩
No19b	01B83	118	砂岩
No19b	01B92	1	砂岩
No19c	01B83	89	砂岩

接合グループ	グリッド	遺物番号	石 材
--------	------	------	-----

No19c	01B83	94	砂岩
No19c	01B93	55	砂岩
No19c	01B93	113	砂岩
No19d	01B83	104	砂岩
No19d	02B03	1	砂岩

No20a	01B93	100	砂岩
No20a	01B93	101-1	砂岩
No20a	01B93	101-2	砂岩
No20a	01B93	101-3	砂岩
No20b	01B93	38	砂岩
No20b	01B93	58	砂岩
No20b	01B93	79	砂岩

No21a	01B92	27	砂岩
No21a	01B93	161	砂岩
No21b	01B92	6	砂岩
No21b	01B93	50	砂岩
No21b	01B93	125	砂岩

No22a	01B92	11	砂岩
No22a	02B02	3	砂岩
No22b	01B83	66	砂岩
No22b	01B83	105	砂岩
No22c	01B83	61	砂岩
No22c	01B93	112	砂岩
No22c	01B93	121	砂岩
No22d	01B83	3	砂岩
No22d	01B92	15	砂岩
No22d	01B92	16-1	砂岩
No22d	01B92	16-2	砂岩
No22d	01B92	16-3	砂岩
No22d	01B92	25	砂岩
No22d	01B93	129	砂岩
No22d	01B93	172	砂岩
No22d	01B93	174-1	砂岩
No22d	01B93	174-2	砂岩
No22d	01B93	181-2	砂岩
No22d	01B93	181-3	砂岩
No22d	01B93	181-4	砂岩
No22d	01B93	181-5	砂岩
No22d	01B93	182-2	砂岩
No22d	01B93	182-3	砂岩
No22e	01B93	57	砂岩
No22e	01B93	99	砂岩
No22e	01B93	156	砂岩
No22f	01B93	33	砂岩
No22f	01B93	62	砂岩
No22f	01B93	117	砂岩
No22f	01B93	133	砂岩
No22f	01B93	149	砂岩
No22f	01B93	153	砂岩
No22g	01B93	69	砂岩
No22g	01B93	178	砂岩
No22h	01B83	122	砂岩
No22h	01B83	136	砂岩

第2表 礫母岩別接合表(3)

接合グループ	グリッド	遺物番号	石 材
--------	------	------	-----

No23a	01B93	14	砂岩
No23a	01B93	76	砂岩
No23b	01B83	29	砂岩
No23b	01B83	36	砂岩
No23b	01B83	130	砂岩
No23b	01B83	131	砂岩
No23c	01B93	22	砂岩
No23c	01B93	60	砂岩
No23c	01B93	109	砂岩
No23c	01B93	134	砂岩
No23c	01B93	144	砂岩
No23d	01B83	16	砂岩
No23d	01B83	28	砂岩
No23d	01B83	77	砂岩
No23e	01B74	2-2	砂岩
No23e	01B83	171	砂岩
No23e	01B93	5	砂岩
No23e	01B93	164	砂岩
No23e	01B93	165	砂岩
No23f	01B92	7	砂岩
No23f	01B93	20	砂岩

No24a	01B83	9	砂岩
No24a	01B83	62	砂岩
No24a	01B83	93	砂岩
No24a	01B83	152	砂岩
No24b	01B92	26	砂岩
No24b	01B93	64	砂岩
No24b	01B93	170	砂岩

No25a	01B83	39	砂岩
No25a	01B83	92	砂岩
No25a	01B93	17	砂岩
No25b	01B93	189	砂岩
No25b	01B93	190	砂岩
No25c	01B83	5	砂岩
No25c	01B83	141	砂岩
No25c	01B83	166	砂岩
No25c	01B93	43	砂岩
No25c	01B93	115	砂岩
No25c	01B93	136	砂岩
No25c	02B02	7	砂岩

接合グループ	グリッド	遺物番号	石 材
--------	------	------	-----

No26	01B93	70	砂岩
No26	01B93	110	砂岩

No27	01B93	71	砂岩
No27	01B93	167	砂岩
No27	01B93	184-1	砂岩

No28	02B02	8	砂岩
No28	02B02	13-1	砂岩
No28	02B02	13-2	砂岩
No28	02B02	13-3	砂岩

No29	01B93	182-4	砂岩
No29	01B93	186	砂岩

No30a	01B93	12	砂岩
No30a	01B93	19	砂岩
No30b	01B93	181-1	砂岩
No30b	01B93	191	砂岩
No30b	02B02	1	砂岩
No30c	01B83	115	砂岩
No30c	01B93	128	砂岩

No31	01B83	160	砂岩
No31	01B93	104	砂岩
No31	01B93	107	砂岩

No32a	01B92	5	泥岩
No32a	01B92	12	泥岩
No32a	01B93	28-2	泥岩
No32a	01B92	32	泥岩
No32b	01B83	126	泥岩
No32b	01B83	178-1	泥岩
No32b	01B83	178-2	泥岩
No32b	01B83	178-3	泥岩
No32b	01B83	184	泥岩

No33	01B93	179-1	チャート
No33	01B93	182-1	チャート
No33	01B93	187-1	チャート
No33	01B93	187-2	チャート

第2節 縄文時代

1 概要

縄文時代の遺構としては竪穴住居跡16軒、土坑27基、炉穴1基が調査地区全域に散在して検出された。このうち炉穴を除くほかの遺構は縄文時代中期中葉の加曾利E式期に集中する。

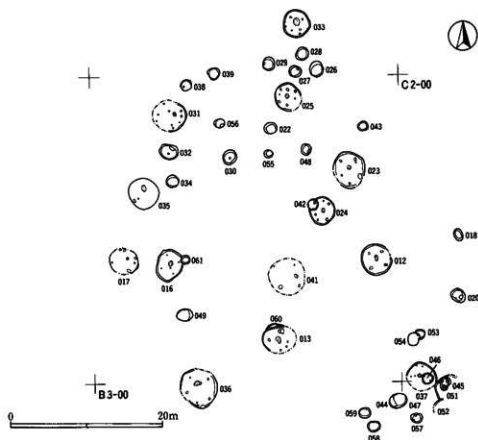
また、今回の調査で検出された遺構総数に占める縄文時代の遺構の割合は過半数を超えている。縄文時代の遺物の出土は当該期の遺構のみならず、調査地区全域にわたり、また時代を新しくする古墳時代の遺構の埋土等からの出土も多く、縄文時代中期においてかなりの規模の集落が存在していたことを窺わせている。以下に検出された遺構を中心に縄文時代の概要を述べる。

(1) 竪穴住居跡

総計16軒の竪穴住居跡が検出されたが、後世の遺構との重複や台地の削平により、また調査区の外へ遺構が広がってしまうものなど遺構の全容が十分に把握できたものは少ない。その中で、住居廃絶後の凹みに貝殻等を破棄した遺構も少なからず見られ、周辺の遺跡との状況も合わせて興味深い。

012号住居跡 (第23・24図、図版6・12)

北東側で一部004号遺構の周溝と重複して欠損しているものの、平面形状は直径4.1mのほぼ円形を呈す

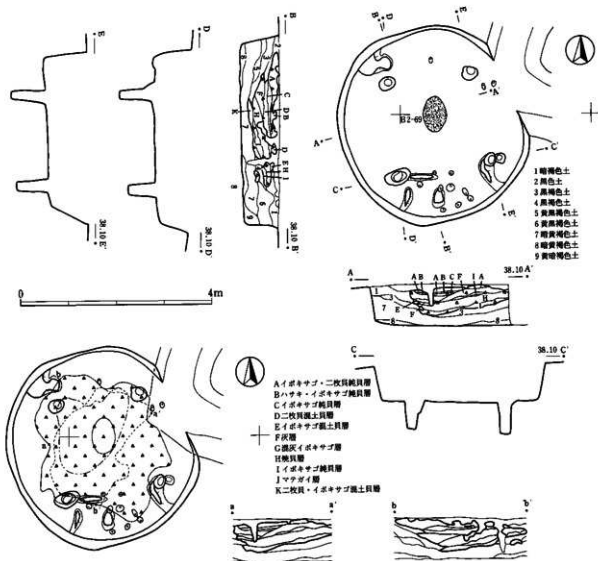


第22図 縄文時代遺構配置図

ると考えられる。確認面からの掘込みは0.8mとやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。炉は地床炉で住居の中央やや北寄りに作られている。柱穴は支柱穴と考えられる4本が検出された。深さはいずれも0.5m以上と深い。周溝は検出されなかったが、北東部の柱穴を除く3本の柱穴の外側、壁との間に高さはわずかであるが土手状に掘り残しが見られる。何のための掘り残しが詳細は不明である。

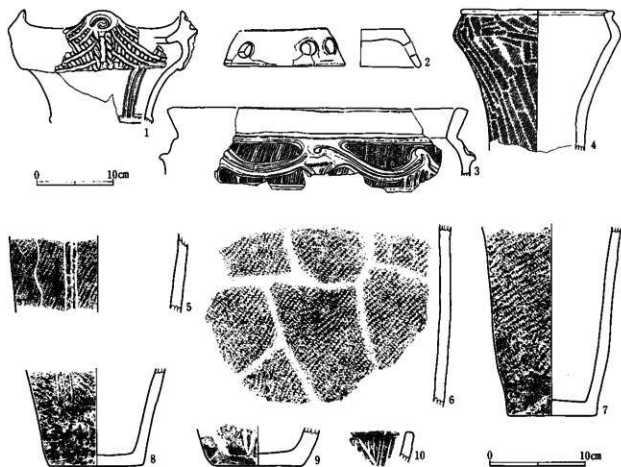
また、住居がある程度埋まってから貝殻の投棄が行われ、直径約3m、厚いところで約60cmのイボキサゴ・ハマグリを主体とする貝層の堆積が見られる。

遺物は、それほど多くは出土していない。1は深鉢形土器口縁部付近の大型破片である。口縁部には頸部との境に粘土紐を貼り付け文様帯が区画され、同じく粘土紐を格子状に斜めに貼り付けて文様としている。頸部は無文帯で、胴部との境には粘土紐を横位に貼り付け区別している。無文帯には粘土紐を懸垂状に2本一対にして貼り付けている。2は器台形土器である。器壁は厚く、無文の土器である。脚部には対角線上に4か所、合計6個の穴が穿たれており、向かい合う一対は2個の穴を並べて開けられている。い



第23図 012号住居跡 (1)

いずれも焼成前に内側から開けているようである。3は口縁部付近の大型破片である。口縁は全体的に内湾しているが、上半は無文で大きく外へ向かって開く。口縁部は地文に擦り糸が施され、上に粘土紐の貼り付けにより波状の頂部に渦巻文をもつ文様を構成している。浅鉢と思われる。4は深鉢形土器の上半分である。器面には単節(RL)のみを一様に施文している。底部から口縁に向かってやや開きながら開口しているが、頸部で内側に「く」の字状に内側に屈曲し、口唇部では外側に折れる。5・6は深鉢形土器の胴部、10は口縁部の破片である。5は縄文の地文の上から棒状工具により懸垂文を描いている。6は縄文のみの施文である。10はヘラ状工具により条線を縦方向に刻んでいる。7～9は深鉢形土器の底部付近である。7は縄文のみの施文であるが、8・9は縄文の地文の上から懸垂文を描いている。中期前葉中韓式～加曾利E I式期に該当しよう。

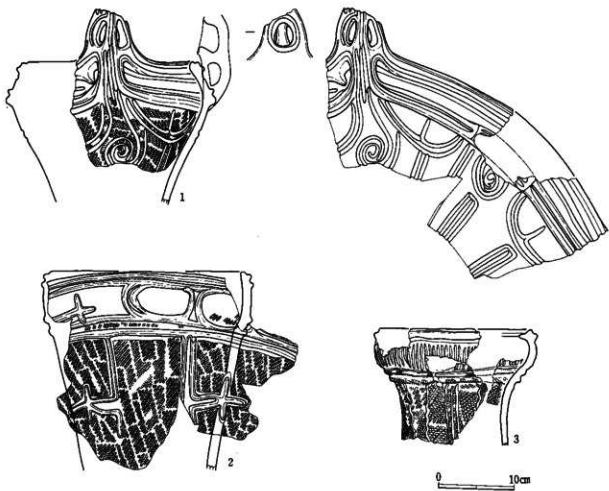
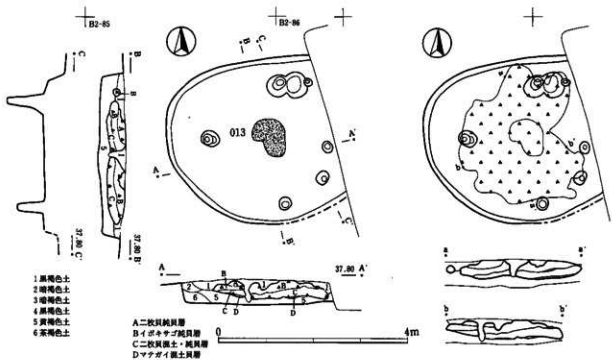


第24図 012号住居跡(2)

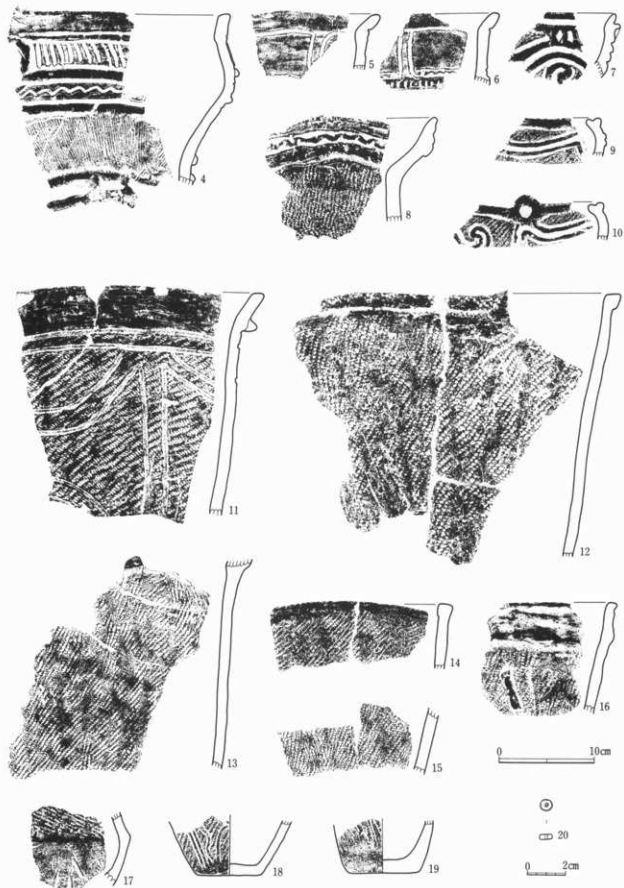
013号住居跡(第25・26図、図版6・13)

東側で006号住居と重複し欠損している。残存部の南北の径で3.6mを測る。平面形状は東西にやや長い楕円形を呈すると考えられる。確認面からの掘込みは0.6mを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。炉は地床炉で住居のほぼ中央に作られている。柱穴は重複を含めると7本確認されている、深さはいずれも0.5m以上あり深い。主柱穴は4本と考えられ、重複するものについては付け替えなどが考えられる。周溝は検出されなかった。

また、住居がある程度埋まってから貝殻の投棄が行われ直径約3m、厚いところで約60cmのイボキサゴ・



第25図 013号住居跡 (1)



第26图 013号住居跡 (2)

ハマグリを主体とする貝層の堆積が見られる。

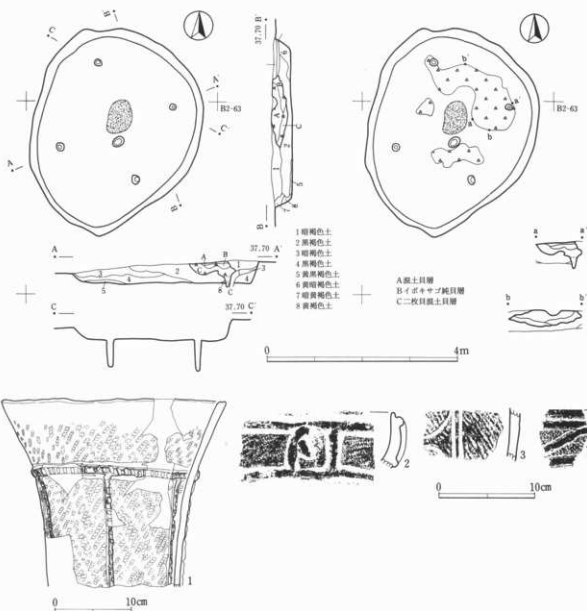
遺物は、それほど多くは出土していない。1は深鉢形土器の口縁部付近の大型破片である。口縁は平縁と考える。口唇部直下には粘土紐を横位に貼りつけて文様を描いている。また口唇部には大きな機状の把手をもつ、ほかに何単位でどのような把手をもつかは不明である。口縁部以下は縄文を地文に施文し、その上から棒状工具により波状文・渦巻文・直線の懸垂文が描かれているが、単位としての施文はないようなので、本土器実測図の横に参考として観察される文様を示した。2は深鉢形土器の上半分の大型破片である。口縁部がわずかに内湾するが、ほぼ底部から直線的に開口するようである。器面には地文として一様に単節(RL)の縄文が施文されている。口縁部は地文の縄文を磨り消した後、粘土紐を貼り付け文様帯としている。胴部には地文の上に粘土紐を用いてあたかも向かい合うように配した腕を大きく広げる「ヒト」を表現するような抽象的な文様が描かれている。これが一単位なのかどうか知る手がかりはない。3は深鉢形土器の上半分の大型破片である。口縁部は、口唇部と頸部との境にそれぞれ2条の隆帯を施して区画し、間をへら状工具によって隙間なくための沈線で埋めている。頸部以下は地文にやや節が大きめの一見粗い単節(RL)の縄文を施し、その上から棒状工具によって直線は3本一組、波状はやや間隔はあくが2本一組として底部へ向かって垂下するように描かれている。4~17は深鉢形土器の口縁部を中心にした土器破片の拓影図である。18・19は底部付近である。4~8は口縁部が粘土紐等で区画され、地文が無文で、棒状工具による沈線で文様が描かれている土器である。4は、頸部が粘土紐により胴部から区画され胴部を歯状工具による縦方向の細かい条線で埋めている。5・6は同一個体と考えられる。9・10は内湾する口縁部の破片で、いずれも地文に縄文を施し、そこから2本一組の粘土紐を貼り付け文様を描いている。11は頸部と2本の沈線と直上の隆帯により区画された無文の口縁部をもち、頸部以下の胴部には地文の縄文の上から棒状工具による沈線で文様が描かれている。12~14は、口唇部にはやや肥厚した細目の無文帯をもち、以下は縄文のみが施されている。15は縄文のみが施された胴部の破片である。16は無文の口縁部と頸部が隆帯により区画され、以下胴部は縄文のみが施されている。18・19は土器底部である。いずれも地文の縄文の上から底部直上まで工具による懸垂文や条痕が施されている。いずれも中期前葉の中峠式から加曾利E I 式期に該当しよう。20は凝灰岩製の白玉である。

016号住居跡(第27図、図版6・12)

015号遺構と重複している。また北東側で061号土坑と隣接している。平面形状は長軸4.3m、短軸3.5mを測り、東北-南西に長い楕円形を呈する。確認面からの掘込みは0.5mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる、炉は地床炉で住居の中央やや北東よりに作られている。柱穴は主柱穴と考えられる4本が検出された。直径は小さいが深さは0.5m近くあり深い。周溝は検出されなかった。

また、住居がある程度埋まってから貝殻の投棄が行われ厚いところで約30cmのイボキサゴ・ハマグリを主体とする貝層の堆積が住居の北東部にちょうど炉を囲むように小規模ながら見られる。

遺物の出土はあまりなかった。1は深鉢形土器上半部である。底部からほぼ直線的に朝顔の花のように開口する。器面全体を節の大きな単節(RL)の縄文で覆う。口縁部と頸部の境には粘土紐を貼り付けて区画し、その上には棒状工具により刻みを施している。口縁部の上半分は磨り消しにより無文帯を作り出している。胴部の縄文の上には頸部との境の粘土紐から底部に向かって粘土紐を直線的に貼り付けその上から棒状工具による刻みを施している。2~4は土器破片の拓影図である。2は口縁部で地文の縄文の上から



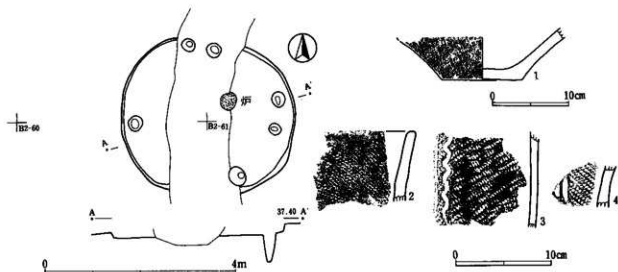
第27図 016号住居跡

ら粘土紐により区画された内側に同じく粘土紐により文様を施している。3は胴部の破片で、地文の縄文の上から棒状工具による沈線で文様を描いている。4は口縁部の破片で、4と同様な文様が施されている。中期前葉中峠式～加曾利E I式期に該当しよう。

017号住居跡 (第28図、図版7・12)

住居の中央を南北に015号遺構の周溝が横切っている。平面形状は直径3.6mのほぼ円形を呈すると考える。確認面からの掘込みは0.2mと浅い。炉は周溝に切られており一部が中央やや北東寄りにわずかに残っているだけである。地床炉である。柱穴は4本が壁際に検出された、深さも0.3mと比較的浅いものが多い。周溝は検出されなかった。

遺物の出土は少ない。1は浅鉢形土器の底部である。2は口縁部破片である。口唇部付近に細いながら無文帯をもち、以下は縄文のみが施されている。3は胴部破片である。地文の縄文の上から沈線による直



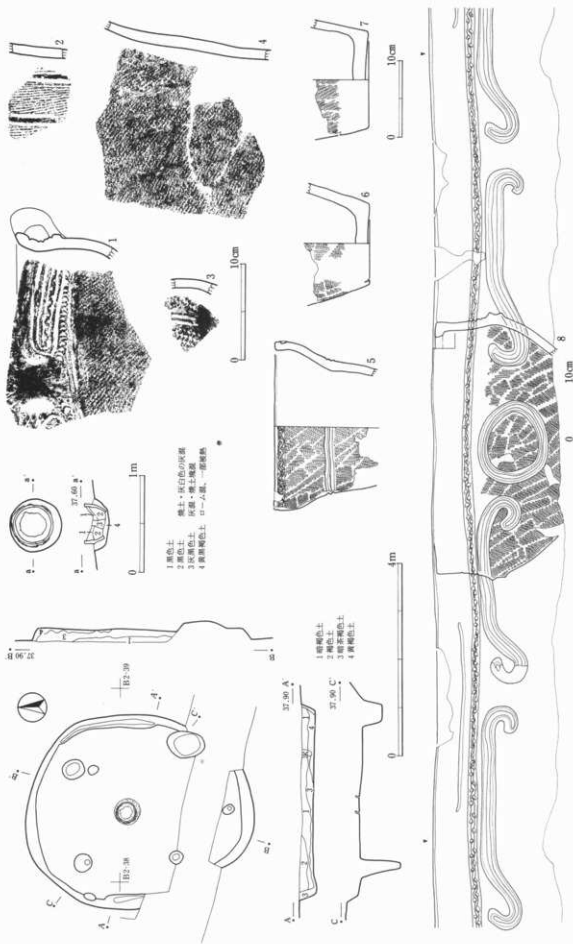
第28図 017号住居跡

線と波状の懸垂文が施されている。4は3と同様な破片である。中期前葉の加曾利E I式期に該当する。

023号住居跡 (第29図、図版7・12)

住居の南側で、005号遺構の周溝と重複している。平面形状は径4.2mを測るほぼ円形を呈すると思われる、確認面からの掘込みは0.3mとやや浅いが、壁はほぼ垂直に立ち上がる。炉は住居中央やや北に寄って作られ、土器の口縁部を埋め込んでいる。柱穴は5本検出されているが、やや大きめの深さが0.5mを測る4本が主柱穴と考えられる。周溝は検出されなかった。

遺物の出土は少なかった。1は口縁部付近の破片である。口縁部に橋状の把手をもつ、単位は不明である。口縁部と頸部の境に粘土紐を貼り付け、その上に刺突により刻みを加えている。口縁部は棒状工具で沈線を引いて楕円形に区画し、中に刺突による波形成文を作っている。2は胴部の破片で地文の撚糸文の上から粘土紐を縦方向に貼り付けている。3は底部付近の破片と考えられ、文様は2と類似しているが、地文は単節の縄文である。4は深鉢形土器の胴部の破片である。器面には縄文のみが施文されている。5は深鉢形土器上半部の大型破片である。口唇部直下に地文の縄文を磨り消し、棒状工具による刺突を交互に行って隆帯状の波形成文を作り出している。口縁以下胴部は地文の単節(RL)の縄文のみが覆っているが、頸部のくびれた部分に地文の縄文を消すように工具を用いて横位に2本沈線を平行に引く。6・7は土器底部である。底部近くまで縄文が施文されている。6は底部に、ちょうど対角線となる位置4か所に焼成前に付いたと思われる紐の幅ほどの凹みがある。8は本住居跡の炉に埋設されていた土器である。底部を欠くがほぼ完形に近い浅鉢形土器である。口縁部は無文帯が巡り、頸部には前記5の土器で見られた口唇部直下の文様と同様な刺突を交互に行って、隆帯状の波形成文を作っている。以下は縄文が地文として一様に施文されて、その上から粘土紐を貼り付け、断面三角形の隆帯で円形や横S字状の文様を描いている。中期前葉の中峙式から加曾利E I式期に該当する。



第29图 023号住居跡

024号住居跡（第30図、図版7・13）

023号住居の南側に近く、007号遺構の周溝と、また北西部で042号土坑と重複している。平面形状は直径4.6mのほぼ円形を呈する。確認面からの掘込みは0.2mと浅い。炉は住居の中央やや東寄りに作られ土器の胴部を埋設している。柱穴は住居に伴うもの6本が検出されているが、うち4本が主柱穴である。深さは北東部の一か所を除きいずれも0.4mを測る。周溝は検出されなかった。

遺物の出土はほとんどなかった。1は深鉢形土器の胴部である。器面には縄文のみが施文されている。2・3は同様な文様構成の胴部破片である。4は深鉢形土器の底部である。底部近くまで縄文が施文されている。加曾利E I式期に該当する。

025号住居跡（第30図、図版8・13）

006号遺構の北東側に隣接している。南東側の約1/4の壁を確認できなかったが、平面形状は直径4.1mの円形を呈すると考える。確認面からの掘込みは最大で0.1mと非常に浅い。炉は住居中央やや北西に寄って作られた地床炉である。柱穴は7か所検出された。いずれも0.3m前後の深さで比較的浅い。そのうち対角線が直交する4本が主柱穴と考える。周溝は検出されなかった。

遺物の出土はそれほど多くはなかった。1・2は深鉢形土器の破片である器面に縄文のみが施文されている。3は口縁部の破片である。頸部との境には刺突による刻みをもつ隆帯が巡り、口縁部には交互刺突による文様が施されている。頸部以下は縄文が施文されている。中期前葉中幹式期に近い時期である。

031号住居跡（第31図、図版8）

住居のほぼ中央を南北に014号遺構の周溝が横切り、確認面からの掘込みが0.1m前後と非常に浅く西側の掘込みは検出できなかった。残された状況から住居の直径は4mほど、平面形状はほぼ円形を呈していたと考える。炉は中央よりやや北東に偏って検出された。地床炉と考える。柱穴は8本検出されたが、4本が主柱穴と考える。周溝を検出されていない。

遺物はそれほど多くはなかった。1は深鉢形土器の底部である。地文には単節（RL）の縄文を施文している、その上から棒状工具による浅い沈線を底部近くまで垂下させている。加曾利E II式に該当する。

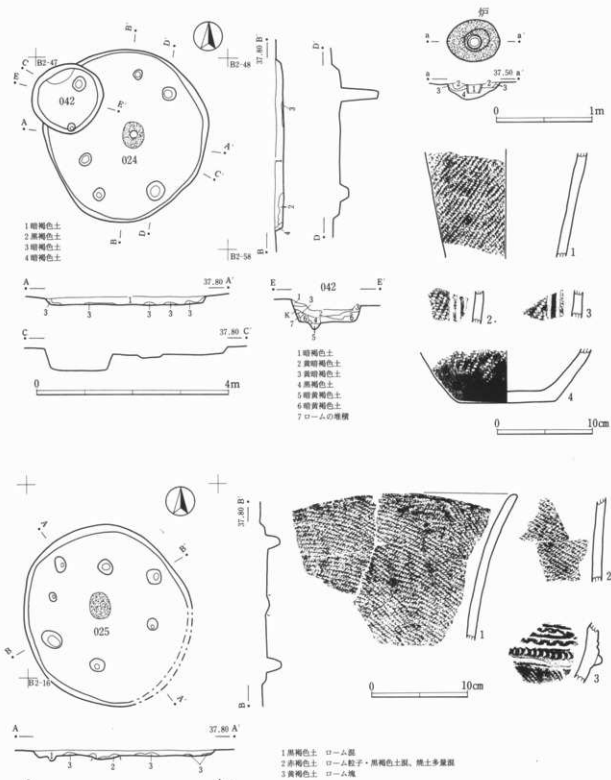
033号住居跡（第32図、図版8・13）

010号住居の南に隣接する。平面形状は直径3.8mを測る円形を呈する。確認面からの掘込みは0.1mと非常に浅い。炉は地床炉で、住居の中央やや北に作られた。柱穴は7か所検出されたが、炉を囲む4本が主柱穴である。深さは0.4m以上を測る。周溝は検出されていない。

遺物の出土はそれほど多くはなかった。1は深鉢形土器の口縁部である。口唇直下に狭い無文帯が巡り、以下は櫛歯状工具による条線文が施されている。2～3は胴部の破片である。いずれも地文の縄文の上から粘土紐を貼りつけ文様を加えている。加曾利E I式期に該当しよう。

035号住居跡（第32図、図版9・13）

005号遺構の北西部で周溝と一部が重複する。平面形状は直径3.9mを測り、ほぼ円形を呈する。確認面からの掘込みは0.1mと非常に浅い。炉は地床炉で、住居の北側に偏って作られている。柱穴は2本が接近



第30图 024号・025号住居跡・042号土坑

して検出されている。ほかに柱穴はなく、深さが0.4mほどの内側の柱穴が本住居の柱穴と考える。周溝は検出されていない。

遺物の出土はそれほど多くなかった。1・2は深鉢形土器の上半部の大型破片で、同一個体である。口縁は平縁を呈しやや内湾する。口縁部を粘土紐の貼り付けによる隆帯で区画し、同じく隆帯で渦巻文を加えている。単位は不明である。地文は単筋(RL)の縄文が施文されている。また頸部以下胴部には先端が丸みをもつ工具を用いて押し引きによる浅い沈線が1本又は2本平行して垂下している。加曾利E II式に該当する。3は口縁部の破片である。口縁部直下に狭い無文帯が巡り、その下に平行する2本の沈線が巡る。

036号住居跡(第33図、図版9・13)

北東側で021号住居と重複して一部が欠損している。平面形状は南北に長軸をもつ直径4.8mほどのやや楕円形を呈する。確認面からの掘込みは0.3mを測る。炉は地床炉で、北側に偏って作られている。柱穴は6本検出された。南東の1本を除く5本は深さが0.5mを越える。南側の隣接するうちの1本を除く5本が主柱穴とも考えられるが、はっきりしない。周溝は東側の壁に沿って一部が検出されているが、一周していたかは不明である。

遺物の出土はそれほど多くはなかった。1は深鉢形土器の口縁部である。地文には縄文が施文され、その上から口縁部を区画する粘土紐が貼り付けられている。2は深鉢形土器の口縁部である。1と同様に地文の縄文の上から粘土紐を貼り付け口縁部を区画し、あわせて文様を描いている。3は深鉢形土器の胴部である。地文の縄文の上から棒状工具により、平行する2本の沈線で直線・曲線・波状と文様を描いている。中期前葉の加曾利E I式期に該当する。

037号住居跡(第33図、図版9)

調査区の南端に近く位置する。南側の半分近くは検出できなかったが、平面形状は直径が4mほどの円形を呈する。確認面からの掘込みは最大で8cmと非常に浅い。炉は地床炉で、住居の中央やや北西に寄って作られている。柱穴は炉の北西側に偏って4本検出されたのみである。炉からほぼ同一距離にある2本が、4本の主柱穴のうちの2本ではないかと考える。

周溝は検出されなかった。遺物の出土はほとんどなく、また図示できるものなかった。

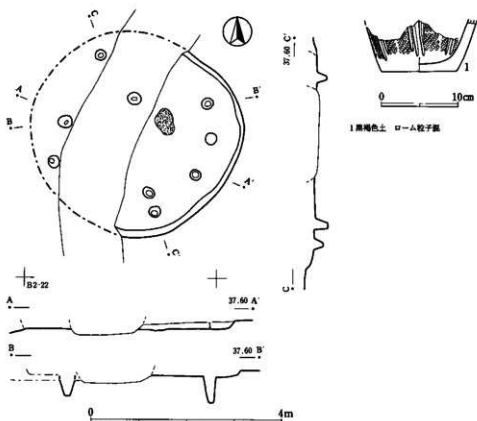
041号住居跡(第33図)

007号住居の西側に地床炉と4本の柱穴が検出されたのみである。確認面からのロームへの掘込みはなかった。検出された施設の位置から直径が5mほどの円形を呈すると考えるが、検出された柱穴が主柱穴であると考えたと炉がかなり東側に偏ることになる。

本住居跡に伴う遺物の出土はなかった。

051号住居跡(第34図)

今回の調査区南東隅に検出された。東側半分は調査区の外にあり、西側半分の検出にとどまった。平面形状は3.6mほどの円形を呈すると考えられるが、北東部は後世の攪乱南側では052号住居と重複している。確認面からの掘込みは0.2mと比較的浅い。柱穴1本と床面に焼土が一か所検出されたのみである。また北



第31図 031号住居跡

西壁際で045号炉穴とも重複している。

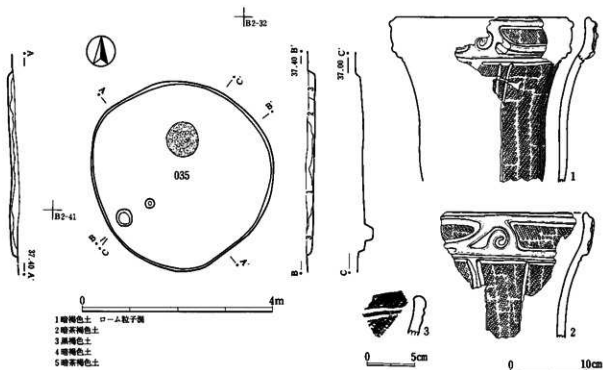
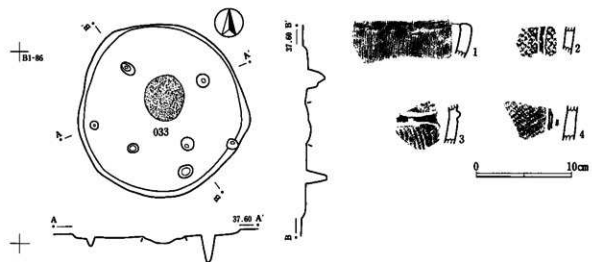
遺物の出土はほとんどなかった。1・2は深鉢形土器の上半部の大型破片である。器面全体に地文として単節(RL)の縄文を施文している。頸部との境に粘土紐を貼り付け口縁部を区画している。さらに粘土紐を2本平行に縦方向に貼り付け口縁部を細かく分けている。頸部以下は縄文のみである。加曾利E I式期に該当するだろう。

052号住居跡 (第34図、図版13)

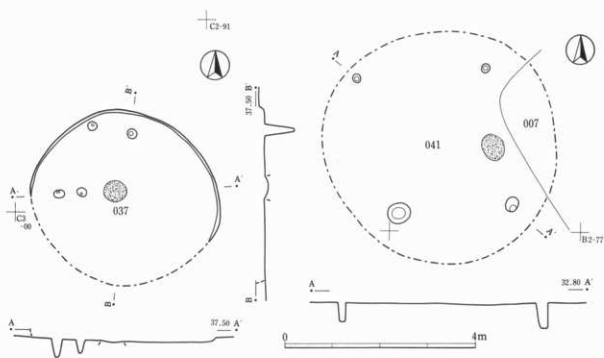
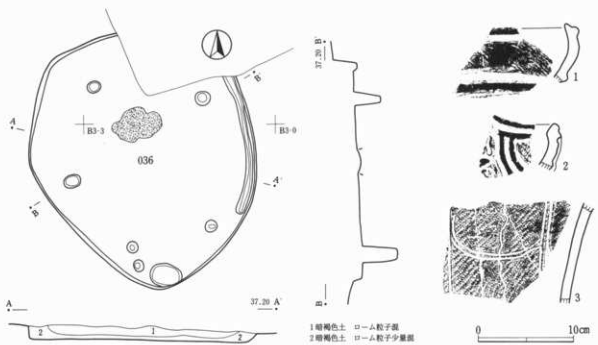
051号住居の南側に重複して壁と床の一部が検出された。残りの大半は調査区の外側であり、詳細は不明である。わずかであるが土器破片が出土している。1は口縁部に付く橋状の把手である。沈線のみにより文様を描いている。2は口縁部付近の土器破片である。頸部との境に粘土貼り付けによる隆帯をもち、口縁部は棒状工具の先端を押し引いて区画を作り、その中を縦方向に沈線を引いて埋めている。いずれも中期前葉の中鉢式期かそれより若干古い時期と考えられる。

060号住居跡 (第34図、図版13)

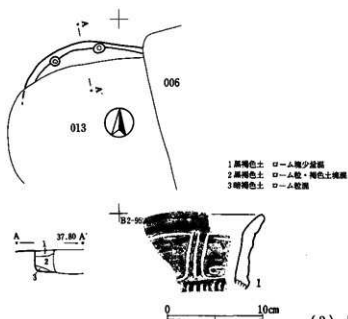
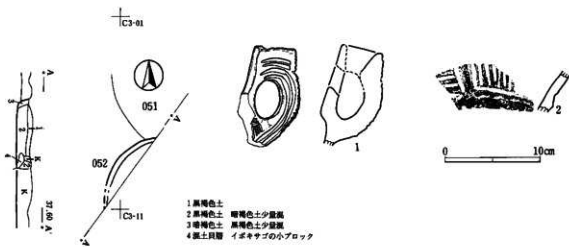
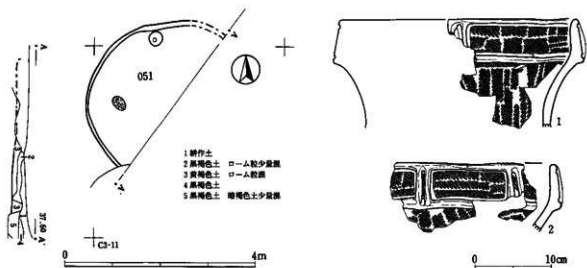
013号住居の北側に、壁と床の一部、柱穴2本が検出された。本住居の遺物として確認できるものはわずかである。1は深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部との境には粘土紐を貼り付け、さらに上に縦方向の刻みを加えている。口縁部は沈線により方形に区画し、区画と区画の間に1本の沈線を加えて文様としている。中期前葉中鉢式期かそれより若干古い時期と考えられる。



第32图 033号・035号住居跡



第33图 036号・037号・041号住居跡



(2) 土 坑

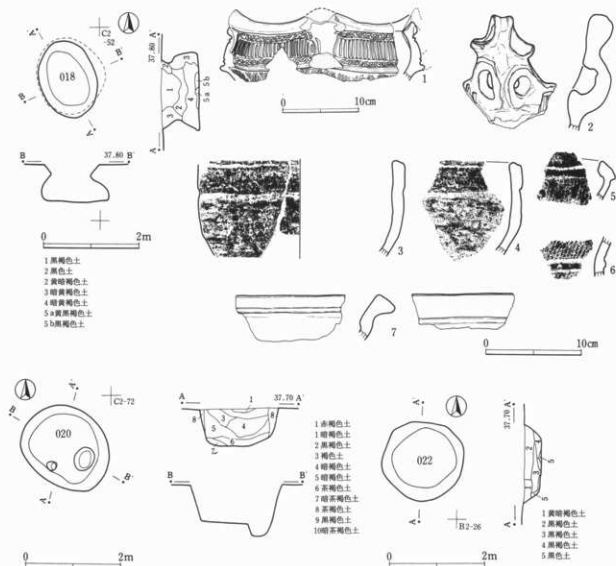
第34図 051号・052号・060号住居跡

今回の調査で検出された土坑は計27基に上る。こ

れらはほとんどは重複もなく調査区に散在する。分布の状況を見ると多少の空間をもって北の一群と南の一群とに大きく二分される。形状的には断面が袋状のものと円筒状のものとに分類できる。遺物の出土は総体的に少なく、土坑の時期決定が困難なものもあった。また、中には貝層を伴うものもある。以下にそれぞれについて概要を述べる。

018号土坑（第35図、図版10・12）

確認面での平面形が長径1.6m、短径1.1mの北西-南東に長軸をもつ楕円形を呈し、断面は袋状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.8mを測る。形状は中期前葉加曾利E I 式期に多く見られる土坑である。遺物は少ないが出土している。1は深鉢形土器の口縁部の大型破片である。口縁は波状を呈し波頂部に橋状の把手をもつ、単位は4単位と考える。口縁部は粘土紐の隆帯と把手によって区画され、上下に棒状工具先端の交互刺突により隆帯状の波形文を作っている。その間を縦方向の短沈線で連続して埋めている。以下胴部には単節(RL)の縄文を施文している。2は深鉢形土器の口縁部に付く橋状の把手である。



第35図 018号・020号・022号土坑

3・4は浅鉢形土器である。口縁部がやや肥厚している。器面は全面無文である。5は深鉢形土器の口唇部付近の破片である。6は頸部付近の破片である。7は浅鉢形土器の口縁部付近の破片である。口唇部は肥厚している口縁の内側に沈線が巡る。器面は全面無文であるが、口縁部の内外に朱が塗られている。

020号土坑（第35図、図版10）

平面形状が長径1.9m、短径1.5mの北西-南東に長軸をもつ楕円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.8mを測る。底部の南壁際に2個のピットを検出した。遺物の出土はなかった。

022号土坑（第35図）

平面形状が径1.7mの円形を呈し、断面は鍋底状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.4mを測る。図示できる遺物の出土はなく、破片が若干出土しているのみである。

026号土坑（第36図）

平面形状が径2.0mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.4mを測る。遺物の出土はなかった。

027号土坑（第36図）

平面形状が径1.6mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.5mを測る。遺物の出土はなかった。

028号土坑（第36図、図版13）

平面形状が径1.8mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.5mを測る。1は口縁部の破片である。器面全体を縄文のみで施文している。また、口唇部にも縄文を施文している。2は口縁部付近の破片であるが、口唇部が欠損している。口唇部直下に無文帯が巡り、以下を縄文のみで施文している。

029号土坑（第36図）

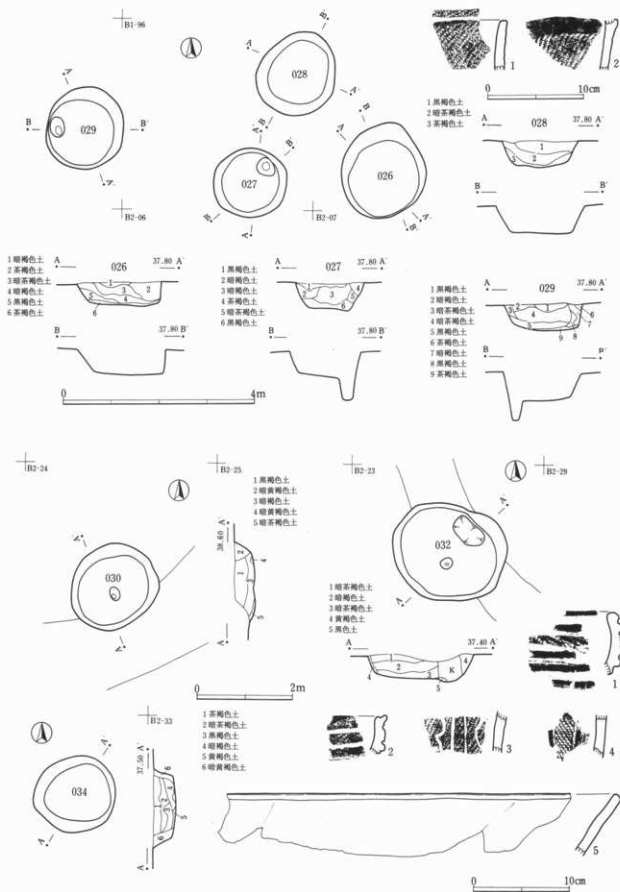
平面形状が径1.7mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.4mを測る。遺物の出土はなかった。

030号土坑（第36図）

平面形状が径1.9mの円形を呈し、断面は鍋底状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.5mを測る。底部のほぼ中央にピットが1個検出されている。014号遺構の周溝と重複する。遺物の出土はなかった。

032号土坑（第36図、図版13）

確認面での平面形が長径2.4m、短径2.0mの北西-南東に長軸をもつ楕円形を呈し、断面は円筒状を呈



第36图 026号·027号·028号·029号·030号·032号·034号土坑

する土坑である。確認面からの掘り込みは0.5mを測る。底部のほぼ中央にピットが1個とその北側に非常に浅い凹みが検出されている。なお、覆土中に小規模ながらイボキサゴとハマグリを中心とする貝層の堆積があった。

遺物の出土はわずかであった。1は深鉢形土器口縁部の破片である。地文の縄文の上から粘土紐を貼り付け隆帯により口縁部を区画している。2は深鉢形土器口縁部の破片である。1と同様の文様構成の口縁部である。3は深鉢形土器胴部の破片である、地文の縄文の上から棒状工具による沈線を垂下させている。4は深鉢形土器胴部の破片である。地文の縄文の上から沈線に挟まれた磨り消しによる無文帯を垂下させている。5は浅鉢形土器の口縁部である。一様に無文で、その上から朱を塗ってある。加曾利EⅠ式に該当する。

034号土坑（第36図）

平面形状が径1.7mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.5mを測る。遺物の出土はなかった。

038号土坑（第37図、図版13）

平面形状が径1.4mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.3mを測る。底部の西壁際にピットが1個検出された。014号遺構の周溝と重複する。遺物の出土はなかった。

039号土坑（第37図）

平面形状が径1.7mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.3mを測る。014号遺構と重複する。遺物の出土は非常に少なかった。図示したものは深鉢形土器胴部の破片である。地文の縄文の上から平行する2本一組の沈線を垂下させている。加曾利EⅠ式土器に該当する。

042号土坑（第30図）

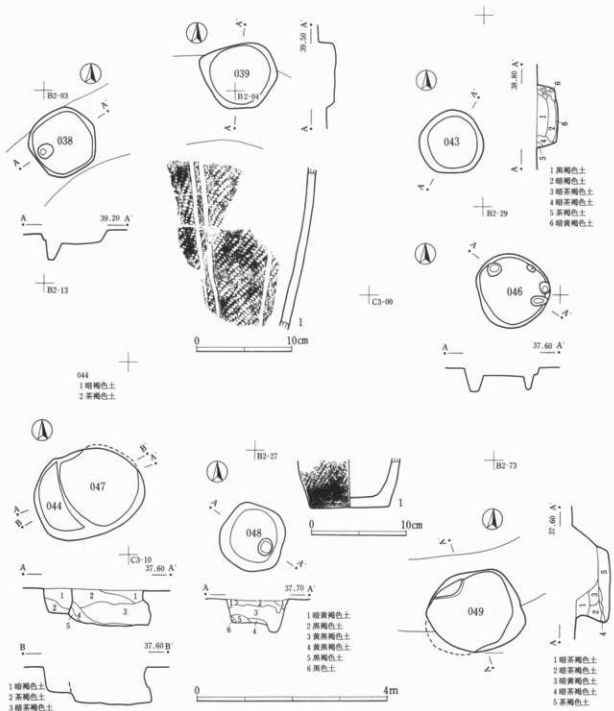
042号住居跡の北東部壁際で重複する。平面形状が径1.5mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.5mを測る。底部北壁際には浅い凹みと、南壁際にピットが検出されている。北側にあるやや大きめのピットは重複する024号住居跡の柱穴と考える。遺物の出土はなかった。

043号土坑（第37図）

平面形状が径1.3mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.4mを測る。遺物の出土はなかった。

044号土坑（第37図）

047号土坑と重複する。平面形状では径1.8mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。検出された箇所を確認面からの掘り込みは0.4mを測る。本土坑が047より古い。遺物の出土は極めて少なく、いざれも小破片のため図示できるものはなかった。



第37图 038号·039号·043号·044号·046号·047号·048号·049号土坑

046号土坑 (第37図)

平面形状が径1.5mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.2mと浅い。底部には規模の小さいピットが4個検出されている。037号住居の底部下から検出された。遺物の出土はなかった。

047号土坑 (第37図)

西側で044号土坑と重複する。確認面での平面形状が長径1.8m、短径1.2mほどの北西-南東に長軸をもつ楕円形を呈し、断面は袋状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.7mを測る。018号土坑と比べて底部の外への掘込みは浅い。044号土坑より本土坑の方が新しい。遺物の出土はなかった。

048号土坑 (第37図)

平面形状が径1.5mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.5mを測る。南東の壁際にピットが1個検出されている。

遺物の出土は非常に少ない。図示した土器は深鉢形土器底部である。底部近くまで縄文が施文されている。加曾利E I式に該当すると考えられる。

049号土坑 (第37図)

確認面での平面形状が長径2.0m、短径1.6mほどの北東-南西に長軸をもつ楕円形を呈し、断面は袋状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.8mを測る。北側で015号遺構と重複しており、上部の一部を欠損している。遺物の出土はなかった。

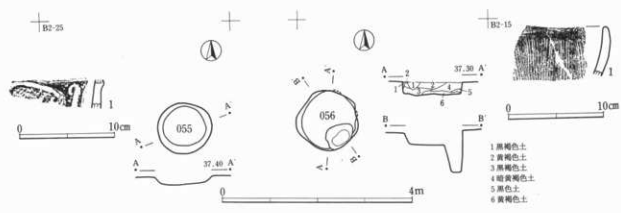
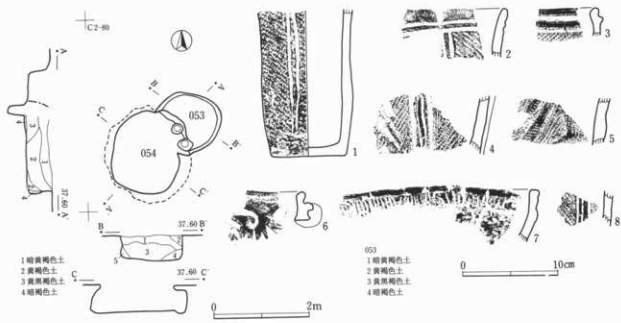
053号土坑 (第38図・図版13)

054号土坑と重複しており、平面形状が径1.3mの円形を呈していると考えられ、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.5mを測る。054号土坑と接する所にピットが2個検出されているが、いずれも本土坑に伴うものである。また054号土坑より本土坑が古い。遺物の出土は極めて少なく、図示できるものは別掲(第48図)の土製袂状耳飾の破片のみである。

054号土坑 (第38図)

北側で053号土坑と重複する。確認面での平面形状が長径1.6m、短径1.3mほどの北西-南東に長軸をもつやや楕円形を呈し、断面は袋状を呈する土坑である。確認面からの掘り込みは0.6mを測る。底部の外側への掘込みは一様に掘られたのではなく、平面形は不正形を呈する。なお053号土坑より本土坑の方が新しい。

遺物の出土は少ない。1は深鉢形土器の下半部である、底部付近まで地文の縄文が施文され、その上から平行する2本の沈線が直線的に垂下する。2は深鉢形土器の口縁部である。口唇部直下には狭い無文帯が、平行する2本の沈線とともに巡る。横走する沈線に接して頸部以下には同じく平行する2本の沈線が、地文の縄文の上から垂下する。3は深鉢形土器の口唇部付近の土器である、おそらく地文の縄文の上から粘土紐を貼り付けて隆帯を巡らせ、口縁部を区画していると考えられる。4は深鉢形土器の胴部である、



第38图 053号·054号·055号·056号土坑

地文の縄文の上から細い粘土紐を直線に貼り付けている。5は深鉢形土器胴部である。6は深鉢形土器口縁の把手部分である。7は深鉢形土器の口縁部である。口唇部には非常に細い無文帯が巡り、以下には縦方向の刺突が巡る。8は深鉢形土器の胴部である。地文の縄文の上から沈線を垂下させている。

055号土坑（第38図）

平面形状が径1.1mの円形を呈し、断面は鍋底状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.3mと比較的浅い。

遺物は非常に少ないが出土している。図示した土器は口縁部付近のものである、地文の縄文の上から沈線により口縁を区画していることが分かる。

056号土坑（第38図、図版13）

平面形状が径1.3mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.2mと浅い。底部南東際に本土坑にしてはやや大きめのピットが1個検出されている。

遺物は非常に少ないが出土している。図示した土器は深鉢形土器の口縁部破片である。口唇直下に細目の無文帯を巡らせ、以下胴部に櫛歯状工具による条線を施文している。

057号土坑（第39図）

平面形状が径1.3mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.3mと比較的浅い。西側の壁に接して3個のピットが検出されている。

遺物は非常に少ないが出土している。図示したものは深鉢形土器の口縁部付近である。地文の縄文の上から、口唇部直下と頸部との境に粘土紐を貼り付けて隆帯を作り、口縁部を区画している。区画された口縁部には粘土紐を渦巻状にしたものを6単位貼り付けている。頸部以下は単節（RL）の縄文のみが施文されている。加曾利EⅡ式期に該当する。

058号土坑（第39図）

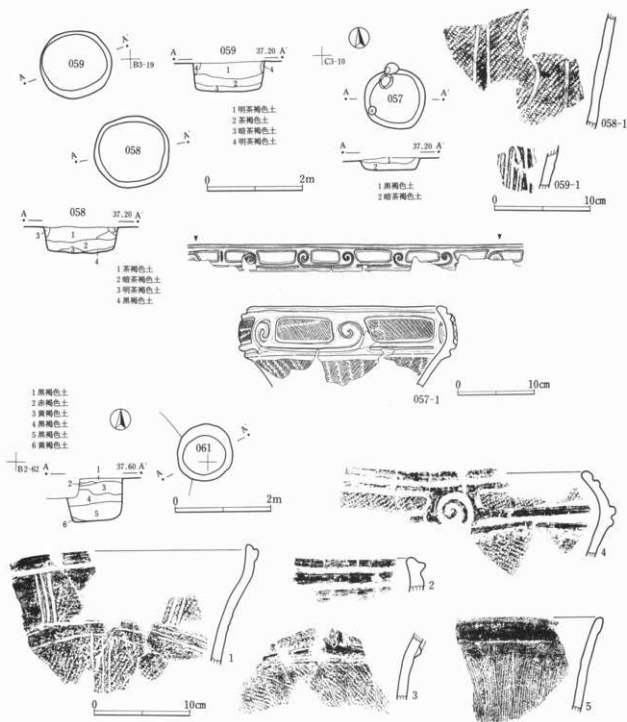
平面形状が径1.6mの円形を呈し、断面は鍋底状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは最大で0.6mを測る。

遺物は非常に少ないが出土している。図示したものは深鉢形土器の胴部である。地文の縄文の上から、ほぼ平行する2本一組の沈線と、一本の波状の浅い沈線を垂下させている。加曾利EⅠ式期に該当すると考える。

059号土坑（第39図、図版13）

平面形状が径1.5mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.6mを測る。

遺物は非常に少ないが出土している。図示したものは深鉢形土器の胴部破片である。条線文のみが施文されている。加曾利EⅠ式期に該当すると考える。



第39图 057号·058号·059号·061号土坑

061号土坑（第39図、図版13）

平面形状が径1.2mの円形を呈し、断面は円筒状を呈する土坑である。確認面からの掘込みは0.5mを測るが平面形状に比べ深い。西側で016号住居跡と重複する。

遺物は少ないが出土している。1は深鉢形土器口縁部付近の破片である。地文の縄文の上から、口唇部直下と頸部との境に粘土紐を貼り付けて隆帯を作り、口縁部を区画している。区画された口縁部には粘土紐を渦巻状にしたものを貼り付けている。頸部以下は単節（RL）の縄文のみが施文されている。2は深鉢形土器の口唇部付近である、口唇部直下に粘土紐を貼り付けている。おそらく1と同様な文様が施文されていると考える。3は深鉢形土器の口縁部付近である。口唇直下には細いが無文帯が巡る。頸部との境には地文の縄文の上から沈線が2本平行して巡り、口縁部を区画している。口縁部は地文の縄文を残し、さらに上から3本の平行する直線の沈線が、一定の間隔をもって施されていると考える。4は深鉢形土器の頸部付近である。粘土紐を横位に貼り付けて口縁部と胴部とを区画している。胴部以下には縄文のみが施文されている。5は深鉢形土器の口縁部付近である。口唇部直下に無文帯が巡る。以下胴部には櫛歯状工具による条線文を一様に施文している。加曾利E I～II式に該当する。

3) 炉 穴

調査区の南端、調査区境に接するように、051号住居跡の床面下で1基が検出された。

045号炉穴（第40図、図版10）

051号の床面下で西側の壁に接する位置に検出された。焼土は南側と北側の壁際の底部に2か所検出された。土坑の平面形状はだるま形を呈しており、2か所同時にではなく、別々の時期に使われたようだが詳細は不明である。051号土坑よりの掘り込みは0.2～0.3mを測る。また各焼土の北側には小さいながらピットが検出されている。縄文時代早期の所産と考えられるが、伴出する遺物はなく詳細は不明である。

2 縄文時代の遺物

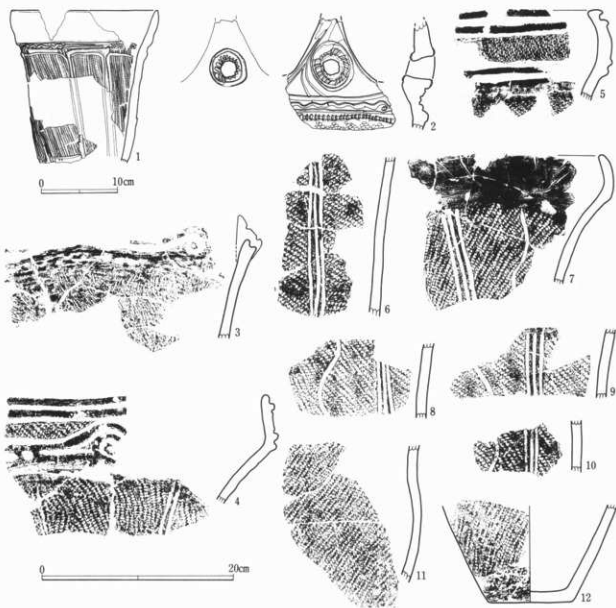
(1) グリッド・他時代遺構出土の土器（第41・42図、図版11・13）

縄文時代の遺構からの直接的な出土ではないが、本遺跡の主体をなす縄文時代を述べるのに参考となる土器群を以下に示すこととする。

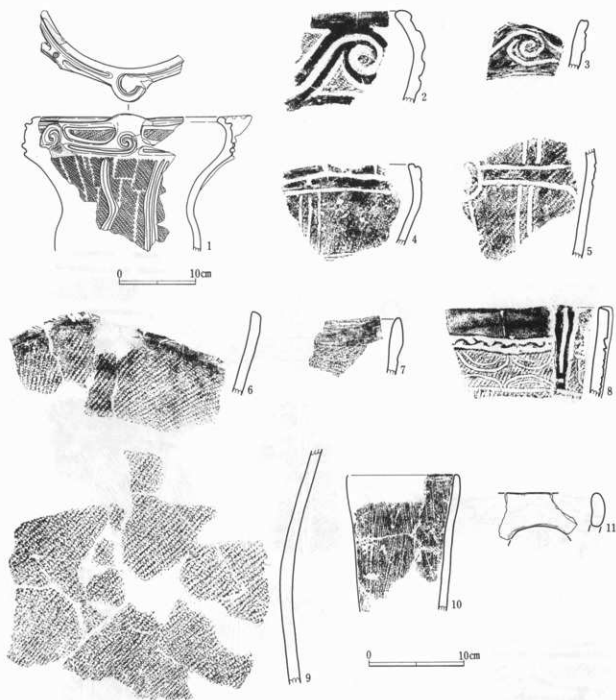
第41図1～12はグリッド・トレンチからの出土の土器群を一括した。1は深鉢形土器の上半部の土器である。口縁部にはやや幅広い無文帯が巡り、頸部との境には、約1センチメートルの幅で刺突を交互に行う波形様の隆帯を巡らす。以下は地文に0段（L）の摺糸を施文し、その上をややための浅い沈線と時にはための高まりのない沈線によって「□」状の区画を作っている。単位の詳細は不明だが、一周6～7単位になるのではないかと考えられる。また、2段に区画されていることも考えられる。2は深鉢形土器の口縁部に付く把手の部分である。三角形を呈し、貫通する穴を持つ。口唇部付近には沈線により区画された間に波形文を描き、下部に連続刺突文を巡らしている。以下は縄文を施文している。3は深鉢形土器の口縁部付近である。4は深鉢形土器の口縁部付近である。地文には縄文を施文し、口唇部直下と頸部との境に粘土紐を貼り付け口縁部を区画している。頸部との境の隆帯には途中渦巻文と円形の隆帯による文様



第40図 045号炉穴



第41図 グリッド・トレンチ出土遺物



第42図 縄文時代以外遺構出土遺物

を作っている。頸部以下には平行する2本の沈線が垂下する。5は深鉢形土器の口縁部である。地文には縄文を施文し、その上から口唇部直下と頸部との境に隆帯を作り口縁部を区画している。この破片では4と同様な文様が加えられているかは不明である。6・8～10は深鉢形土器の胴部である。いずれも地文の縄文の上から、平行する3本は直線的に、1本は波形状に垂下させている。7は深鉢形土器の口縁部付近である。口縁部は幅の広い無文帯が巡り、以下には縄文を地文として施文し、上から平行する3本は直線的に、1本は波形状に垂下させている。6～10は接合しないものの文様構成・施文方法・胎土などから同一個体と考えられる。11は深鉢形土器の頸部付近である。頸部はややくびれ胴部は下半で膨らむ。縄文のみが施文されている。12は深鉢形土器の底部付近である。11同様縄文のみが底部近くまで施文されている。

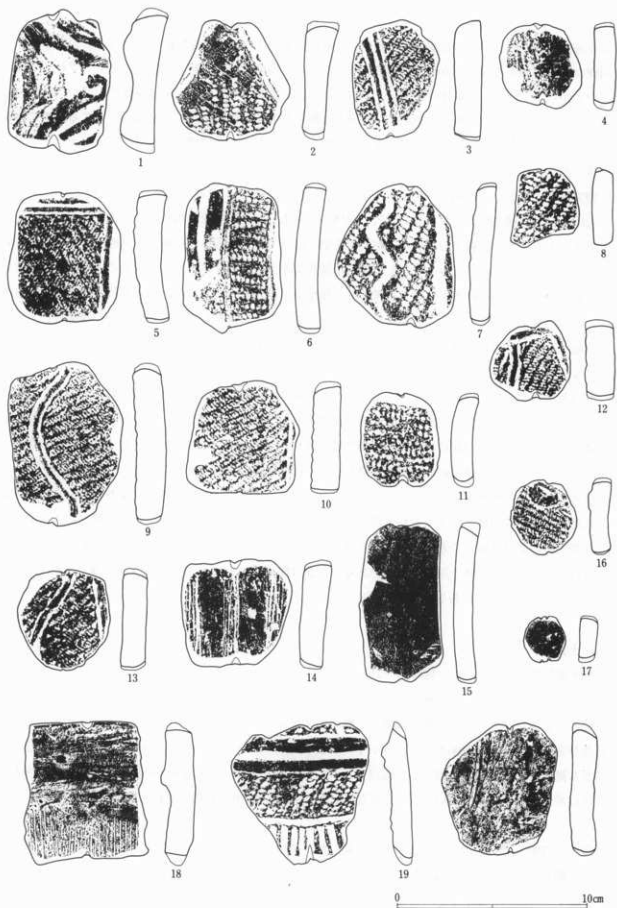
第42図1～11は縄文時代より新しい時代の遺構から出土した土器群を一括した。1は平縁の深鉢形土器の上半部である。地文の縄文の上から、粘土紐を貼り付けて隆帯を巡らせ口縁部を区画している。そこに渦巻文を加え細かく区画している。また口縁部に渦巻文をもつ把手を付けている。このことから渦巻文の単位は6で、うち3か所に把手が付くと考える。頸部以下は、地文の縄文の上から平行する2本又は3本の平行沈線を垂下させている。2は深鉢形土器の口縁部である。隆帯により区画された口縁部に、地文の上から粘土紐を貼り付け渦巻文を加えている。3は深鉢形土器の口縁の波状頂部である。無文の器面に、沈線により渦巻文を描いている。4は深鉢形土器の口縁部付近である。口唇部直下には2本の平行する沈線をもつ無文帯が巡り、以下には平行する3本の沈線が垂下する。5は深鉢形土器の胴部である。地文の縄文の上から、横走する沈線と垂下する沈線が交差するように描かれている。6は深鉢形土器の口縁部付近である。波形を呈する口縁には幅の狭い無文帯が巡り、以下は縄文のみが施文されている。7は深鉢形土器の口縁部である。口縁部には無文帯が巡り、以下は縄文のみが施文されている。8は深鉢形土器の口縁部付近である。口唇部直下にはややせまい無文帯が巡り、下部には連続の刺突により波形状を作っている。また口唇部から口縁に直交する粘土紐を貼り付けている。口縁部以下には、地文の縄文の上から沈線により半円形の文様を横位で連続して加えている。9は深鉢形土器の胴部である。器面一面、縄文のみが施文されている。10は深鉢形土器の上半部である。器面は櫛歯状の工具による条線のみが施文されている。11は口縁部の櫛状の把手である。無文である。

(2) 土製品

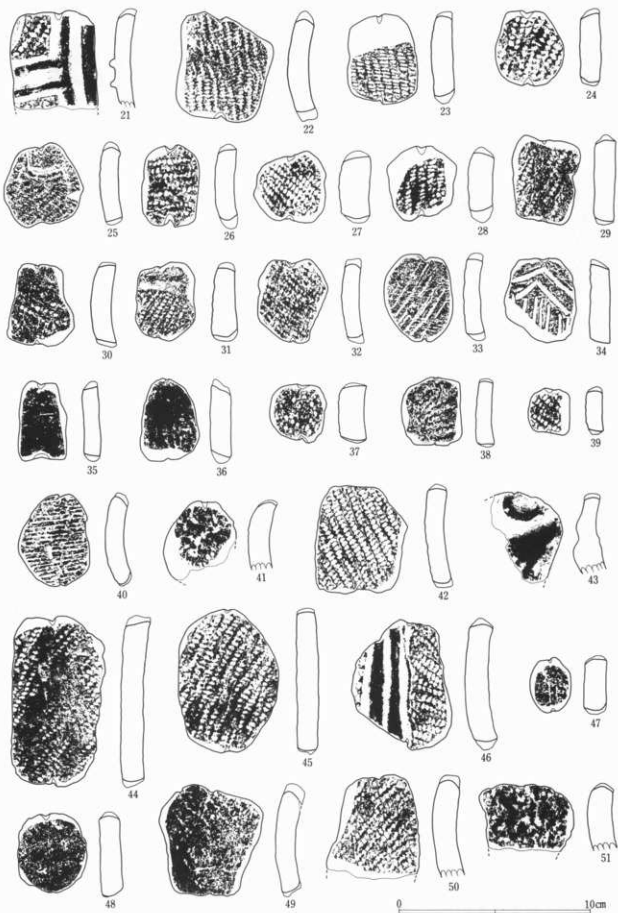
ア 土器片鏝 (第43～47図、図版14～16)

今回の調査で出土した土器片鏝は総計で117点であった。そのうち当該期の遺構等から出土したのも66点、その他の51点はグリッド・古墳時代以降の遺構出土又は表面採集である。切込みを2か所以上残している完形及び完形に近いものが96点、切込みが1か所しか残っていない半欠品が21点である。当該期の出土66点のうち縄文時代の遺構から出土した62点について見るとすべてが住居跡からの出土である。最も多かったのは13号住居跡の22点、次いで12号住居跡の17点である。ほかの住居跡は4～7点の出土である。

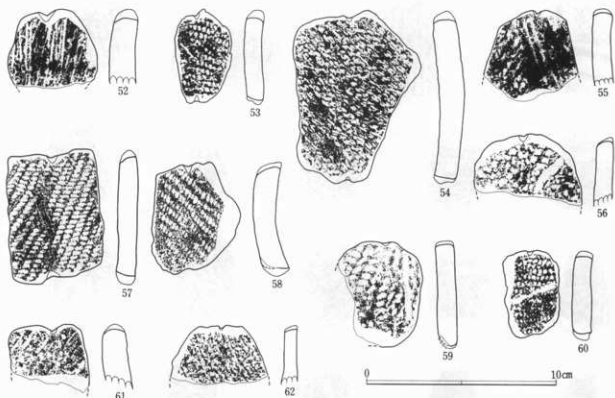
計量・計測値 完形に近い96点について計測した。長軸を一对の切込みを結ぶ方向として、また長軸に直行する軸を短軸とした。なお四辺に切込みをもつ土器片鏝については辺が長い方を長軸として計測を行った。第4表の長短比欄で1を超えるものは見た目横長になる。長軸の長さは、最大9.13cm、最少2.07cm、平均4.89cmを測る。短軸の長さは、最大6.72cm、最少は1.67cm、平均4.01cmを測る。長軸：短軸比では平



第43图 縄文時代遺構出土土器片錘 (1)



第44圖 繩文時代遺構出土土器片鏢 (2)

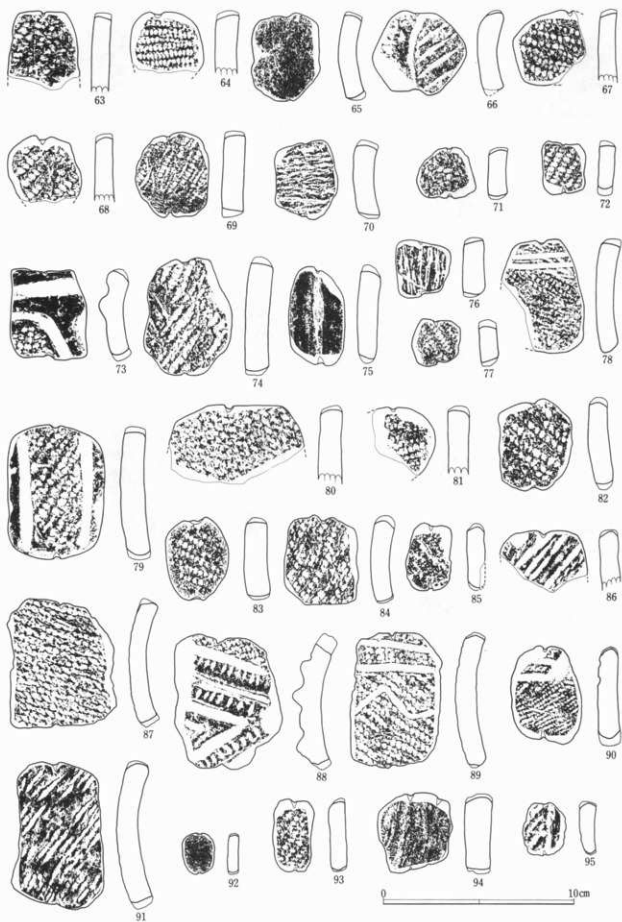


第45図 縄文時代遺構出土土器片鏝 (3)

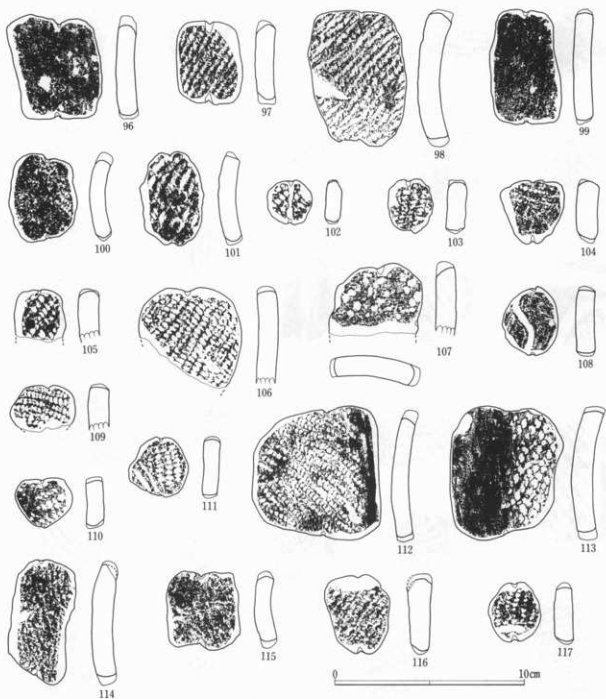
均0.84である。重量については最も重いものは98.5g、最軽量のもののは2.4g、平均の重さは32.5gである。

形態 土器片を基本的には方形又は長方形に成形して使用しているが、素材とした土器の形状に大きく影響されているようである。土器片鏝の「切込み」の位置と素材の土器破片への加工の状態を基準に分類してみる。長軸・短軸の区分について、今回は一対の切込みを結ぶ方向を長軸として、それに直交する方向を短軸として分類した。したがって長軸長が必ずしも短軸長より長いとは限らない。第4表の中で長短比の欄の中で「1.00」未満が長軸が短軸より長く、「1.01」以上が短軸が長軸より長い見かけ横長の土器片鏝である。次に土器片鏝の長軸が元の土器の正位置に対してどのような位置にあるかを観察した。正位置に対して平行なもの（Ⅰ類）、直交するもの（Ⅱ類）、Ⅰ・Ⅱ以外のもの（Ⅲ類）として分類した。また加工の状態に対してもほぼ全周に調整を加えているもの（a類）、一部に調整を加えているもの（b類）、調整が加えられていないもの（c類）として分類した。

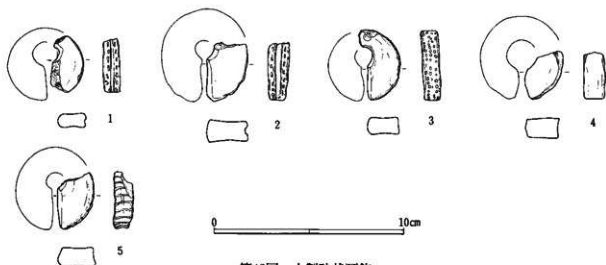
時期・傾向 今回の調査で出土した土器片鏝の時期としては加曾利EⅠ式のものが多い。加曾利EⅠ式に先行する阿玉台式や中期初頭の時期（曾利式？）のものは非常に少ないといえる。また加曾利EⅡ式期としたものも、当該期の古い時期の範囲に入る土器を使用していると思われる。本遺跡と谷を挟んで対岸に位置する「鎌取遺跡」で出土した土器片鏝は阿玉台式期を中心として先行する時期の土器片鏝が多い傾向を示しているのと異なり、加曾利EⅠ式期のものが大部分を占めている。阿玉台式期のものは全体的に少ない。切込みは全体的に見ても細い傾向にあり、太いものはあまり見られない。



第46図 グリッド・トレンチ・縄文時代以外遺構出土土器片鏝 (1)



第47圖 縄文時代以外遺構出土土器片錘 (2)



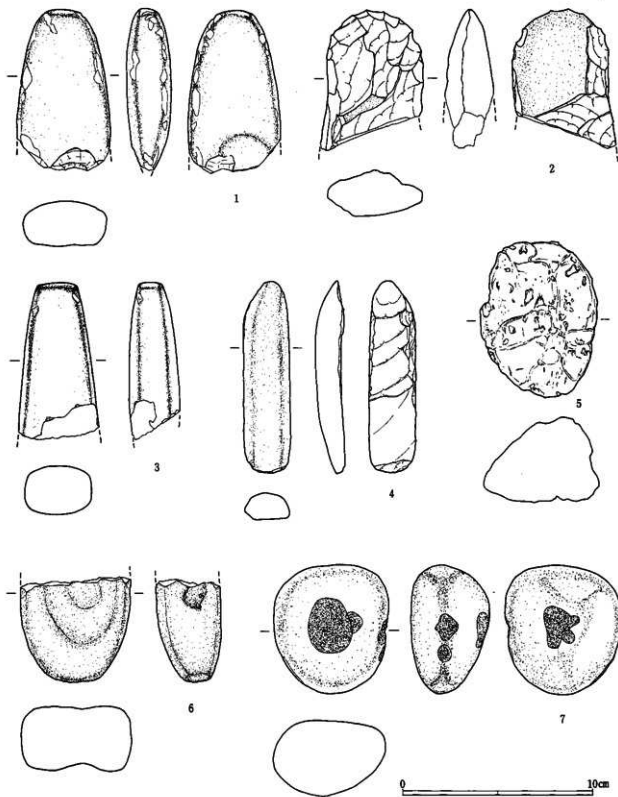
第48図 土製珞状耳飾

イ 土製珞状耳飾 (第48図、図版17)

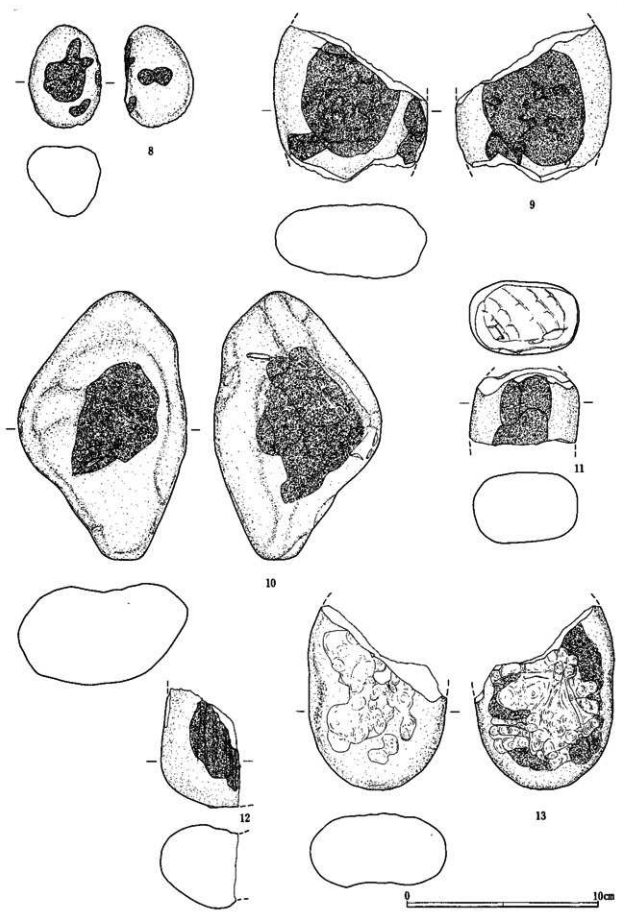
本遺跡からは土製の珞状耳飾が遺構などから5点出土している、残念ながら石製のものは出土していない。また、そのすべてが破片である。そのうち3点は縄文時代中期の遺構からの出土であり、非常に珍しい。以下にその概要を述べることにする。

1は2/3ほどが欠損している。厚さは現存部で最大0.9cmを測る。大きさは直径約4cmほどではないかと思われる。表面は比較的ていねいにミガキが行われている、側面には中央に沈線を回し、両側に細長い刺突を連続して加え文様としている。013号住居跡からの出土である。2は2/3ほど欠損している。厚さは現存部で最大1.1cmを測る、大きさは直径約4.5cmほどではないかと思われる。表面は比較的ていねいにミガキが行われている、側面には1に類似して中央に沈線を回し、両側に細長い刺突を連続して加え文様としている。表面採集である。3は1/2ほどが欠損している。厚さは現存部で最大0.9cmを測る。大きさは直径約3.7cmほどではないかと思われる。表面は比較的ていねいにミガキが行われている。側面にはほぼ三列になるように点状刺突を連続して加え文様としている。また欠損部に近いところに円錐状の凹みがある。補修孔を設けようとしたものかもしれない。023号住居跡からの出土である。4は2/3ほどが欠損している。厚さは現存部で最大1.2cmを測る。大きさは直径約4cmほどではないかと思われる。表面は比較的ていねいにミガキが行われている。側面には装飾的な文様は見られない。053号土坑からの出土である。5は2/3ほどが欠損している。厚さは現存部で最大1cmを測る、大きさは直径約4cmほどではないかと思われる。表面は比較的ていねいにミガキが行われている、側面には車輪を思わせる横位の沈線がほぼ一定の間隔をもって加えられている。006号住居跡からの出土である。

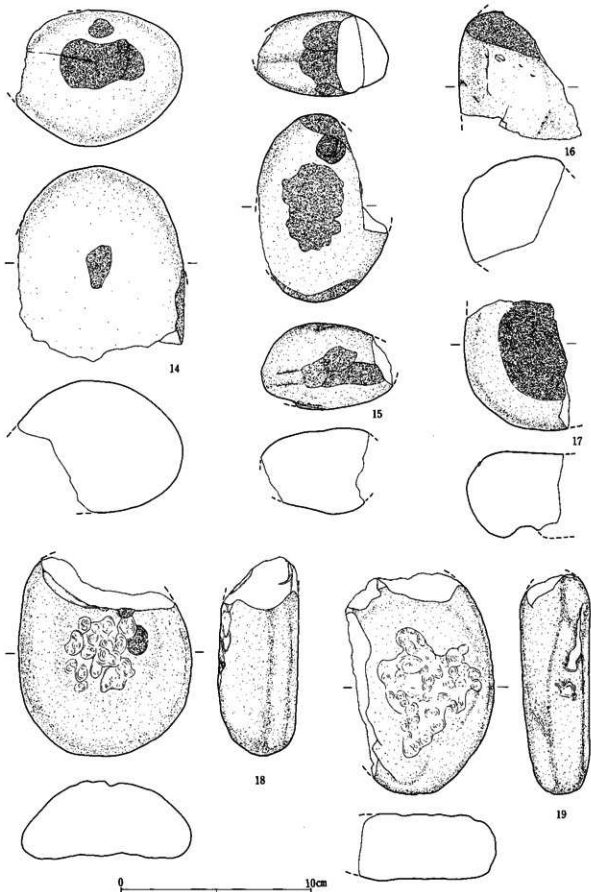
本県における土製珞状耳飾の出土はほとんど縄文時代前期の後半期、土器型式では浮島式～興津式期にその隆盛を見ることができる。縄文時代中期に至ってもごく初期には希に出土例も見られるが、本遺跡の主体となる加曽利EⅠ式期の、しかも遺構からの出土は極めて希な例であろう。それも5点のうち3点が当該期の遺構からの出土である。これら5点ともに観察すると大きさ・形態・文様の種類などからは土製珞状耳飾の隆盛期である縄文前期後半のものに類似している。ただし、本遺跡では縄文時代前期と関連する遺物はこれら土製珞状耳飾以外には見当たらず、所産とする時期の特定は難しい状況にある。



第49図 縄文時代石器 (1)



第50圖 繩文時代石器 (2)



第51圖 縄文時代石器 (3)

(2) 石製品 (第49～53図、図版17・18)

本遺跡からの縄文時代の石斧や石鏃等の石製品の出土量はそれほど多くはなかった。特に縄文時代の遺構からの出土は少なかった。確認調査時のトレンチや縄文時代以外の遺構等から当該期に属する石器等が出土している。そこでそれらの石器もあわせて報告することとし、以下にその概要を述べることにする。

ア 石斧 (第49図)

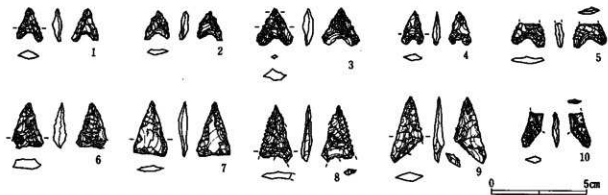
1は定角式の磨製石斧である。器面は丁寧に磨かれ面取りがなされていたが、その後の使用により小さな凹みが器面全体に多数ある。刃部が欠損して全体を知ることはできないが、以前にも欠損した刃部を丁寧に磨き、再生して使用していたようだ。2は分銅形の打製石斧である。使用時による打撃によるものか、刃部を含む半分が欠損している。両面の一部に礫原面がそれぞれ残っていることから、適当な大きさ・形状の礫を加工して石斧にしている。3は定角式の磨製石斧である。刃部を含む下半1/4ほどが欠損している。器面は非常に丁寧に磨かれ、面取りもはっきりと見られる。4はヤリガンナに形状が似た打製石斧である。片面は礫原面を残し、剥離面側にやや湾曲する。刃部と考えられる箇所は使用により欠損摩滅している。また、上半部両側には、柄に装着するためのものと思われる摩滅が見られる。

イ 軽石 (第49図)

5は軽石である。断面を三角形に粗く成形している。所々に凹みが見られるが使用によってできたものではない。加工途中のものであろう。

3. 磨石・凹石・敲石 (第49～51図)

6は凹石であるが半分欠損している。側面はよく磨れて平滑となっている。平坦な両面の中央付近はよく磨れて、わずかであるが断面が円錐状の凹みとなっている。また、長軸の端は敲打によるわずかな凹みが見られる。7は敲石である。拳よりやや小さめの礫を用いて、礫の中央付近で敲打による凹みが見られる。8は敲石である。前記の7より小さい礫を用いている。断面は三角形を呈するが、平坦な面を選んで利用している。被熱した結果赤色に変色し表面がぼろぼろとなっている。9は敲石である。両端を欠く。平坦面を有する両面が使われている。断面が円錐を呈する細かな凹みが、連続して平坦面の大部分を覆う。被熱している。10は大きめの礫だが凹石である。平坦面には敲打による円錐状の小さな凹みが連続して、浅いが大きな凹みを作っている。11は磨石である。半分以上を欠損している。拳大の礫の平坦面を使用している、また端近くの欠損した箇所には一部に摩滅が見られることから何かに使われた結果と思われる。やはり被熱している。12は磨石である。欠損が多く詳細は不明である。平坦面には断面が半円形を呈する直線的な溝状の摺り跡が見られる。砥石として使用されたと思われる。また、側面には敲打による跡が見られる。13は凹石である。半分近く欠損している。平坦面には敲打による円錐状の凹みが連続して作られ、全体的に中央付近が凹んでいる。14は敲石である。半分近くを欠損している。拳よりやや大きめの礫を用い、側面や平坦面の一部に敲打痕を残す。15は磨石である。側面には刷りによる跡が見られる。16は両側面が欠損する磨石である。しかし平坦面には敲打によると思われる細かな凹みが多く見られる。長軸の両端は磨りによる跡が残る。17は磨石である。3/4ほどを欠損している。平坦面には磨りの痕跡が見られる。18は凹石である。一部を欠損している。平坦面には円錐状の凹が連続して広がり、全体的に浅い凹みを作っている。また欠損した部位の一部は使用によるものなのか、摩滅して角が取れている箇所が見られる。



第52図 縄文時代石鏃

19は凹石である。拳大よりやや大きめの平坦な礫を使用している。一部が欠損している。18と同様に、敲打による平坦部には小さな円錐状の凹みが連続して作られている。また側面も一部使用している箇所がある。

エ 石 鏃 (第52図、図版18)

本遺跡からは10点の石鏃が出土している。うち5点が縄文時代の遺構からの出土である。これらの石鏃はすべて無茎式である。これらは挟りが浅いものと深いものとに大別される。特に2と7には主刺離面が残っている。石材は黒曜石が6点、チャートが2点、その他には安山岩、ホルンヘルスがそれぞれ1点である。形状的に見てもすべて縄文時代中期の所産と考えてよい。

オ その他の石器 (第53図、図版18)

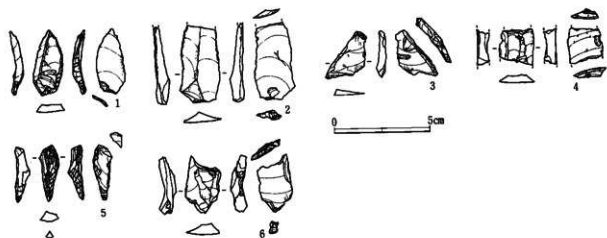
これまで述べた石器群に含まれない石器が縄文時代の遺構から6点出土している。うち5点が同一遺構からの出土である。以下にその概要を述べる。

1はナイフ形石器である。頁岩製の縦長剥片を用いている。右側縁に刃潰しが施され、左側縁を刃部としている。また、基部にも調整が施され、打面はそのため欠損している。2は石刃である。先端部が欠損している。頁岩製の縦長剥片を用い、左側縁に細かな調整が施されている。3は黒曜石の剥片である。右側が欠損しており、打面も失っている。状況から横長剥片であろう。使用痕や調整痕などの加工した痕跡は見られない。4は黒曜石の石刃状剥片である。縦長剥片であるが基部先端とも欠損しているため詳細は不明である。加工した痕跡は見られない。5は砂岩製の石鏃と考える。横長剥片を用いていると考える。先端部は断面が正三角形に近く主刺離面を除く2面に丁寧な調整が施されている。6は黒曜石の縦長剥片である。基部と先端部が欠損している。基部側の折れ面には、挟りを作るように調整が行われている。

(3) 貝製品

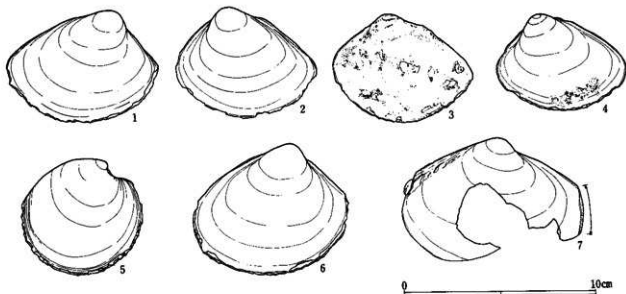
遺構内に貝層を伴う012号・013号の住居跡から6点の貝刃とその他の貝製品が出土している。以下にその概要を述べることとする。

1・2はともに012号住居跡からの出土である。1は殻長が80mm以上のハマグリに腹縁に内側からの打撃



第53図 その他の縄文時代石器

により刃部を作っている。2は殻長が73.3mmを測るハマグリに腹縁に内側から比較的雑に刃部を作っている。一部刃部に欠損が見られる。3～7は013号住居跡からの出土である。3は殻長が73mmを測るハマグリに腹縁に、内側からの打撃により刃部を作っている。刃部は浅く形状にもばらつきが見られ、それほど丁寧な作りではない。4は殻長が68mmを測るハマグリに腹縁に、内側からの打撃により刃部を作っている。刃部の長さは6点の貝刃のうちでは一番短い。しかし比較的丁寧に作られ、刃部の形状や角度がほぼ一定している。5は殻長が64mm以上のカカミガイの腹縁を、内側からの打撃により刃部を作っている。素材の貝にもよるものなのか、刃部は比較的丁寧に作られ、4と同様に刃部の形状や角度がほぼ一定して作られている。6はグリッドからの出土であるが、位置的に013号住居跡と重なるので本住居跡出土とした。殻長は82mm以上を測る。比較的大型のハマグリである。腹縁の内側から打撃を加え刃部を作っている。一部に刃部が連続しない箇所もあり、あまり丁寧には作られていない。7は殻長が95mm以上を測るアリソガイの大型の貝殻である。腹縁を含め欠損部があり全体の状況は分からないが、一部には使用による摩滅が見られることから、貝刃とは別の用途で使われていた可能性がある。



第54図 縄文時代遺構出土貝製品

第3表 縄文土器観察表

遺構	探目No.	分類	遺存度	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調(内/外)	備考
012号住居跡										
12	1	深鉢	口縁1/6	(21.0)	(14.6)	-	細砂粒多い	良	黒褐色/褐色	
12	2	臺台	3/6	11.2	4.9	15.8	砂粒多い	良	褐色	
12	3	深鉢	口縁1/6	(38.0)	(10.6)	-	細砂粒多い	良	黒色/淡赤褐色	
12	4	深鉢	5/6	20.2	(18.5)	-	細砂粒多い	良	淡赤褐色	
013号住居跡										
13	1	深鉢	口縁2/6	(22.0)	(25.5)	-	砂粒多い、雲母含む	良	黒褐色/淡褐色	
13	2	深鉢	口縁2/6	(26.0)	(25.0)	-	砂粒・雲母多い	良	黒褐色	
13	3	深鉢	1/6	(19.8)	(15.0)	-	細砂粒・雲母多い	良	灰黒褐色/淡褐色	
016号住居跡										
16	4	深鉢	2/6	29.8	24.0	-	細砂粒含む	良	淡褐色/黒褐色	
017号住居跡										
17	1	深鉢	底部	-	(5.8)	10.6	砂粒多い	良	黄赤褐色	
023号住居跡										
23	5	深鉢	2/6	21.4	(13.8)	-	砂粒多い	良	褐色/黄褐色	
23	6	深鉢	底部	-	(7.1)	12.4	細砂粒多い	良	黒色/褐色	
23	7	深鉢	底部	-	(8.7)	9.9	砂粒多い	良	黒色/褐色	
23	8	深鉢	口縁部5/6	41.0	(21.0)	-	砂粒多い	良	黒褐色	伊埋股土器
031号住居跡										
31	1	深鉢	底部	-	(6.8)	9.8	砂粒多い	良	黒褐色/褐色	
035号住居跡										
35	1	深鉢	2/6	22.7	(21.0)	-	細砂粒含む	良	褐色	
018号土坑										
18	1	深鉢	1/6	(25.5)	(9.1)	-	細砂粒多い	良	褐色/暗黄褐色	
057号土坑										
57	1	深鉢	1/6	24.9	(10.2)	-	細砂粒含む	良	黄褐色	
グリッド・縄文時代以外遺構										
C230		深鉢	2/6	19.2	(20.0)	-	細砂粒多い、雲母含む	良	暗褐色/淡褐色	
C300		深鉢	口縁1/6	(31.3)	(14.5)	-	砂粒多い	良	淡褐色/黒褐色	
14		深鉢	口縁1/6	(25.4)	(18.0)	-	細砂粒多い	良	褐色	

第4表 土器片観察表(1)

図版番号	出土地点	遺構種類	時期	長軸長cm	短軸長cm	長短比	重量g	部位	分類	備考
43-1	0 1 2	住居跡	加E I	7.40	5.06	0.68	74.5	口縁部	III b	
-2	0 1 2	住居跡	加E II	6.25	6.04	0.97	60.7	口縁部	III b	
-3	0 1 2	住居跡	加E II	5.29	4.79	0.91	53.5	I a		5・9・10・12・13と同一個体
-4	0 1 2	住居跡	阿玉台	4.52	4.03	0.89	28.3	I a		
-5	0 1 2	住居跡	加E II	6.67	5.75	0.86	83.7	II a		3・9・10・12・13と同一個体
-6	0 1 2	住居跡	加E II	7.55	5.16	0.68	69.7	II a		
-7	0 1 2	住居跡	加E I~II	7.32	6.25	0.85	64.8	I b		
-8	0 1 2	住居跡	加E II	(3.82)	(3.78)	-	(17.7)	I a		
-9	0 1 2	住居跡	加E II	8.35	5.81	0.70	98.4	I b		3・5・10・12・13と同一個体
-10	0 1 2	住居跡	加E II	5.66	5.74	1.01	65.7	I b		3・5・9・12・13と同一個体
-11	0 1 2	住居跡	加E II	4.80	4.12	0.86	31.1	II a		
-12	0 1 2	住居跡	加E II	3.94	4.27	1.08	31.8	I b		3・5・9・10・13と同一個体
-13	0 1 2	住居跡	加E II	5.20	4.61	0.89	44	I b		3・5・9・10・12と同一個体
-14	0 1 2	住居跡	曾利?	5.17	5.74	1.11	54.6	III b		
-15	0 1 2	住居跡	加E I	8.90	4.28	0.48	51.7	II b		
-16	0 1 2	住居跡	加E I	3.81	3.23	0.85	15.5	II a		
-17	0 1 2	住居跡	阿玉台	2.33	2.28	0.98	5.9	II a		
-18	0 1 3	住居跡	加E I	7.08	6.39	0.90	98.5	口縁部	I c	
-19	0 1 3	住居跡	加E I	7.15	7.29	1.02	69.8	I c		
-20	0 1 3	住居跡	加E I	6.73	6.06	0.90	59.4	III b		
44-21	0 1 3	住居跡	加E I	(5.2)	4.50	-	(37.1)	口縁部	II c	
-22	0 1 3	住居跡	加E I	5.56	4.93	0.89	40	III b		
-23	0 1 3	住居跡	加E II	4.65	3.71	0.80	24.6	I a		
-24	0 1 3	住居跡	加E II	2.33	2.28	0.98	5.9	II a		
-25	0 1 3	住居跡	加E II	4.14	4.09	0.99	20.6	III a		
-26	0 1 3	住居跡	加E II	4.23	2.98	0.70	16.2	II b		
-27	0 1 3	住居跡	加E II	3.64	3.79	1.04	23.8	III a		
-28	0 1 3	住居跡	加E II	3.73	3.37	0.90	19.2	II b		
-29	0 1 3	住居跡	加E I	4.11	3.52	0.86	22.4	III a		
-30	0 1 3	住居跡	加E I	4.15	3.40	0.82	19.5	II c		
-31	0 1 3	住居跡	加E I	3.88	3.10	0.80	18.2	I a		
-32	0 1 3	住居跡	加E I	4.23	3.47	0.82	17.2	II c		
-33	0 1 3	住居跡	加E I	4.51	3.41	0.76	17.2	III a		
-34	0 1 3	住居跡	阿玉台?	4.29	3.88	0.90	21.4	III a		
-35	0 1 3	住居跡	加E I	4.00	2.48	0.62	11.3	口縁部	I b	
-36	0 1 3	住居跡	阿玉台?	4.20	3.14	0.75	15.9	I b		
-37	0 1 3	住居跡	加E II?	3.04	2.88	0.95	13.5	II a		
-38	0 1 3	住居跡	加E I	3.46	3.05	0.88	13.1	II c		
-39	0 1 3	住居跡	加E II	2.23	2.15	0.96	6	II b		
-40	0 1 6	住居跡	曾利?	4.73	3.88	0.82	20.1	II b		
-41	0 1 6	住居跡	加E I	(3.88)	3.66	-	(17.3)	II a		
-42	0 1 6	住居跡	加E II	5.48	4.87	0.89	39.4	II c		
-43	0 1 6	住居跡	加E I	(4.47)	(4.01)	-	(20.5)	II b		
-44	0 1 8	住居跡	加E I	8.80	4.90	0.56	71.2	I b		
-45	0 1 8	住居跡	加E I	7.38	5.28	0.72	60.2	I a		
-46	0 1 8	住居跡	加E I	6.65	5.03	0.76	53.3	II c		
-47	0 1 8	住居跡	加E II?	2.79	2.14	0.77	9.2	II a		
-48	0 1 8	住居跡	加E I	4.18	3.68	0.88	22.4	I a		
-49	0 1 8	住居跡	加E I	5.73	5.30	0.92	38.9	II c		
-50	0 1 8	住居跡	加E II	(5.33)	5.15	-	(40.4)	II b		
-51	0 2 1	住居跡	加E I?	(3.66)	4.88	-	(33.1)	底部	II c	
45-52	0 2 1	住居跡	曾利?	(4.05)	4.73	-	(33.2)	III a		
-53	0 2 1	住居跡	加E I	4.65	3.13	0.67	16.2	II a		
-54	0 3 3	住居跡	加E II	9.13	6.89	0.75	90	I c		
-55	0 3 3	住居跡	加E II	(4.73)	4.84	-	(29)	口縁部	II c	
-56	0 3 3	住居跡	加E I	(3.14)	5.55	-	(20.4)	I a		
-57	0 3 6	住居跡	加E II	6.65	5.33	0.80	49.6	I b		
-58	0 3 6	住居跡	加E II	5.95	4.80	0.81	37.3	II c		
-59	0 3 6	住居跡	加E II	5.35	4.51	0.84	28.5	I b		
-60	0 3 6	住居跡	加E II	4.39	2.79	0.64	17.8	II b		
-61	0 3 6	住居跡	曾利?	(3.41)	4.30	-	(21.8)	I a		
-62	0 5 7	住居跡	加E II	(3.02)	5.19	-	(15.5)	I c		

第4表 土器片鉦観察表(2)

図版番号	出土地点	遺構種類	時期	長軸長cm	短軸長cm	長短比	重量g	部位	分類	備考
46-63	Aトレンチ		加E I ?	(4.1)	3.74	-	(18.2)		III b	
-64	Bトレンチ		加E II	(3.11)	3.82	-	(17.9)		III a	
-65	貝層下		阿玉台	4.44	3.57	0.80	24.6	底部	II a	
-66	貝層下		加E I	4.34	4.88	1.12	25.5	口縁部	II a	
-67	B2-08	グリッド	加E I	(3.8)	(3.69)	-	(15.6)		II c	
-68	B2-75	グリッド	加E I	(3.35)	3.90	-	(17)		I a	
-69	B2-75	グリッド	加E I	4.39	4.01	0.91	26.5		I a	
-70	C2-00	グリッド	加E I	4.02	3.34	0.83	19.2		II b	
-71	C2-40	グリッド	加E I ?	2.64	2.97	1.13	8.8		II c	
-72	C2-00	グリッド	加E I ?	2.71	2.24	0.83	6.9		I b	
-73	C2-70	グリッド	加E II	4.58	4.05	0.88	26.8	口縁部	I b	
-74	C2-70	グリッド	加E II	6.13	4.69	0.77	40.9		II b	
-75	C2-70	グリッド	加E I	5.03	2.99	0.59	21.7	口縁部	II a	
-76	C2-70	グリッド	曾利 ?	2.87	2.83	0.99	10.9		III b	
-77	C3-00	グリッド	加E I	2.39	2.35	0.98	6.7		II a	
-78	C3-00	グリッド	加E I	5.85	4.16	0.71	28.2		II a	
-79	表探		加E II	6.95	5.05	0.73	62.8	口縁部	II a	
-80	表探		加E I	(4.15)	(6.98)	-	(44.8)		I b	
-81	表探		加E I	(3.34)	(3.54)	-	(12.4)		III a	
-82	表探		加E I	4.74	3.95	0.83	23.2		II b	
-83	表探		加E I	4.19	3.23	0.77	20.6		II a	
-84	表探		加E I	4.59	3.80	0.83	25.5		II c	
-85	0 0 1	住居跡	阿玉台	3.41	2.32	0.68	9.3		III b	
-86	0 0 2	住居跡	加E I	(3.33)	(4.71)	-	(16)		III a	
-87	0 0 4	方形周溝	加E II	6.64	5.48	0.83	57		II c	
-88	0 0 4	方形周溝	加E I	6.88	5.56	0.81	59.6		II c	
-89	0 0 4	方形周溝	加E I	6.99	4.60	0.66	53.9		II a	
-90	0 0 4	方形周溝	加E I	5.03	3.75	0.75	26.1		I a	
-91	0 0 4	方形周溝	加E I	7.45	4.82	0.65	63.6		II b	
-92	0 0 4	方形周溝	?	2.07	1.67	0.81	2.4		II a	
-93	0 0 5	方形周溝	加E I	3.69	2.15	0.58	9.2		I a	
-94	0 0 5	方形周溝	加E I	3.69	3.88	1.05	24.9		II c	
-95	0 0 5	方形周溝	加E I	2.74	2.14	0.78	5.9		II b	
47-96	0 0 6	住居跡	加E I	5.64	4.38	0.78	37.8	口縁部	II a	
-97	0 0 6	住居跡	加E II ?	4.38	3.43	0.78	22.3		II a	
-98	0 0 6	住居跡	加E II	7.29	5.14	0.71	63.9		II c	
-99	0 0 6	住居跡	加E I	6.11	3.69	0.60	28.6		II a	
-100	0 0 6	住居跡	加E I	4.49	3.46	0.77	17.7		II b	
-101	0 0 6	住居跡	加E I	4.79	3.22	0.67	17.1		I a	
-102	0 0 6	住居跡	加E I	2.23	2.41	1.08	5.5		I b	
-103	0 0 6	住居跡	加E I	2.72	2.41	0.89	7.3		I b	
-104	0 0 6	住居跡	加E I ?	3.29	3.32	1.01	13		II b	
-105	0 0 6	住居跡	加E II	(2.77)	2.68	-	(10.3)		II a	
-106	0 0 7	住居跡	加E II	(5.17)	5.39	-	(34.5)		I a	
-107	0 0 7	住居跡	加E I	3.52	4.76	1.35	24		I b	二辺に切込
-108	0 0 7	住居跡	加E I	3.44	2.96	0.86	11.1	口縁部	II a	
-109	0 0 7	住居跡	加E I	(2.38)	(3.28)	-	(8.8)		II a	
-110	0 0 7	住居跡	加E I	2.45	2.97	1.21	8		I a	
-111	0 0 7	住居跡	加E II	3.06	3.00	0.98	8.9		III a	
-112	0 0 9	住居跡	加E I	6.38	6.72	1.05	60.6	口縁部	II a	
-113	0 1 0	住居跡	加E I	6.90	5.92	0.86	56.5	口縁部	II a	
-114	0 1 5	円形周溝	加E I	6.27	3.43	0.55	32.1	底部	II b	
-115	0 1 5	円形周溝	加E I	4.17	3.89	0.93	19.7		II b	
-116	0 1 5	円形周溝	加E I	4.06	3.40	0.84	19.3		I b	
-117	0 1 5	円形周溝	加E I	3.00	2.89	0.96	9.4		III a	
平均	対象	9 6 点		4.89	4.01	0.84	32.24			
最大	対象			9.13	6.72	1.35	98.5			
最小	対象			2.07	1.67	0.55	2.4			

*長軸長及び短軸長欄の(数字)は土器片鉦の一部が欠損しているので現存値を記した。また重量も同様である。

*長軸及び短軸の分類は、対の切り込みを結ぶ方向を長軸とし、それに直行する方向を短軸とした。

*部位欄で、特に記入がないものは土器の胴部破片を用いているものである。

第5表 石器観察表(1)

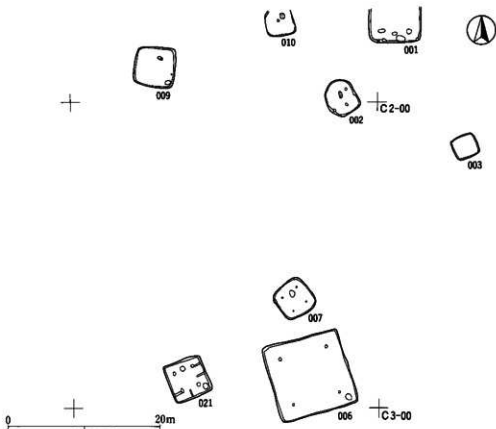
押 図 No	出土地点	器 種	石 材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備 考
49 - 1	014 - 4	石斧(磨製)	凝灰岩	(85.1)	(48.5)	22.0	(141.5)	
- 2	007 - 7	石斧(打製)	ホルンヘルス	(73.0)	(54.0)	(25.7)	(103.6)	
- 3	015 - 6	磨石	花崗岩質岩	67.1	61.7	40.0	235.0	
- 4	013 - 34	石斧	ホルンヘルス	98.8	24.6	14.1	51.6	
- 5	013 - 54	軽石	軽石	80.2	60.8	45.6	42.5	
- 6	C2 - 70	磨石	安山岩	(55.2)	(58.1)	(34.3)	(145.5)	
- 7	015 - 6	磨石	チャート	(78.0)	(64.0)	(54.0)	(249.9)	
50 - 8	036 - 4	敲石	安山岩	54.4	37.1	36.9	72.5	
- 9	036 - 2	敲石	花崗岩	(71.1)	(81.0)	(39.6)	(333.4)	
- 10	B3 - 90	凹石	石英斑岩	138.7	88.5	57.3	856.5	
- 11	012 - 21	磨石	砂岩	(39.6)	(56.1)	(37.8)	(121.7)	
- 12	023 - 1	砥石	砂岩	(61.6)	(40.7)	(52.7)	(150.4)	
- 13	B2 - 68	凹石	チャート	(95.2)	(72.4)	(38.1)	(341.5)	
51 - 14	007 - 1	敲石	石英斑岩	(101.0)	(87.0)	(68.0)	(794.4)	
- 15	015 - 6	石斧(磨製)	細粒砂岩	(101.0)	(42.0)	(26.0)	(134.5)	
- 16	Aトレ	磨石	花崗岩質岩	97.5	(69.4)	(45.4)	(363.5)	
- 17	Bトレ	磨石	安山岩	(77.0)	(54.4)	(48.0)	(175.4)	
- 18	B - 3	凹石	石英斑岩	(122.0)	89.4	40.6	(522.2)	
- 19	表探	敲石	安山岩	(113.7)	(78.6)	36.4	(479.4)	

第6表 石器観察表(2)

押 図 No	出土地点	器 種	石 材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備 考
石 鏃								
52 - 1	7 - 5	石鏃	黒曜石	12.5	13.7	4.1	0.52	
- 2	36 - 1	石鏃	黒曜石	15.5	13.6	7.41	0.56	
- 3	36 - 8	石鏃	黒曜石	20.0	19.9	6.0	1.46	
- 4	24 - 4	石鏃	ホルンヘルス	18.0	11.4	4.1	0.5	
- 5	13 - 3	石鏃	黒曜石	(12.9)	18.1	4.6	(0.89)	
- 6	7 - 5	石鏃	安山岩	24.0	18.1	6.3	1.94	
- 7	C2 - 70	石鏃	チャート	28.2	18.4	3.9	1.60	
- 8	B2 - 8	石鏃	黒曜石	(30.8)	(17.7)	4.9	1.72	
- 9	13 - 30	石鏃	チャート	34.8	(11.7)	5.2	(1.84)	
- 10		石鏃	黒曜石	(18.9)	(11.2)	(3.2)	(0.48)	

その他の縄文時代石器

53 - 1	13 - 30	ナイフ形石器	頁岩	34.8	15.6	4.4	2.30	
- 2	13 - 31	石刃	頁岩	(40.8)	21.3	66.0	(4.72)	
- 3	36 - 10	縦長剥片	黒曜石	30.5	18.2	5.8	3.08	
- 4	13 - 33	石刃状剥片	黒曜石	118.5	18.3	4.7	1.70	
- 5	13 - 31	鏃	砂岩	29.0	10.0	6.5	1.65	
- 6	13 - 15	縦長剥片	黒曜石	24.5	22.3	4.8	1.69	



第55図 古墳時代住居跡配置図（住居跡）

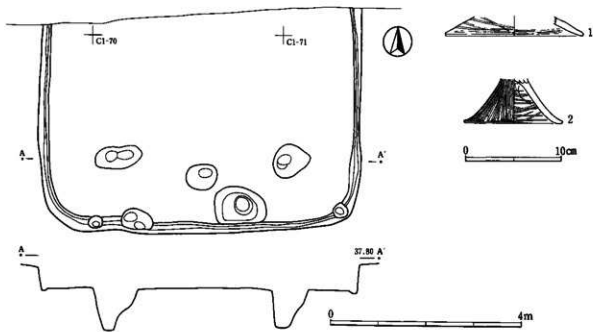
第3節 古墳時代

1 概要

古墳時代の遺構は、縄文時代に比べ数は少ない。竪穴住居跡8軒及び円形・方形の周溝状遺構計6基が調査地区全域に散在して検出されている。住居跡は、北側の一群と南側の一群の間に多少の空間が認められ、その間をぬって周溝状遺構が造られていたようである。竪穴住居跡007号と方形周溝状遺構008号が重複しているが、それ以外は重複もなく互いに避けるように検出されている。古墳時代の遺構から遺物の出土は見られるものの数量としては多くない。006号住居跡及び021号住居跡の2軒については、ほかの遺構と比べて遺物出土の数量が極めて多く、偏りが見られる。また、完形品の占める割合も多い。以下に検出された遺構を中心に古墳時代の概要を述べる。

1 竪穴住居跡

総計8軒の竪穴住居跡が検出されている。いずれも古墳時代前半の時期と考えられる。調査区北側の5軒と南側の3軒の間には多少の空間が認められる。いずれも調査区際であり、それぞれの竪穴住居群はそれぞれさらに北と南側に広がる事が予想される。以下にその概要を述べる。



第56図 001号住居跡

001号住居跡 (第56図、図版19)

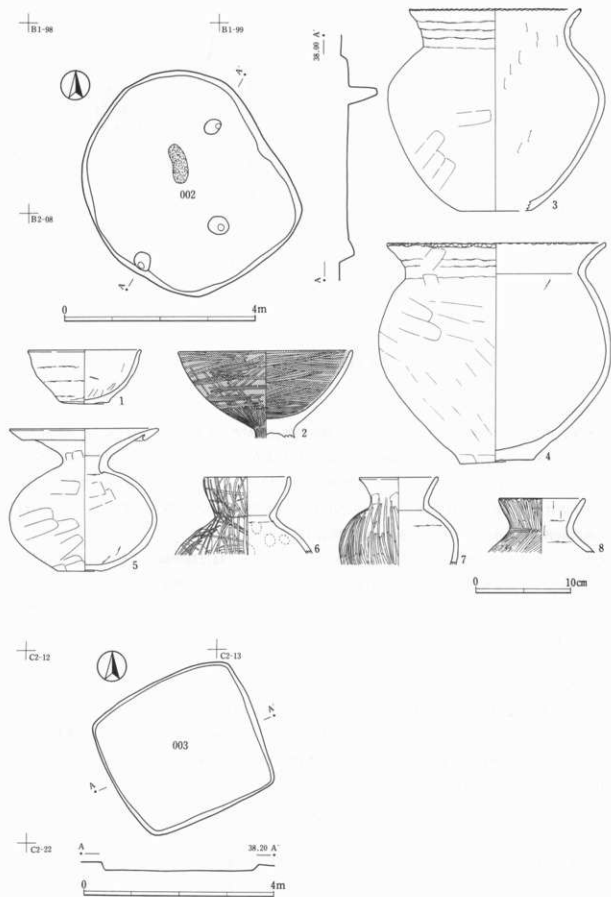
調査区の北端のやや東側に位置し、北側半分が調査区外に広がる。平面形状は一边が6.8mの隅丸方形と考えられる。確認面からの掘込みは0.6mとやや深い。壁は垂直に立ち上がる。炉は今回の調査では検出されなかった。柱穴は4本と考えられるが、うち南側の2本が検出されている。いずれも深さは0.8mと深い。また2本の柱穴間にある深さ0.4mの小ピットは出入のための施設と考える。周溝は壁に沿って認められる。また南側周溝内から小ピットが3か所において検出されている。

遺物の出土は少なく、図示できるものはわずかであった。1・2は高坏脚部である。1は裾部付近である。外面はナデの後粗くヘラミガキを行い、内面はナデの後ハケによる整形を行っている。2は外面はヘラケズリの後ヘラミガキを行い、内面はナデの後ヘラミガキを行っている。裾部はヘラケズリの後ヘラミガキが行われている。

002号住居跡 (第57図、図版19・24)

001号住居跡の南に位置し、平面形状は長径4.6m、短径4.0m、長軸を北西-南東にもつ不整形を呈する。確認面からの掘込みは0.1mと非常に浅い。炉は住居の中央北寄りに検出されている。南北に細長い地床炉である。柱穴は3か所検出されている。東側の2本が深さと炉との位置から本住居の主柱穴4本のうちの2本と考えられる。周溝は検出されなかった。

遺物の出土はそれほど多くはなかった。1は埴である。底部から少し内湾しながら口縁に向かって開く。外面には接合痕が残され全体として仕上がりはあまりよくない。底部はヘラケズリのちナデで整形している。器面は内外面ともナデにより仕上げている。2は高坏の坏部である。内面及び外面の上半部はナデの後ヘラミガキを行っている。下半部はヘラケズリの後ヘラミガキが行われている。内外面とも赤彩されている。3・4は甕である。3は胴部上半に最大径をもつ。口縁は緩やかに外反しながら開き、口唇部に



第57图 002号·003号住居跡

は断面が円い工具の連続押捺が行われ、細かな波形状の刻みを加えられている。頸部には輪積痕が4段残る。外面はヘラケズリの後丁寧なナデ、内面はヘラナデが行われている。4は胴部中央付近に最大径をもち、3より丸みが強い。口縁は外反しながら大きく開く。口唇部には3と同様に、工具による連続押捺が行われ波形状の刻みを加えられている。頸部には3段の輪積痕が残る。外面はヘラケズリの後丁寧なナデ、内面はヘラナデが行われている。5は壺である。口縁部が一部欠損するがほぼ完形である。口縁部はほぼ直線的に大きく開き、口唇部は外面が折り返しによる複合口縁となっている。頸部は強くすばまり径が小さい。胴部の最大径はほぼ中位にあり丸みが強い。外面はヘラケズリののちナデが、内面は頸部以上がナデが胴部はヘラケズリの後ヘラナデが行われている。6は壺の上半である。口縁は頸部から緩やかに内湾しながら開く。外面は、口縁部はヨコナデの後、胴部はヘラケズリの後ヘラミガキが丁寧に行われている。7は壺の上半である。口縁部が外反ぎみに開く、胴部は上位に最大径をもつようである。外面はヘラケズリの後縦方向のヘラミガキが、内面はヘラナデが行われている。口縁部内外面ともヨコナデが行われている。8は壺の口縁部付近である。口縁は頸部から緩やかに外反しながら開く。内外面は口唇部付近はヨコナデが、それ以下は胴部外面はヘラケズリが、内面はヘラナデが行われている。

003号住居跡 (第57図、図版20)

調査区の東、004号周溝状遺構の北に位置する。平面形状は一辺が3.3mのやや不整の方形を呈する。確認面からの掘込みは0.1m以下と非常に浅い。炉、柱穴、周溝などの施設はいっさい検出されていない。遺物の出土は少なく、図示できるものはなかった。

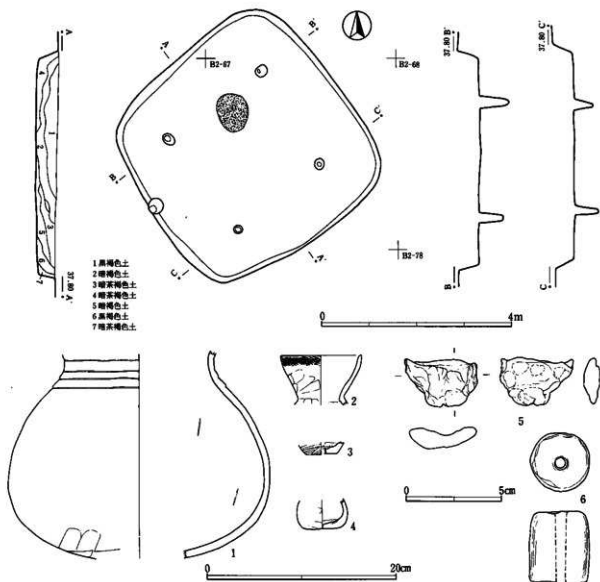
007号住居跡 (第58図、図版20)

調査区の中央付近008号周溝状遺構の南側で重複する。平面形状は一辺が4.7mの隅丸方形を呈する。確認面からの掘込みは0.4mとやや深い。炉は住居中央やや北寄りに地床炉が検出されている。柱穴は5本検出されているが、南西の壁際の一つを除く4本が支柱穴である。平面形状は小さいが、いずれも0.4m以上の深さである。周溝は検出されていない。西側で041号住居跡と重複する。

遺物の出土は少ない。1は壺の胴部である。最大径は胴部下半にもち、下膨れの状態を示す。頸部には輪積痕が4段残る。胴部外面はヘラケズリの後丁寧なナデが、内面はヘラナデが行われている。2は壺の口縁部である。頸部からやや内湾しながら立ち上がり口唇部では強く内湾する。外面はヘラケズリの後ヨコナデ、内面はヨコナデが行われている。3・4はミニチュア土器である。3は底部である。内側は指によるナデが、外面は横方向のヘラミガキが行われている。4は壺形の胴部である。内面はナデが、外面はケズリののちナデを行っている。底部の一部には指頭痕が残っている。5は粘土の板状の塊が焼かれたものである。全体を成形する際の指頭痕が多く残っている。6は管状土錘である。比較的丁寧に作られている。

009号住居跡 (第59図、図版20)

調査区の北西部014号周溝状遺構の北側に位置する。平面形状は一辺が5.3mの隅丸方形を呈する。確認面からの掘込みは0.3mを測る。炉は北の壁に近くやや東寄りに地床炉が検出されている。柱穴は検出されなかった。ただし住居の南東隅に、長径0.7m、短径0.6mの深さが0.2mの楕円を呈する小ピットが検出さ



第58図 007号住居跡

れている、貯蔵穴と考える。

遺物の出土はそれほど多くはなかった。1は甕で、頸部から胴部にかけて残る。最大径を下半部にもつ下膨れの土器である。頸部には輪積痕が4段残る。胴部外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。頸部は内面はヨコナデが、外面は輪積の上からナデを行っている。2は甕の口縁部付近である。頸部上位から口唇部に向かって直線的に開く。口唇部には断面が円い工具を交互に連続押捺して波形状の刻みが加えられている。胴部外面はヘラケズリの後ヘラミガキ、内面はヘラナデの後ヘラミガキを行っている。口縁部は内外面ともヨコナデの後ヘラミガキを行っている。また、胴部外面には煤の付着が見られる。3は甕の口縁部付近である。頸部上位から口唇部に向かって緩やかに外反しながら開く。口唇部には断面が円い工具を交互に連続押捺して波形状の刻みを加えている。胴部外面はヘラケズリの後ヘラミガキ、内面はヘラナデの後ヘラミガキを行っている。口縁部は、外面はヨコナデ、内面は口唇部直下からナデの後ヘラミガキを行っている。4は小型の甕の破片である。胴部中央付近に最大径をもつ、口縁部は頸部から内湾気味にほぼ直線的に開く。胴部外面はヘラケズリの後ヘラミガキ、内面はヘラナデの後

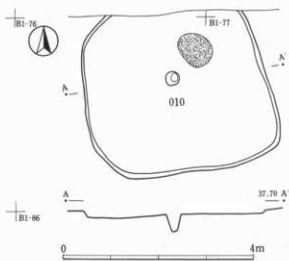
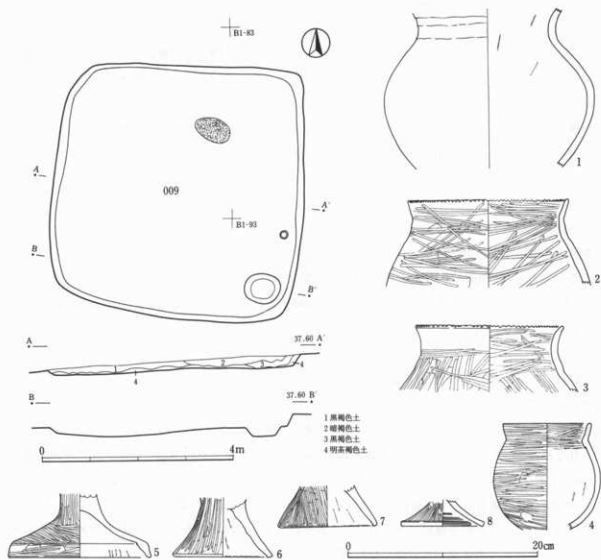
寧なナダを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナダの後ヘラミガキを行っている。5は高坏の脚部である。筒状の脚柱部から裾部が大きく開き、端部では内側に折れる。外面はヘラケズリの後ヘラミガキを、内面はヘラナダを行っている。6は坏部との接合部分から緩やかに開き、円錐状の形状を示す。外面はヘラケズリの後ヘラミガキを、内面はヘラナダを行っている。7は台付甕の台部分である。接合部分からほぼ直線的に開く。外面はヘラケズリの後ヘラミガキを、内面はヘラナダを行っている。8は甕台の脚部である。接合部から大きく開き、端部で内に折れるように面取りが行われ、稜線も明瞭に残る。外面はヘラケズリの後ヘラミガキを、内面はナダのち一部にヘラミガキを行っている。端部付近はヨコナダを行っている。

010号住居跡（第59図、図版21）

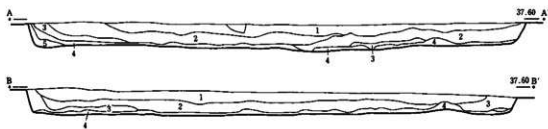
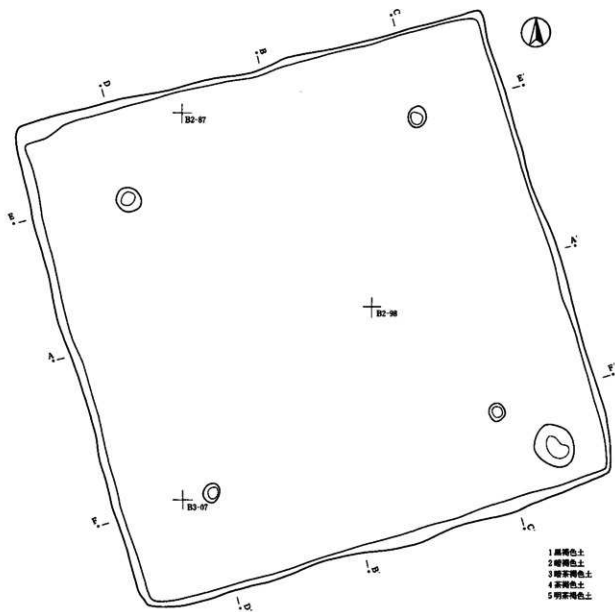
調査区の北端の中央付近に位置し、北辺の一部が調査区外に広がる。平面形状は一辺が3.8mの隅丸方形を呈すると考える。確認面からの掘込みは0.1mと非常に浅い。炉は住居中央から北東寄りに地床炉が検出された。柱穴は炉の南西側住居のほぼ中央付近に1本検出されたのみである、深さは0.4mを測る。遺物の出土はわずかであり、図示できるものはなかった。

006号住居跡（第60～62図、図版21・25・26）

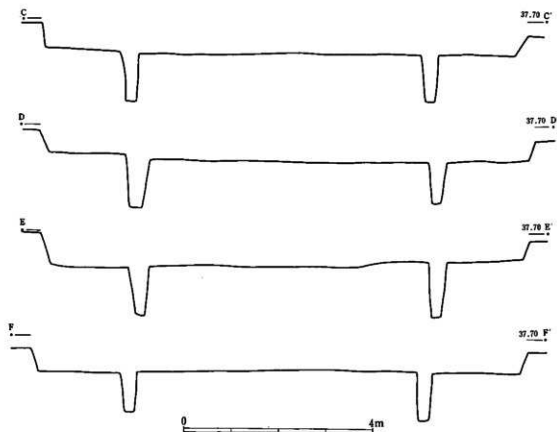
調査区の南側に位置する。北西隅で013号住居跡と重複する。平面形状は一辺が10.4mの方形を呈し、今回検出された住居の中では最も規模が大きい住居である。確認面からの掘り込みは0.4mとやや深い。炉は検出されなかった。柱穴は対角線上にほぼ等間隔に掘られ、やや壁寄りに検出された。深さは南西側の深さ0.8mの1本を除く3本は1.0m以上である。また、009号住居跡と同様に南西隅壁際に長径0.9m、短径0.8m、深さ0.3mを測るピットが検出されている。貯蔵穴と考える。出土遺物の量は多いとはいえないが、その割にはまとまって器形を復元できる遺物が多かった。1～12は坏である。いずれも内外面ともに赤彩されている。1は丸底の底部から内湾しながら開くが、口縁部はまっすぐに立ち上がる。外面はヘラケズリの後ナダを、内面はナダを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナダを行っている。2はほぼ丸底の底部から内湾しながら開く。外面はヘラケズリの後丁寧なナダを、内面はナダを行っている。外面には一部ハケ目が観察されるが、摩滅が激しく整形などが判然としない部位が多い。口縁部は内外面ともにヨコナダを行っている。3は丸底の底部から内湾しながら開き、口縁部付近で上方に立ち上がる。外面はヘラケズリの後丁寧なナダを、内面はナダを行っている。口縁部の内外面はヨコナダが行われている。4は丸底の底部から内湾しながら立ち上がる。外面はヘラケズリ後丁寧なナダを、内面はヘラナダを行っている。口縁部の内外面はヨコナダを行っている。5はほぼ丸底の底部から内湾しながら開く。外面はヘラケズリの後丁寧なナダを、内面はナダを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナダを行っている。6は、底部は欠損しているが丸底と考える底部から緩やかに内湾しながら開き、口縁部付近で上方に向かい、口唇部は内に入る。外面はヘラケズリの後丁寧なナダを、内面はナダを行っている。口縁部は内外面とともにヨコナダを行っている。7は平底から緩やかに内湾しながら上方へ開き、口縁部付近は内側に内傾する。外面はヘラケズリの後丁寧なナダを、内面はナダを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナダを行っている。8は丸底の底部から内湾しながら上方へ開き、口縁部付近は内側に内傾する。外面はヘラケズリの後丁寧なナダを、内面はナダを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナダを行っている。9は平底に近い



第59图 009号·010号住居跡

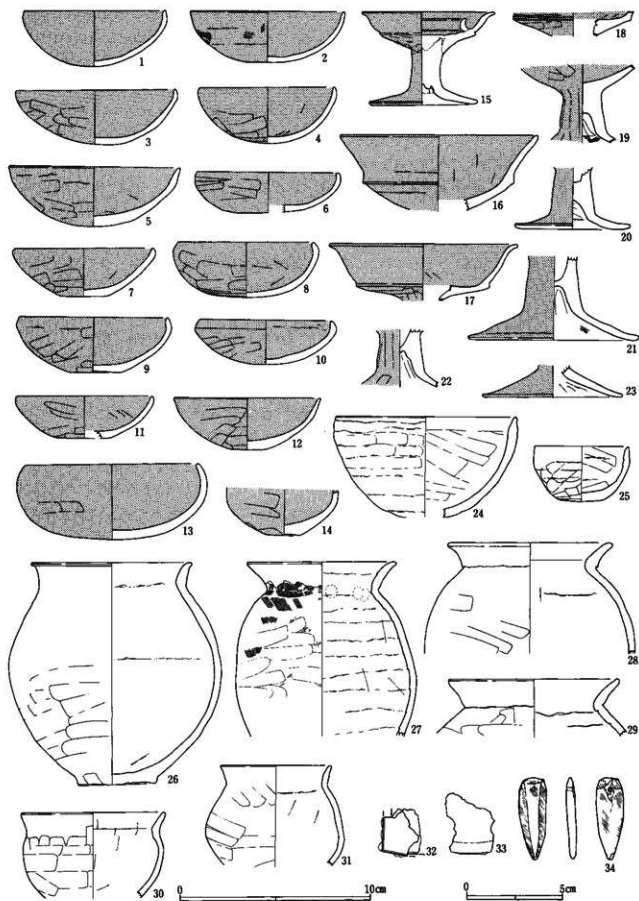


第60图 006号住居跡 (1)



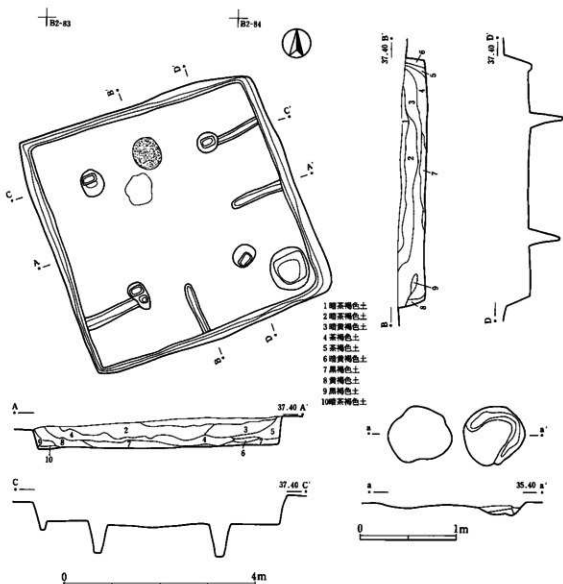
第61図 006号住居跡 (2)

底部から内湾しながら上方へ開き、口縁部付近は内側に内傾する。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はナデを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナデを行っている。10は丸底の底部から緩やかに内湾しながら上方へ開き、口縁部付近では肥厚し、外面では内傾するように口唇部に向かって細くなり、口縁部と胴部の境には明瞭ではないが稜線をもつ。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はナデを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナデを行っている。11は平底の底部から緩やかに内湾しながら開くが、口縁部の外面では内に向き口唇部に向かって内傾する。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラケズリの後ナデを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナデを行っている。12は平底の底部から内湾しながら外側へ開く。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラケズリの後ナデを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナデを行っている。13はほぼ完形の鉢である。平底に近い鍋底状の底部から内湾しながら上方へ開き、口唇部では内傾する。内外面とも赤彩されているが、二次焼成のためか器面が全体的に荒れている。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラケズリの後ナデを行っている。口縁部は内外面ともにヨコナデを行っている。14は鉢の下半部である。内外面とも赤彩されている。ヘラケズリにより成形された平底の底部から緩やかに内湾しながら開き、口縁部に向かって上方に向かう。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラケズリの後ナデを行っている。15~23は高坏である。15は1/4ほどを欠損するが、ほぼ全容を知ることができる唯一の高坏である。脚部内面を除き赤彩が施されている。脚部は、円筒状の脚柱部から裾部は急激に外に開く。坏部は、下半に稜をもち、内湾しながら開き、口唇部付近は大きく外に向かって折れるように開く。内部には、ちょうど外面の稜線の位置から内に折れるような内壁



第62图 006号住居跡 (3)

が一周する。内面はヘラナドを行い、外面の脚部はヘラケズリの後ナドを行っている。脚部内面はナドを行っている。16は高杯の杯部である。脚部は欠損している。内外面とも赤彩を施している。外面の下半部には段のような明瞭な稜を持つ。接合部から緩やかに内湾しながら開き、ちょうど外面の稜の位置から外反しながら口縁に向かい開く。外面はヘラケズリの後丁寧なナドを内面はナドを、口縁部内外面はヨコナドを行っている。17は高杯の杯部で、脚部を欠損している。内外面とも赤彩が施されている。杯部下半に明瞭な稜をもつ。底部は直線的に広がり、稜付近から内湾しながら上方に開き、口唇部付近では外に向かって大きく外反する。外面はヘラケズリの後丁寧なナドを内面はナドを、口縁部内外面はヨコナドを行っている。18は接合部付近である。内外面とも赤彩を施している。外面には稜をもつ。底部付近は直線的に外へ開き、稜付近から上方に向かう。外面はヘラケズリの後丁寧なナドを、内面はヘラナドを行っている。19は高杯の脚部である。裾部以外は内外面ともに赤彩が施されている。杯部は内湾しながら開くと思われる。脚部は柱状を呈し外に向かって大きく開くと思われる裾部が欠損している。外面はヘラケズリの後ナドを、杯部内面はナドを行っている。脚の袖部はハケの後ヨコナドを行っている。20は高杯の脚部である。杯部は欠損している。外面は赤彩が施されている。脚部は柱状を呈し、裾部は大きくほぼ直線的に開く。上部には杯部との接合部分が凹んだ状態で確認できる。柱状部の外面はヘラケズリの後丁寧なナドを、袖部内面はヘラナドを行っている。21は高杯の脚部である。杯部は欠損している。外面は赤彩が施されている。脚部は柱状を呈し、裾部は大きくほぼ直線的に開く。上部には杯部との接合部分が凹んだ状態で確認できる。脚柱部の外面はヘラケズリの後丁寧なナドを、裾部内面はナドを行っている。22は高杯脚部の脚柱部である。外面は赤彩が施されている。裾部内面はヘラナドを行っている。23は高杯脚部の裾部分である。外面は赤彩が施されている。柱状部から大きく直線的に開く。外面はナドを、内面はヘラナドを行っている。24は鉢である。胴部以下を大きく欠損し、底部の形状は不明である。底部から内湾しながら上方へ開き、さらに口唇部では折れるように外へ開く。胴部内外面はヘラケズリの後ナドを、口縁部内外面ともヨコナドを行っている。外面には輪積痕が何段にもわたって観察される。25は完形の小型の鉢である。鍋底状の底部から内湾しながら上方に開き、口縁部付近はほぼ垂直に立ち上がる。胴部外面はヘラケズリののちナドを、内面はヘラケズリの後ヘラナドを行っている。口縁部はヨコナドを行っている。内外面とも輪積痕が多く観察される。26~31は甕である。26は胴部中位に最大径をもつ甕である。底部はヘラケズリにより整形され、平底を呈する。口縁部は頸部から大きく外反し口唇部ではさらに開く。胴部外面はヘラケズリの後ナドを、内面はナドを行っている。口縁部はヨコナドを行っている。27は下半部を大きく欠損する甕である。胴部中位よりやや下に最大径をもつ。胴部外面はヘラケズリの後ナドを、内面はナドを行っている。口縁部はヨコナドを行っている。また、外面頸部を中心にハケ目が、内面には何段もの輪積痕が観察される。28は甕の胴部上半である。胴部中位に最大径をもつと考える。口縁部は頸部から大きく外反しながら開く。胴部外面はヘラケズリの後ナドを、内面はナドを行っている。口縁部はヨコナドを行っている。29は甕の口縁部付近である。口縁は頸部から直線的に大きく開く。胴部外面はヘラケズリの後ナドを、内面はナドを行っている。口縁部はヨコナドを行っている。内面には輪積痕が観察される。30は口唇部に最大径をもつ小型の甕である。口縁部は胴部よりやや肥厚し、直線的に開く。胴部外面はヘラケズリの後ナドを、内面はナドを行っている。口縁部はヨコナドを行っている。31は底部を大きく欠損する小型の甕である。胴部中位よりやや下に最大径をもつ。口縁は直線的に開く。胴部外面はヘラケズリの後ナドを、内面はナドを行っている。口縁部はヨコナドを行っている。32は25mm×21.5mmほどの大きさの2



第63図 021号住居跡 (1)

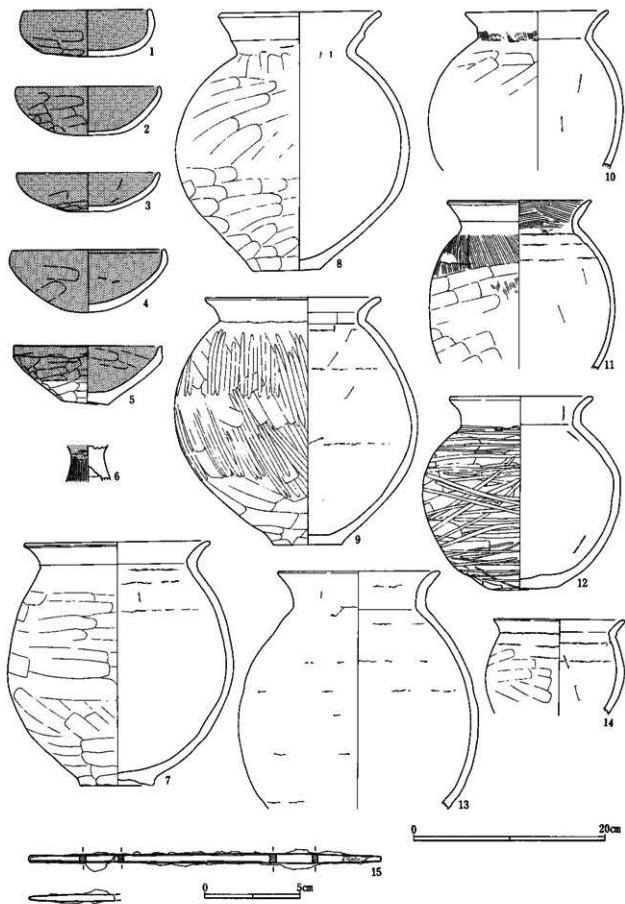
枚の薄い鉄の板が重なっている。鉄錠の可能性も考えられる。33は32mm×26mm、厚さ1mmの薄い板状の鉄である。34は剣型の石製模造品であるが、裏面の先端部に一部欠損がある。肩部を有し、最大幅14mmを測る。長さは43mm、厚さは3.4mmを測る。各面は研ぎ分けられ、両面ともに稜線が明瞭に作られている。肩部に近い中央付近には径が1.4mmほどの孔が穿たれている。表面から裏面に向かって穿孔したものか、裏面には貫通時にできたと考えられる割れが観察される。

021号住居跡 (第63・64図、図版21・27)

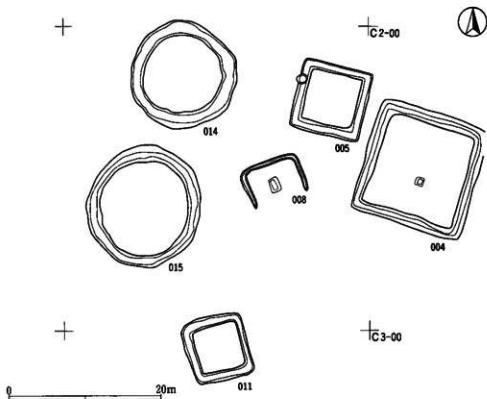
調査区の南西隅、006号住居跡の西に隣接する。南西隅で036号住居跡と重複する。平面形状は一辺が5.2mの方形を呈する。確認面からの掘込みは0.5mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。炉は北壁の近くから2か所検出されている。南側は熱を受け硬化している床面から若干凹んでいる程度である。もう一方は赤く焼けた焼土が残り、住居の壁側の半周以上が熱を受け硬化している。両方がどのように、また同時に使

われたかは不明である。柱穴は対角線上にほぼ等間隔に4本検出された。深さはいずれも0.6mを測る。これら柱穴の住居床面での形状は柱を抜いたような不整形を呈しているが、下半はほぼ一定の大きさの長方形に掘られており、企画性が認められる。床面壁際には幅20cm、深さ5cm～10cmの周溝が壁に沿って一周する。床面は主柱穴の内側がよく踏み固められて周辺と比べて著しく硬化している。また、周溝に接してほぼ直角に東側で2本、南側で1本、西側で1本の間仕切りのための溝が検出されている。うち東側の1本と西側のものは柱穴に達している。住居南西隅壁際には径0.9m、深さ0.4mの貯蔵穴が検出された。確認時は楕円の平面形であったが、下半は方形に近い形状を示している。

遺物の出土はそれほど多くはなかった。1は坏である。平らな底部から緩やかに内湾しながらほぼ垂直に開き、口縁部で若干内に傾く。内外面とも赤彩が施されている。外面はヘラケズリの後ナデを、内面はナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。2は坏である。平らな底部から緩やかに内湾しながら開き、口縁部でまっすぐに立ち上がる。内外面とも赤彩が施されている。外面はヘラケズリの後ナデを、内面はナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。3は坏である。平底から緩やかに内湾しながら大きく開く。内外面ともに赤彩が施されている。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラケズリを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。4は鉢である。丸底から緩やかに内湾しながら開き、口縁部付近ではやや内に傾いて立ち上がる。内外面ともに赤彩が施されている。外面はヘラケズリののちナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。5は鉢である。ヘラケズリにより平底に整形された底部から直線的に大きく開き、口縁部付近からほぼ真直ぐに立ち上がる。内外面ともに赤彩が施されている。内外面ともにヘラケズリの後ナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。6は高環の脚部の破片である。外面には赤彩が施されている。7～14は甕である。7は平底の底部をもち最大径が胴部中位よりやや下にある甕である。口縁は頸部から外反しながら大きく開く。外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。8はヘラケズリにより整形された平底をもち、最大径を胴部中位にもつ甕である。口縁は頸部から外反しながら大きく開くが、途中土器の厚みが薄くなる中位付近では外面に稜線を伴うように段を有してくの字状に曲がる。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。9はヘラケズリにより整形された平底を持ち、最大径を胴部中位に持つ甕である。口縁は頸部から外反しながら大きく開く。外面上部はヘラケズリの後丁寧なヘラミガキを、下部はヘラケズリのみを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。内面には輪積痕も観察される。10は最大径を胴部中位にもつ甕である。底部は欠損している。口縁は頸部から外反しながら大きく開く。外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。外面頸部付近にはハケ目が観察される。11は最大径を胴部中位にもつ甕である。底部は欠損している。口縁は頸部から外反しながら大きく開く。外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部は外面はヨコナデを、内面はナデを行っている。外面頸部直下付近にはハケ目が観察される。12は底部をヘラケズリの後ナデにより整形し、最大径を胴部中位にもつ甕である。土器は大きさに対して厚みがあり、重い。口縁は頸部からやや真直ぐに立ち上がり、そこから大きく外へ開く。外面はヘラケズリの後ヘラミガキを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。13は甕の口縁部から胴部にかけての大型破片である。最大径を胴部中位より少し下にもつ。口縁は頸部から若干真直ぐに立ち上がり外反しながら大きく開く。内外面ともに輪積痕が所々に観察される。外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部



第64图 021号住居跡 (2)



第65図 古墳時代遺構配置図(周溝状遺構)

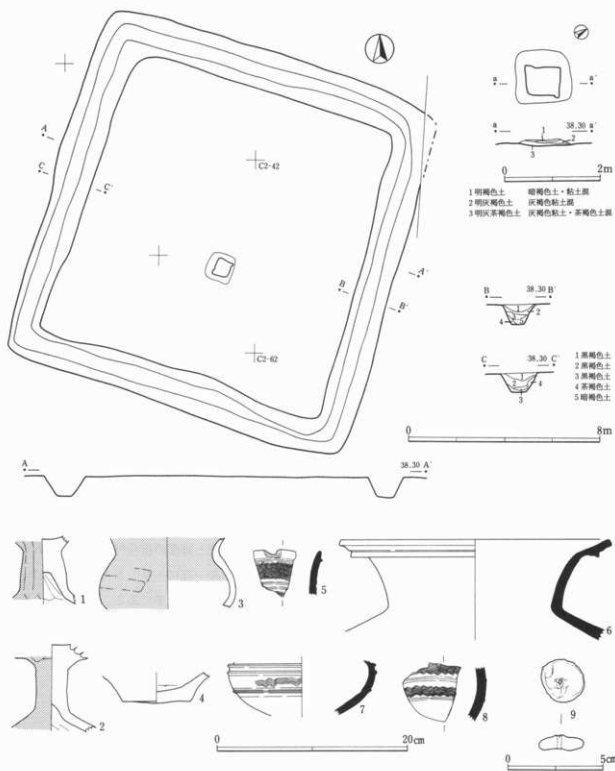
はヨコナデを行っている。14は底部を欠損する小型の甕の破片である。最大径を胴部中位にもつ。口縁は外反しながら大きく開く。内外面ともに輪痕が何段か観察される。外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。15は鉄鍔であろう。長さは18.4cm、最大幅は0.5cm、最大厚は0.3cmを測る。先端部を欠損している。

(2) 周溝状遺構

004号周溝状遺構(第68図、図版22・28)

調査区西端に位置し、北東隅の一部がほんのわずかに調査区外に出る。南西隅で012号住居と重複する。平面形状は方形を呈し、周溝を含めて一辺が15.2mを測る。周溝は南側の両隅付近でやや狭くなるほかはほぼ一定の幅で、1.7mを測る。下端の幅は東側の両隅でやや狭くなるほかはほぼ一定で、0.6mを測る。深さは0.8mと深い方である。周溝内側は盛土もなく平坦であったが、中央やや南側で、平面形状が方形を呈し一辺が約1.1m、厚さ0.2m、覆土に多量の粘土を含む灰白色をしたわずかに盛りあがった遺構を検出した。この盛土様遺構の上面には一辺が約0.6m、深さは最大でも3cmほどの凹みが認められる。何らかの埋葬施設、例えば石櫃か又は同様な形状を示す何かを設置されていたのではないかと考えられる。

遺物は少ない。1は高坏の脚部である。坏との接合部から柱状に脚が延び、下方で裾部が多きく外へ開くようである。外面は赤彩が施されているので、器面が荒れ観察できないが坏部内面もおそらく赤彩されていたであろう。外面はヘラケズリの後ナデを行っている。2は1と同様高坏の脚部である。脚の脚柱部



第66図 004号周溝状遺構

が1より若干長いものの、相対的には同様な器形を呈すると考える。坏内面、脚部外面は赤彩が施されている。外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はナデを行っている。裾部内面はナデを行っている。3は小型甕の破片である。最大径を胴部中位にもち、口縁が頸部から外反しながら開くと考える。胴部外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラナデを行っている。頸部から上は内外面ともヨコナデを行っている。4は甕の底部である。底部はヘラケズリにより整形されている。胴部外面はヘラケズリの後丁寧なナデを、内面はヘラナデを行っている。5は須恵器の口縁部の破片である。口唇部直下と波形文の下部には断面三角形の稜が走る。6は須恵器の大形甕の口縁部付近である。口縁は頸部から直線的に開き、口唇部近くではさらに外に大きく開く。外面の口唇部直下には稜を伴う段を有する。7は須恵器である。高坏の坏部のような器形を示すが、小破片でもあり口縁部が欠損しているため、器種の特定は難しい。口縁部直下には細い稜が二本平行して横走し、波形文を挟んでその下にも断面三角形の稜が横走する。8は須恵器である。小型の壺の器形を示すが、小破片であるので器種の特定は難しい。波形文と断面三角形の稜線を交互に施文している。胎土や文様の施文方法から5の口縁部と同一個体の可能性がある。9は土製円板である。粘土を円形の板状に作り、中央付近に孔を開けている。本製品はやや形状が崩れ、全体として作りは雑である。長軸は29.5mm、短軸は22mm、厚さは12mmを測る。また、孔は焼成前に一方から開けたものと思われ開口部の周りに粘土の盛り上がりが見られる。

005号周溝状遺構（第67図、図版22・28）

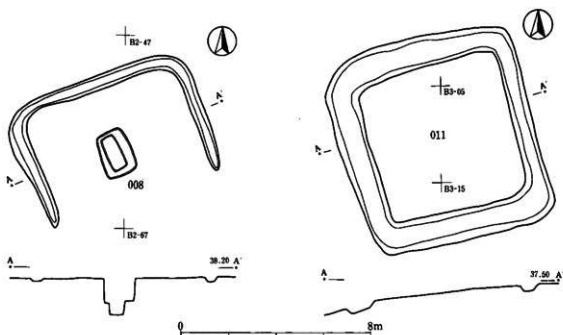
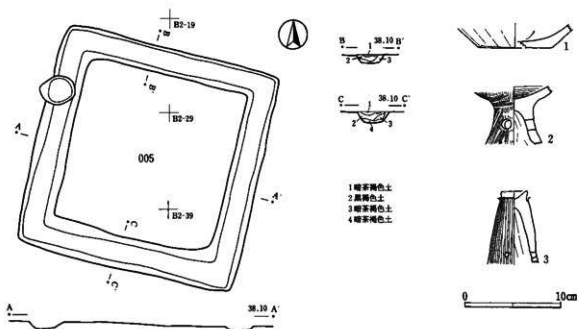
004号周溝状遺構の北西部に接するように位置する。南側で023号住居と、北側で043号土坑と重複する。平面形状は方形を呈し、周溝を含めた一辺が9.4mを測る。周溝の上端の幅は1.3mとほぼ一定である。また下端の幅も0.8mとほぼ一定である。深さは0.2m～0.3mと浅い。周溝内側は盛土もなく平坦であり、埋葬施設等は検出されなかった。

遺物の出土は少なかった。1は甕の底部である。ヘラケズリにより底部を整形している。胴部外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。2は高坏の坏部と脚部の接合付近の破片である。坏の内面はヘラミガキを行っている。脚部を含めた外面はヘラナデの後一部にヘラミガキが行われている。また、脚部は接合直下から裾部が広がり、下方に至ってさらに大きく開く様子である。また、接合直下には径9mmを計る孔が穿たれている。裾部内面はナデを行っている。3は高坏の脚部の破片である。裾部外面はヘラミガキを、内面はヘラナデをおこなっている。また、脚部下方には径4mmを測る孔が穿たれている。また上面には坏部との接合部が残っている。

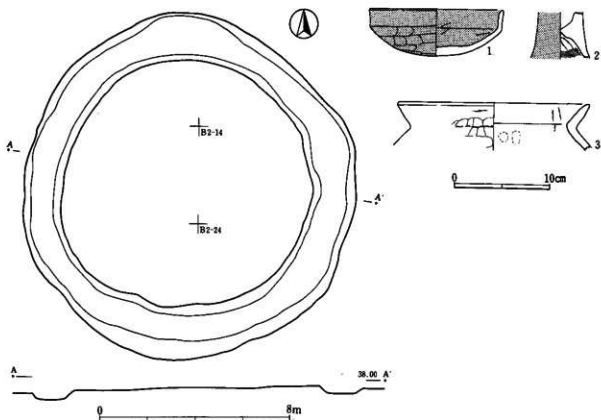
008号周溝状遺構（第67図、図版22）

調査区ほぼ中央付近に位置する。北東角で024号住居と重複している。平面形状は周溝を含めた一辺が8.0mを測る方形を呈すると考える。周溝は一周せず、南側の一部が検出できなかった。残る北側の周溝は上端で0.6m、下端で0.3m、深さは最大で0.2mを測る。東西の溝は南側でやや浅くなるが、ある程度の深さを保っている。このことから本遺構は、西に谷を挟んで接する南二重堀遺跡で検出された「29号跡」³⁾と同様に橋状部を有し、南側に「コ」の字状に溝が作られていた可能性も考えられる。遺物の出土はなかった。

周溝内側は盛土もなく平坦であったが、中央付近で平面形状が長辺1.0m、短辺0.7m、確認面からの深さが0.5mを測る長方形を呈する落込みが検出された。さらに底部には長辺0.7m、短辺0.3m、底部からの



第67图 005号·008号·011号周溝状遺構



第68図 014号周溝状遺構

深さが0.5mの平面形状が長方形を示す落込みが検出されている。この下段の落込みの上方で上段の遺構床面近くに空洞部が確認されていることから、下段の落込みには空洞をもつ何らかの施設が埋設された可能性がある。ただ時代を特定できる遺物が出土していないが、本遺構に伴う埋葬施設と考えてもよさそうである。

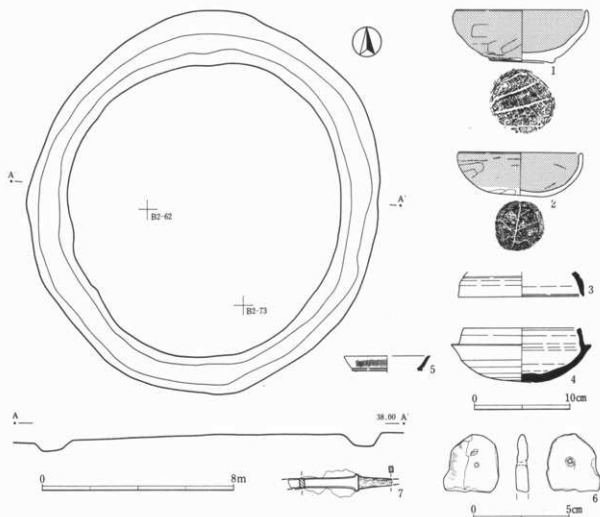
011号周溝状遺構（第67図、図版23）

調査区の南西隅に位置する。021号住居跡の南に接近し、北西隅で036号住居と重複する。平面形状はほぼ方形を呈し、周溝を含めて一辺が8.0mを測る。周溝は西側がやや狭く、上端0.9m、下端0.4mを測る。そのほか3辺はほぼ一様で上端1.3m、下端0.8m、深さは0.2m～0.3mを測る。周溝内側は盛土もなく平坦であり、埋葬施設等は検出されなかった。遺物の出土はなかった。

014号周溝状遺構（第68図、図版23・28）

調査区の西側、015号周溝状遺構の北に並んで検出された。西側や周溝各所で031号住居跡、土坑5基と重複している。平面形状はやや不整形な円形を呈し、周溝を含めた直径が12.8mを測る。周溝は平面で小さな凹凸があるものの、上端で1.8m、下端で1.2m、深さ0.2mを測る。周溝内側は盛土もなく平坦であり、埋葬施設等は検出されなかった。

遺物の出土は少なく、完形に近い坏一個体を除くとすべて破片であった。1は坏である。丸底の底部か



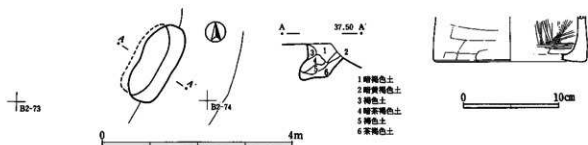
第69図 015号周溝状遺構

ら緩やかに内湾しながら開き、口縁部は垂直に立ち上がる。内外面とも赤彩を施している。胴部外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。2は高環の坏部と脚部の接合部の破片である。上面には坏との接合部が残っている。脚部外面は赤彩が施されている。外面はヘラケズリの後ナデを行っている。3は甕の口縁部付近の破片である。口縁は頸部より直線的に開く。胴部外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。

015号周溝状遺構 (第69図、図版23・28)

014号周溝状遺構の南に接するように位置する。016・018・035号住居跡と049・061号土坑と重複している。平面形はやや不整であるがほぼ円形を呈し、周溝を含めた直径が14.7mを測る。周溝は平面で小さな凹凸があるものの、上端で1.6m、下端で0.8m、深さ0.2m～0.3mを測る。周溝内側は盛土もなく平坦であり、埋葬施設等は検出されなかった。

遺物の出土は少ないが、多様な種類の遺物が出土している。1は坏である。平底で中央付近が凹み周囲には高台様の稜が巡る。また木葉痕が底部外面に残る。底部から外に向かって開き、口縁は真っ直ぐに立ち上がる。内外面とも赤彩が施されている。胴部外面はヘラケズリの後ナデを、内面はナデを行っている。



第70図 050号地下式坑

口縁部はヨコナデを行っている。2は木葉痕が残る平らな底部から内湾しながら開き口縁に向かって真っ直ぐに立ち上がる。内外面とも赤色が施されている。胴部外面はヘラケズリの後ナデを、内面はナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。3は須恵器の蓋の破片で、ロクロによる成形を行っている。口唇部内面に小さいが段をもつ、また、外面口唇部直上には細い溝が走る。4は完形の須恵器杯である。ロクロにより成形され口縁部下部には段をもつ蓋受けを有する。平底気味の底部から内湾しながら開き、頸部から口縁部は内傾する。5は口縁部の破片である。口縁部は直線的に開き、外面には波形式が巡り、その下には断面三角形の稜をもつ。6は剣形の石製模造品であるが、欠損や剝離が著しく、本来の形状は知ることができない。表面には研ぎ分けによる稜線が残るが、裏面には見られない。現存値で長さは29mm、幅は23mm、厚さは6mmを測る。中央付近には径2mmの孔が表面から裏面に向かって穿たれ、裏面には貫通時の凹みが孔の周辺に見られる。7は鉄鏝の破片である。茎部には木片の付着が見られる。現存値で、長さは55mm、幅は柄部で9mm、茎部では5mm、厚さは茎部で2.2mmを測る。

(3) その他の遺構

050号地下式土坑 (第70図)

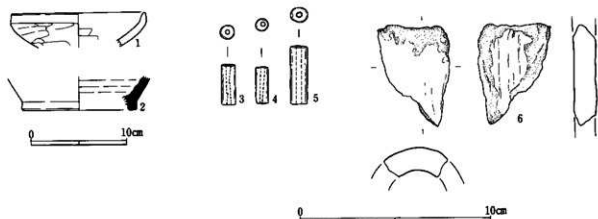
015号周溝状遺構の南東側周溝内側に検出された。長軸を北東-南西にもち、長辺1.7m、短辺0.8mを測る。検出面では隅丸の長方形の平面形状を呈する。深さは、周溝内側の平坦面からは0.7mを測る。底面の長軸が西側にずれており、有段土坑の様相を示す。底面の平面形状は遺構確認面での形状と同様な形状を示す。平面・断面形状と検出された場所、土坑の長軸方向が015号遺構の周溝の内側の縁に沿っていることなどを考えあわせると、015号遺構に伴うものとも考えられるが現時点では難しい。

遺物の出土は少なく、時代を特定できるような遺物は極めて少なかった。1は土師質の甕の底部破片である。胴部は平底から真っ直ぐに立ち上がり、外面はヘラケズリの後ナデを、内面はヘラケズリの後ミガキを行っている。底部はヘラケズリを行っている。遺物を見る限り015号遺構より新しい。

(4) その他の遺物 (第71図、図版28)

本遺跡からは古墳時代遺構外や表面採集で古墳時代の遺物が出土している。以下にそれらの遺物をまとめて報告する。

1は杯の破片である。外反しながら開く胴部から口縁は真っ直ぐに立ち上がる。胴部外面はヘラケズリの後ナデを、内面はナデを行っている。口縁部はヨコナデを行っている。2は須恵器甕の底部付近の破片



第71図 表採遺物

である。ロクロにより成形している。平底と思われる底部には高台をもつ。胴部は直線的に開く。外面は回転ヘラケズリを、内面はナデを行っている。3～5は緑色凝灰岩製の管玉である。3は破損しているが、全体に丁寧な磨かれている。現存値では長さ20mm、外径8mmを測る。中央には両方向から穿孔されている。4の表面は傷が多く摩滅しているが、本来は丁寧に研磨されていたようだ。孔は一方から穿たれており、両小口の口径が違って位置がずれている。長さは19.5mm、外径は7mmを測る。5はこの中では最も大きい管玉である。表面は丁寧に研磨されている。長さは31mm、外径は9mmを測る。6は羽口の吹出し部の破片である。現存部での厚さは12mmを測る。外面端部は熱を受け、溶解し黄白色に変色し、次第に灰色に変わる。時代的には古墳時代前期であろうと考える。

第7表 古墳時代土器観察表(1)

遺構	脚箇No	分類	遺存度	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調(内/外)	赤彩	備考
001号住居跡											
1	1	高杯	脚部1/6	—	(2.0)	(14.4)	石英・雲母	良	橙色		○
1	2	高杯	脚部1/2	—	(4.7)	(10.0)	石英・雲母	良	橙色		
002号住居跡											
2	1	鉢	4/6	11.6	5.6	4.5	砂粒	良	黄褐色		
2	2	高杯	2/6	(18.0)	(9.1)	—	砂粒	良	黒褐色		○
2	3	甕	4/6	17.6	21.4	7.4	石英・長石・砂粒・雲母	良	暗褐色		
2	4	甕	5/6	(22.8)	22.7	7.8	石英・砂粒・スコリア	良	黒褐色/橙色		
2	5	甕	口縁一部欠	14.6	14.8	4.6	長石・砂粒	良	黄褐色		
2	6	甕	2/6	8.8	(8.0)	—	石英・長石・砂粒・スコリア	良	褐色		
2	7	甕	2/6	8.2	(9.0)	—	砂粒	良	赤褐色		
2	8	甕	口縁部1/6	(8.6)	(5.6)	—	石英・長石	良	赤褐色		
007号住居跡											
7	1	甕	2/6	—	(21.2)	—	長石・砂粒・雲母	良	明赤褐色		
7	2	甕	口縁部のみ	8.4	(5.2)	—	石英・砂粒・雲母	良	褐色		
009号住居跡											
9	1	甕	2/6	—	(16.7)	—	石英・長石・砂粒	良	橙色		
9	2	甕	口縁部2/6	(16.6)	(9.0)	—	長石・雲母・スコリア	良	暗赤褐色		
9	3	甕	口縁部4/6	15.2	(6.8)	—	長石・砂粒	良	赤褐色		
9	4	小型甕	1/6	9.2	(11.0)	—	石英・長石・砂粒	良	褐色		
9	5	高杯	脚部のみ	—	(6.1)	14.8	砂粒	良	褐色		
9	6	高杯	脚部のみ	—	(6.0)	10.4	砂粒	良	褐色		
9	7	台付甕	脚部のみ	—	(4.3)	10.4	砂粒	良	褐色		
9	8	甕台	脚部2/6	—	(2.8)	(8.4)	砂粒	良	明赤褐色		
006号住居跡											
6	1	杯	3/6	(14.6)	5.9	—	砂粒	良	赤褐色		○
6	2	杯	口縁一部欠	(16.0)	5.4	—	砂粒・スコリア	良	赤褐色		○
6	3	杯	—	16.4	5.8	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色/黒褐色		○
6	4	杯	5/6	14.0	6.0	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	5	杯	4/6	17.8	6.2	—	石英・長石・砂粒・スコリア	良	赤褐色		○
6	6	杯	4/6	14.6	(4.1)	—	砂粒	良	赤褐色		○
6	7	杯	3/6	14.2	5.0	4.8	石英・長石・砂粒	良	赤褐色		○
6	8	杯	—	7.0	5.8	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	9	杯	—	15.3	5.8	4.8	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	10	杯	4/6	13.7	4.6	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	11	杯	5/6	14.2	(4.4)	(5.4)	長石・砂粒	良	赤褐色		○
6	12	杯	5/6	15.2	5.5	3.2	砂粒	良	赤褐色		○
6	13	鉢	—	17.9	7.8	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	14	鉢	口縁部欠	—	(4.8)	3.6	長石・砂粒・雲母・スコリア	良	赤褐色		○
6	15	高杯	4/6	13.7	9.9	10.2	長石・砂粒	良	赤褐色		○ 特殊
6	16	高杯	4/6	20.6	(7.5)	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	17	高杯	杯部4/6	(19.4)	(5.8)	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	18	高杯	1/6	—	(2.6)	—	石英・長石・砂粒・スコリア	良	赤褐色		○
6	19	高杯	2/6	—	(8.2)	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	褐色		○
6	20	高杯	底部5/6	—	(6.2)	(11.8)	砂粒	良	褐色/赤褐色		○
6	21	高杯	脚部のみ	—	(8.7)	17.8	石英・砂粒・スコリア	良	赤褐色		○
6	22	高杯	脚部2/6	—	(5.9)	—	石英・砂粒	良	褐色/赤褐色		○
6	23	高杯	底部3/6	—	(3.3)	14.5	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		○
6	24	鉢	3/6	18.6	(10.4)	—	石英・長石・砂粒	良	暗褐色/褐色		
6	25	鉢	—	9.8	5.7	4.8	石英・長石・砂粒・雲母	良	褐色		○
6	26	甕	5/6	16.6	22.9	8.0	砂粒	良	明赤褐色		
6	27	甕	3/6	15.2	(18.1)	—	長石・砂粒	良	赤褐色		
6	28	甕	口縁部付近	(16.4)	(11.5)	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	褐色/暗褐色		
6	29	甕	口縁部のみ	17.6	(6.0)	—	砂粒	良	褐色		
6	30	甕	1/6	(14.6)	(8.8)	—	石英・長石・砂粒	良	褐色		○
6	31	甕	4/6	10.4	(10.5)	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色		

第7表 古墳時代土器観察表(2)

遺構	探函No.	分類	遺存度	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調(内/外)	赤彩	備考
021号住居跡											
21	1	杯		13.0	5.0		石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色	○	
21	2	杯		14.8	5.1		砂粒	良	褐色	○	
21	3	杯	5/6	(14.8)	4.2	4.2	石英・長石・砂粒	良	赤褐色	○	
21	4	鉢	3/6	15.6	6.5		長石・砂粒・雲母	良	赤褐色	○	
21	5	鉢		15.2	6.1	4.7	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色	○	
21	6	高杯	脚部1/6	—	(4.2)	—	砂粒・雲母・スコリア	良	褐色		
21	7	壺	5/6	19.1	7.5	25.5	石英・長石・砂粒	良	明赤褐色		
21	8	壺		16.4	27.3	7.0	石英・長石・砂粒	良	赤褐色		煤付着
21	9	壺	5/6	(18.0)	(25.6)	7.2	石英・長石・砂粒・雲母	良	黒褐色		煤付着
21	10	壺	2/6	(14.8)	(16.6)	—	長石・砂粒	良	明黄褐色		
21	11	壺	3/6	14.8	18.3	—	石英・長石・砂粒	良	褐色/暗褐色		煤付着
21	12	壺	5/6	14.8	20.2	—	石英・長石・砂粒	良	黒褐色		煤付着
21	13	壺	2/6	(16.4)	(24.7)	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	明赤褐色		
21	14	小型壺	2/6	13.4	(9.8)	—	砂粒	良	黒褐色		煤付着、刷毛目

004号周溝状遺構

4	1	高杯	脚部の一部	—	(6.8)	—	石英・砂粒・雲母・スコリア	良	褐色/暗赤褐色	○	
4	2	高杯	脚部の一部	—	(8.8)	—	石英・砂粒・スコリア	良	暗赤褐色	○	
4	3	壺	胴部の一部	—	(7.3)	—	石英・砂粒・雲母	良	赤褐色	○	
4	4	壺	底部の一部	—	(3.2)	7.0	石英・長石・砂粒・雲母	良	暗褐色		
4	5	壺	破片	—	—	—	石英・細砂粒	良	灰色		欄目
4	6	壺	口縁部一部	(28.0)	(10.5)	—	石英・石英	良	灰色/黒灰色		
4	7	高杯	破片	—	(5.7)	—	石英・長石・粗砂粒	良	灰色/青灰色		欄目
4	8	壺	破片	—	—	—	石英・長石	良	灰色		欄目

005号周溝状遺構

5	1	壺	底部の一部	—	(2.6)	(7.8)	石英・砂粒・	良	暗褐色/赤褐色		
5	2	高杯	脚部の一部	—	(6.1)	—	砂粒・雲母・スコリア	良	黄褐色		透孔有
5	3	高杯	脚部の一部	—	(6.9)	—	石英・長石・砂粒・雲母	良	赤褐色	○	

014号周溝状遺構

14	1	杯	5/6	14.4	4.9		石英・砂粒・雲母	良	赤褐色	○	
14	2	高杯	脚部1/6	—	(4.8)	—	長石・砂粒	良	黒褐色/赤褐色	○	
14	3	壺	口縁1/6	(20.0)	(4.7)	—	砂粒・雲母	良	赤褐色		

015号周溝状遺構

15	1	杯		13.6	5.5	6.5	砂粒	良	明赤褐色	○	
15	2	杯		13.5	4.4		石英・砂粒	良	赤褐色	○	
15	3	蓋	破片	(13.0)	(2.6)	—	砂粒	良	灰色		
15	4	杯		12.2	5.6	3.6	石英・長石	良	灰色		
15	5	壺	口縁部破片	(8.8)	(1.6)	—	細砂粒	良	青灰色		欄目

その他の遺構・表探

50	壺	底部1/6	—	(4.8)	15.4		石英・長石・砂粒・雲母	良	褐色/灰褐色		
表探	杯	口縁部1/6	(13.8)	(3.7)	—		石英・砂粒・雲母	良	赤褐色	○	
表探	壺	底部1/6	—	(3.5)	(11.8)		長石・雲母	良	灰白色		高台付

第4節 貝層サンプルの分析結果

本遺跡からは、貝層を伴う遺構が検出されている。内訳は縄文時代の住居跡が6軒、土坑が1基である。また、古墳時代の住居跡(006号)からも量は少ないが貝層が検出されている。ここでは縄文時代の遺構から検出された貝を中心に資料をまとめ報告することとする。 定量採取された貝層は、012号住居跡と013号住居跡の貝層で合計5地点からである。その他の遺構からは貝層全体又はブロック単位などで任意に資料採取されている。

1 資料の採取方法

012号と013号住居跡で定量採取した方法は、定量一辺30cm×30cm×厚さ5cm(4,500cm³)の層位を設定し、上層から切り出して採取し、順にサンプル番号を付した。012号住居跡では3か所から合計25単位、013号住居跡からは2か所から合計12単位の資料採取を行った。その他は定量採取を行わず、016号住居跡から3ブロック、006号住居跡から3ブロック、017号住居跡・023号住居跡・032号土坑からそれぞれ1ブロックの合計9か所の資料を採取した。

2 資料の分析方法

採取されたサンプルは、フローテーション法で浮遊物を回収した後、編目が9.52mm・4mm・2mm・1mm・0.5mmの5種類の試験フルイを用いて水洗した。貝類は編目4mm以上のフルイに残ったものを選別、集計した。腹足類は殻軸と殻口部が依存するものを、二枚貝網は殻頂部が依存するものを左右別に集計して、多い方を個体数とした。重量は依存部位にかかわらず同定可能なものをすべて加算した。これらのうち二枚貝に属するシオフキ・アサリ・ハマグリ等の殻長(第8～13表)を計測し、集計した。なお、今回の水洗・選別の作業では貝類以外の魚類・哺乳類等の遺体は検出されなかった。

3 分析・同定の結果

分析・同定の結果、これらの貝サンプルからは巻貝網(腹足類)が不明を含め13種、二枚貝類17種、合計30種近い貝類が同定された。

1. 検出された貝類

軟体動物 MOLLUSCA

巻貝網(腹足類) GASTROPODA

笠貝種不明

イボキサゴ	<i>Umboninm (suchium) moniliferum</i>	ツメタガイ	<i>Glossaulax diadema</i>
カワニナ	<i>Semisulcospira libertina libertina</i>	アカニシ	<i>Rapana venosa venosa</i>
ヘナタリ	<i>Cerithiopsisilla cingulata</i>	ムシロガイ	<i>Niotha livescens</i>
フトヘナタリ	<i>Cerithidea rhizophorum rhizophorum</i>	アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>
ウミニナ属	<i>Botillaria multiformis spp.</i>	バイ	<i>Babylonia japonica</i>
ヒメトクサガイ	<i>Phos hirasei Sowerby</i>	マイマイ類	

二枚貝類 BIVAIVIA

サルボウガイ	<i>Scapharca subcrenata</i>	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica Prime</i>
マガキ	<i>Grassostrea gigas</i>	オニアサリ	<i>Notochione jodoensis</i>
イシガイ科	<i>Unio douglasiae</i>	カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i>
キクザルガイ	<i>Chama japonica Lamarck</i>	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
バカガイ	<i>Macra chinensis chinensis Philippi</i>	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
シオフキ	<i>Macra veneriformis Reeve</i>	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>
アリソガイ	<i>Coelomacra antiquata</i>	オオノガイ	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i>
ニッコウガイ科			<i>Makiyama</i>
フジナミガイ	<i>Soletellina boeddinghausi</i>	種不明	
マテガイ	<i>Solen strictus Gould</i>		

第14～17表では貝種の同定個体数と重量を、貝種ごとに各分析サンプルの合計数と総計数を示した。なお、合計数には006号住居跡は含んではいない。

個体数の最も多かったのはイボキサゴで全体の85.1%を、次はハマグリで10.6%を占め、この両種で実に全体の95.7%を占める。その他1%を越す出現率を占める貝種はウミニナ属(1.5%)、アラムシロ(1.2%)の2種にすぎない。また、個体数が100個を越えるものは前記の4種以外にはシオフキ、マテガイ、アサリの3種で合計しても7種と少ない。これら7種の貝類は縄文中期の貝層の中では一般的に見られる貝種でもあるといえる。

これらの同定された貝種の中では、イボキサゴやハマグリなどに代表される内湾の砂泥底に生息する貝種が半数近くを占めている。このことは、村田川の河口近く直線距離にして約2.5kmに位置する本遺跡の立地とすれば当然と思われる。このほかに注目される貝種としては、外洋に面した砂浜に生息するアリソガイや淡水性巻貝であるカワニナ、汽水域に生息するオキシジミが上げられる。いずれも砂泥底に生息する貝種と比べて採取量としては非常に少ない。

次に、二枚貝のハマグリ・シオフキ・アサリの殻長の計測値の状況を見ることにする。それぞれ平均値を示すとハマグリ31.3mm、シオフキ34.9mm、アサリ31.6mmである。ハマグリはやや小さめ、シオフキ、アサリは平均的な大きさであるといえる。ただ、貝の大きさは貝層により大きさに多少のばらつきがあり、これは採取された時期や場所によるものと思われる。

第8表 サンプル別アサリ殻長一覧

012-C1	
殻長 (mm)	合計
12.5-15.0	2
15.0-17.5	0
17.5-20.0	0
20.0-22.5	0
22.5-25.0	1
25.0-27.5	0
27.5-30.0	1
30.0-32.5	4
32.5-35.0	6
35.0-37.5	3
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合計	17

012-C2	
殻長 (mm)	合計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	1
25.0-27.5	2
27.5-30.0	2
30.0-32.5	3
32.5-35.0	9
35.0-37.5	4
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
50.0-52.5	0
合計	21

013-C	
殻長 (mm)	合計
10.0-12.5	1
12.5-15.0	0
15.0-17.5	2
17.5-20.0	0
20.0-22.5	1
22.5-25.0	0
25.0-27.5	1
27.5-30.0	1
30.0-32.5	1
32.5-35.0	2
35.0-37.5	0
37.5-40.0	2
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合計	11

013-S	
殻長 (mm)	合計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	0
27.5-30.0	3
30.0-32.5	5
32.5-35.0	3
35.0-37.5	0
37.5-40.0	3
40.0-42.5	2
42.5-45.0	2
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合計	18

016	
殻長 (mm)	合計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	0
27.5-30.0	3
30.0-32.5	0
32.5-35.0	0
35.0-37.5	0
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合計	3

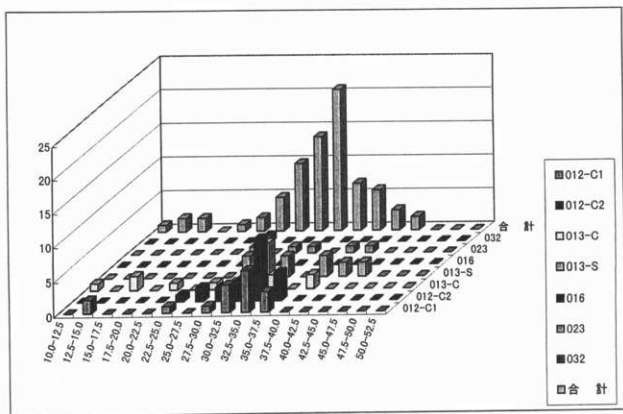
023	
殻長 (mm)	合計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	1
27.5-30.0	0
30.0-32.5	1
32.5-35.0	1
35.0-37.5	0
37.5-40.0	1
40.0-42.5	1
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合計	5

032	
殻長 (mm)	合計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	1
27.5-30.0	0
30.0-32.5	0
32.5-35.0	0
35.0-37.5	0
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合計	1

第9表 アサリ殻長一覧

殻長 (mm)	012-C1	012-C2	013-C	013-S	016	023	032	合計
10.0-12.5	0	0	1	0	0	0	0	1
12.5-15.0	2	0	0	0	0	0	0	2
15.0-17.5	0	0	2	0	0	0	0	2
17.5-20.0	0	0	0	0	0	0	0	0
20.0-22.5	0	0	1	0	0	0	0	1
22.5-25.0	1	1	0	0	0	0	0	2
25.0-27.5	0	2	1	0	0	1	1	5
27.5-30.0	1	2	1	3	3	0	0	10
30.0-32.5	4	3	1	5	0	1	0	14
32.5-35.0	6	9	2	3	0	1	0	21
35.0-37.5	3	4	0	0	0	0	0	7
37.5-40.0	0	0	2	3	0	1	0	6
40.0-42.5	0	0	0	2	0	1	0	3
42.5-45.0	0	0	0	2	0	0	0	2
45.0-47.5	0	0	0	0	0	0	0	0
47.5-50.0	0	0	0	0	0	0	0	0
50.0-52.5	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	17	21	11	18	3	5	1	76

試料数	17	21	11	18	3	5	1	76
平均	30.37	32.20	26.93	35.00	28.75	34.25	26.25	31.61
標準偏差	3.45	3.80	2.22	3.00	6.97	3.27	6.37	2.55



アサリ殻長

第10表 サンプル別シオフキ般長一覧

006

般長 (mm)	合 計
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
50.0-52.5	3
52.5-55.0	1
55.0-57.5	0
57.5-60.0	1
合 計	5

012-C1

般長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	1
27.5-30.0	3
30.0-32.5	9
32.5-35.0	10
35.0-37.5	10
37.5-40.0	6
40.0-42.5	5
42.5-45.0	1
45.0-47.5	1
47.5-50.0	0
合 計	46

012-C2

般長 (mm)	合 計
10.0-12.5	1
12.5-15.0	0
15.0-17.5	0
17.5-20.0	0
20.0-22.5	1
22.5-25.0	0
25.0-27.5	0
27.5-30.0	11
30.0-32.5	20
32.5-35.0	38
35.0-37.5	23
37.5-40.0	12
40.0-42.5	9
42.5-45.0	1
45.0-47.5	0
47.5-50.0	1
合 計	117

013-C

般長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	3
27.5-30.0	6
30.0-32.5	21
32.5-35.0	19
35.0-37.5	16
37.5-40.0	14
40.0-42.5	7
42.5-45.0	6
45.0-47.5	1
47.5-50.0	0
合 計	93

013-S

般長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	0
27.5-30.0	2
30.0-32.5	9
32.5-35.0	29
35.0-37.5	21
37.5-40.0	4
40.0-42.5	2
42.5-45.0	1
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合 計	68

016

般長 (mm)	合 計
12.5-15.0	1
15.0-17.5	0
17.5-20.0	0
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	2
27.5-30.0	0
30.0-32.5	2
32.5-35.0	6
35.0-37.5	2
37.5-40.0	1
40.0-42.5	2
42.5-45.0	0
45.0-47.5	1
47.5-50.0	0
合 計	17.0

023

般長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	0
27.5-30.0	1
30.0-32.5	0
32.5-35.0	4
35.0-37.5	0
37.5-40.0	0
40.0-42.5	1
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合 計	6

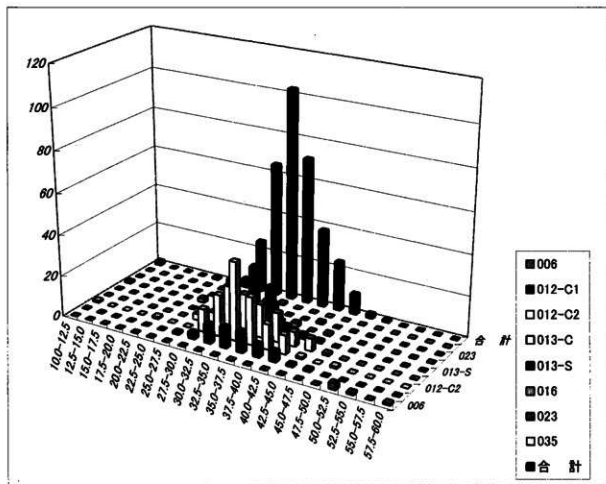
035

般長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	0
27.5-30.0	0
30.0-32.5	0
32.5-35.0	1
35.0-37.5	0
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合 計	1

第11表 シオフキ股長一覧

股長 (mm)	006	012-C1	012-C2	013-C	013-S	016	023	035	合計
10.0-12.5	0	0	1	0	0	1	0	0	2
12.5-15.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15.0-17.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17.5-20.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20.0-22.5	0	0	1	0	0	0	0	0	1
22.5-25.0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
25.0-27.5	0	1	0	3	0	0	0	0	4
27.5-30.0	0	3	11	6	2	2	1	0	25
30.0-32.5	0	9	20	21	9	6	0	0	65
32.5-35.0	0	10	38	19	29	2	4	1	103
35.0-37.5	0	10	23	16	21	1	0	0	71
37.5-40.0	0	6	12	14	4	2	0	0	38
40.0-42.5	0	5	9	7	2	0	1	0	24
42.5-45.0	0	1	1	6	1	1	0	0	10
45.0-47.5	0	1	0	1	0	0	0	0	2
47.5-50.0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
50.0-52.5	3	0	0	0	0	0	0	0	0
52.5-55.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
55.0-57.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
57.5-60.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	46	117	93	68	17	6	1	348

試料数	5	46	117	93	68	17	6	1	348
平均	53.25	35.27	34.35	35.15	34.71	31.10	34.17	33.75	34.59
標準偏差	7.46	2.74	3.03	2.62	3.95	2.72	5.22	7.55	2.91



シオフキ股長

第12表 サンプル別ハマグリ殻長一覽

006	
殻長 (mm)	合 計
30.0-32.5	0
32.5-35.0	2
35.0-37.5	1
37.5-40.0	4
40.0-42.5	4
42.5-45.0	6
45.0-47.5	1
47.5-50.0	5
50.0-52.5	2
52.5-55.0	0
55.0-57.5	0
57.5-60.0	0
60.0-62.5	1
62.5-65.0	1
65.0-67.5	0
67.5-70.0	0
70.0-72.5	0
72.5-75.0	0
75.0-77.5	0
77.5-80.0	0
80.0-82.5	1
82.5-85.0	0
85.0-87.5	0
87.5-90.0	1
合 計	29

012-C1	
殻長 (mm)	合 計
10.0-12.5	1
12.5-15.0	5
15.0-17.5	2
17.5-20.0	5
20.0-22.5	23
22.5-25.0	89
25.0-27.5	135
27.5-30.0	115
30.0-32.5	65
32.5-35.0	45
35.0-37.5	19
37.5-40.0	12
40.0-42.5	7
42.5-45.0	1
45.0-47.5	9
47.5-50.0	2
50.0-52.5	1
52.5-55.0	2
55.0-57.5	1
57.5-60.0	0
60.0-62.5	1
62.5-65.0	2
65.0-67.5	0
67.5-70.0	1
70.0-72.5	1
合 計	544

012-C2	
殻長 (mm)	合 計
7.5-10.0	2
10.0-12.5	12
12.5-15.0	14
15.0-17.5	6
17.5-20.0	6
20.0-22.5	6
22.5-25.0	16
25.0-27.5	101
27.5-30.0	399
30.0-32.5	625
32.5-35.0	393
35.0-37.5	111
37.5-40.0	41
40.0-42.5	13
42.5-45.0	16
45.0-47.5	4
47.5-50.0	3
50.0-52.5	4
52.5-55.0	0
55.0-57.5	0
57.5-60.0	1
合 計	1773

012-P	
殻長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	0
27.5-30.0	3
30.0-32.5	1
32.5-35.0	1
35.0-37.5	0
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合 計	5

013-C	
殻長 (mm)	合 計
0-2.5	0
2.5-5.0	0
5.0-7.5	2
7.5-10.0	6
10.0-12.5	13
12.5-15.0	17
15.0-17.5	29
17.5-20.0	11
20.0-22.5	6
22.5-25.0	30
25.0-27.5	85
27.5-30.0	249
30.0-32.5	339
32.5-35.0	235
35.0-37.5	136
37.5-40.0	82
40.0-42.5	43
42.5-45.0	33
45.0-47.5	13
47.5-50.0	18
50.0-52.5	7
52.5-55.0	3
55.0-57.5	4
57.5-60.0	0
60.0-62.5	2
62.5-65.0	1
65.0-67.5	1
67.5-70.0	1
70.0-72.5	1
72.5-75.0	0
合 計	1367

016	
殻長 (mm)	合 計
10.0-12.5	3
12.5-15.0	3
15.0-17.5	1
17.5-20.0	0
20.0-22.5	8
22.5-25.0	59
25.0-27.5	155
27.5-30.0	226
30.0-32.5	196
32.5-35.0	141
35.0-37.5	50
37.5-40.0	21
40.0-42.5	18
42.5-45.0	6
45.0-47.5	3
47.5-50.0	2
50.0-52.5	1
52.5-55.0	0
55.0-57.5	1
57.5-60.0	2
60.0-62.5	2
62.5-65.0	0
65.0-67.5	1
67.5-70.0	1
70.0-72.5	1
72.5-75.0	0
75.0-77.5	1
77.5-80.0	0
合 計	902

017	
殻長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	1
25.0-27.5	4
27.5-30.0	6
30.0-32.5	14
32.5-35.0	13
35.0-37.5	5
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合 計	43

023

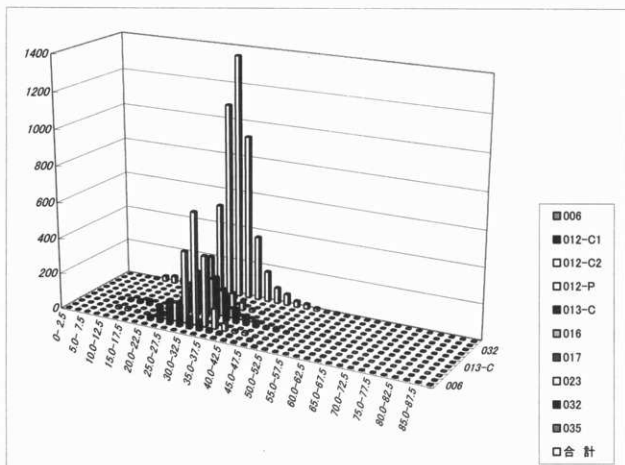
穀長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	0
25.0-27.5	9
27.5-30.0	55
30.0-32.5	99
32.5-35.0	84
35.0-37.5	41
37.5-40.0	15
40.0-42.5	6
42.5-45.0	5
45.0-47.5	3
47.5-50.0	1
50.0-52.5	1
52.5-55.0	0
55.0-57.5	2
57.5-60.0	0
合 計	321

032

穀長 (mm)	合 計
20.0-22.5	0
22.5-25.0	1
25.0-27.5	4
27.5-30.0	4
30.0-32.5	3
32.5-35.0	1
35.0-37.5	0
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合 計	13

035

穀長 (mm)	合 計
15.0-17.5	0
17.5-20.0	1
20.0-22.5	0
22.5-25.0	3
25.0-27.5	15
27.5-30.0	23
30.0-32.5	10
32.5-35.0	5
35.0-37.5	1
37.5-40.0	0
40.0-42.5	0
42.5-45.0	0
45.0-47.5	0
47.5-50.0	0
合 計	58



ハマグリ穀長

第13表 ハマグリ般長一覽

般長 (mm)	006	012-C1	012-C2	012-P	013-C	016	017	023	032	035	合 計
0- 2.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2.5- 5.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.0- 7.5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
7.5-10.0	0	0	2	0	6	0	0	0	0	0	8
10.0-12.5	0	1	12	0	13	3	0	0	0	0	29
12.5-15.0	0	5	14	0	17	3	0	0	0	0	39
15.0-17.5	0	2	6	0	29	1	0	0	0	0	38
17.5-20.0	0	5	6	0	11	0	0	0	0	1	23
20.0-22.5	0	23	6	0	6	8	0	0	0	0	43
22.5-25.0	0	89	16	0	30	59	1		1	3	199
25.0-27.5	0	135	101	0	85	155	4	9	4	15	508
27.5-30.0	0	115	399	3	249	226	6	55	4	23	1080
30.0-32.5	0	65	625	1	339	196	14	99	3	10	1352
32.5-35.0	2	45	393	1	235	141	13	84	1	5	918
35.0-37.5	1	19	111	0	136	50	5	41	0	1	363
37.5-40.0	4	12	41	0	82	21	0	15	0	0	171
40.0-42.5	4	7	13	0	43	18	0	6	0	0	87
42.5-45.0	6	1	16	0	33	6	0	5	0	0	61
45.0-47.5	1	9	4	0	13	3	0	3	0	0	32
47.5-50.0	5	2	3	0	18	2	0	1	0	0	26
50.0-52.5	2	1	4	0	7	1	0	1	0	0	14
52.5-55.0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	5
55.0-57.5	0	1	0	0	4	1	0	2	0	0	8
57.5-60.0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3
60.0-62.5	1	1	0	0	2	2	0	0	0	0	5
62.5-65.0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
65.0-67.5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
67.5-70.0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3
70.0-72.5	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3
72.5-75.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75.0-77.5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
77.5-80.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80.0-82.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
82.5-85.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85.0-87.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87.5-90.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	29	544	1773	5	1367	902	43	321	13	58	5026

試料数	29	544	1773	5	1367	902	43	321	13	58	5026
平均	47.37	28.96	31.26	30.25	32.05	30.61	31.60	33.12	28.56	28.66	31.19
標準偏差	2.54	1.79	2.59	3.48	1.96	2.06	2.72	2.53	2.48	2.55	2.13

第14表 サンプル別異種同定表

0 0 6

種 類	個体数		重量 g	
ウミナシ	1	1.1%	0.1	0.0%
ツメタガイ	1	1.1%	1.5	0.1%
アカニシ	0	0.0%	0.5	0.0%
サルボウガイ	0	0.0%	0.9	0.1%
バカガイ	0	0.0%	2.6	0.2%
シオフキ	12	13.6%	152.4	9.7%
アサリ	7	8.0%	76.2	4.8%
ハマグリ	67	76.1%	1341.6	85.1%
合 計	88	100.0%	1575.8	100.0%

0 1 2 - C 2

種 類	個体数		重量 g	
笠貝種不明	2	0.0%	0.1	0.0%
イボキサゴ	26363	85.1%	10485	42.1%
カワナ	2	0.0%	0.3	0.0%
ヘナタリ	25	0.1%	7.7	0.0%
フトヘナタリ	1	0.0%	0.6	0.0%
ウミナシ	722	2.3%	267.1	1.1%
ツメタガイ	4	0.0%	33	0.1%
アカニシ	4	0.0%	39.2	0.2%
イボニシ	2	0.0%	3.7	0.0%
ムシロガイ	1	0.0%	0.3	0.0%
アラムシロ	350	1.1%	95.3	0.4%
ヒメトクサガイ	1	0.0%	0.2	0.0%
サルボウガイ	6	0.0%	0.9	0.0%
マガキ	15	0.0%	48.6	0.2%
キクザルガイ	8	0.0%	0.7	0.0%
バカガイ	5	0.0%	17.3	0.1%
シオフキ	218	0.7%	923.8	3.7%
アリソガイ	0	0.0%	2	0.0%
ニッコウガイ料	8	0.0%	0.7	0.0%
マテガイ	3	0.0%	2.4	0.0%
ヤマトシジミ	1	0.0%	3.1	0.0%
オニアサリ	3	0.0%	0.3	0.0%
カガミガイ	1	0.0%	12.1	0.0%
アサリ	41	0.1%	184	0.7%
ハマグリ	3188	10.3%	12679	50.9%
オキシジミ	16	0.1%	113.9	0.5%
合 計	30,990	100.0%	24921.3	100.0%

0 1 3 - C

種 類	個体数		重量 g	
笠貝種不明	1	0.0%	0.1	0.0%
イボキサゴ	16218	84.4%	7091.8	36.8%
ヘナタリ	4	0.0%	0.9	0.0%
ウミナシ	243	1.3%	122.8	0.6%
ツメタガイ	22	0.1%	171.1	0.9%
アカニシ	3	0.0%	28.3	0.1%
ムシロガイ	1	0.0%	0.6	0.0%
アラムシロ	181	0.9%	52.1	0.3%
マガキ	6	0.0%	9	0.0%
イシガイ料	0	0.0%	0.4	0.0%
キクザルガイ	2	0.0%	0.1	0.0%
バカガイ	4	0.0%	46.5	0.2%
シオフキ	164	0.9%	756.3	3.9%
ニッコウガイ料	7	0.0%	0.6	0.0%
マテガイ	14	0.1%	14.1	0.1%
アサリ	30	0.2%	76.8	0.4%
ハマグリ	2316	12.0%	10851	56.3%
オキシジミ	8	0.0%	54.6	0.3%
オオノガイ	0	0.0%	2.3	0.0%
合 計	19,224	100.0%	19,279.4	100.0%

0 1 2 - C 1

種 類	個体数		重量 g	
笠貝種不明	1	0.0%	0.1	0.0%
イボキサゴ	20278	88.2%	6414.8	46.1%
ヘナタリ	10	0.0%	4.2	0.0%
ウミナシ	328	1.4%	113.5	0.8%
ツメタガイ	28	0.1%	197.3	1.4%
アカニシ	5	0.0%	82.6	0.6%
ムシロガイ	2	0.0%	0.7	0.0%
アラムシロ	317	1.4%	78.1	0.6%
バイ	1	0.0%	11.5	0.1%
マイマイ類	1	0.0%	3.8	0.0%
マガキ	10	0.0%	51.1	0.4%
イシガイ料	0	0.0%	0.7	0.0%
キクザルガイ	7	0.0%	0.7	0.0%
バカガイ	2	0.0%	16.2	0.1%
シオフキ	159	0.7%	701	5.0%
ニッコウガイ料	3	0.0%	0.2	0.0%
マテガイ	1	0.0%	1.8	0.0%
ヤマトシジミ	1	0.0%	1.5	0.0%
カガミガイ	3	0.0%	69	0.5%
アサリ	46	0.2%	162	1.2%
ハマグリ	1791	7.8%	5997.9	43.1%
オキシジミ	2	0.0%	7.7	0.1%
合 計	22996	100.0%	13915.8	100.0%

0 1 2 - P

種 類	個体数		重量 g	
イボキサゴ	335	92.5%	140.7	66.6%
ツメタガイ	2	0.6%	22.7	10.7%
マガキ	1	0.3%	2.8	1.3%
シオフキ	3	0.8%	3	1.4%
アサリ	1	0.3%	3.3	1.6%
ハマグリ	20	5.5%	38.7	18.3%
合 計	362	100.0%	211.2	100.0%

0 1 3 - S

種 類	個体数		重量 g	
イボキサゴ	924	50.1%	391.1	7.6%
ヘナタリ	1	0.1%	0.6	0.0%
ウミナシ	15	0.8%	5.8	0.1%
ツメタガイ	7	0.4%	63.9	1.2%
アカニシ	3	0.2%	147	2.9%
アラムシロ	17	0.9%	5.1	0.1%
マガキ	2	0.1%	2.8	0.1%
イシガイ料	0	0.0%	0.1	0.0%
キクザルガイ	1	0.1%	0.2	0.0%
バカガイ	1	0.1%	0.1	0.0%
シオフキ	141	7.6%	682.4	13.2%
マテガイ	115	6.2%	226.3	4.4%
アサリ	29	1.6%	188.7	3.7%
ハマグリ	582	31.6%	3398.9	65.9%
オキシジミ	6	0.3%	43.3	0.8%
種不明	0	0.0%	0.1	0.0%
合 計	1844	100.0%	5156.4	100.0%

016-S

種 類	個体数	重量 g	個体数	重量 g
イボキサゴ	15986	88.4%	5103.8	44.5%
ヘナタリ	1	0.0%	0.2	0.0%
ウミナナ属	141	0.8%	46.5	0.4%
ツメタガイ	15	0.1%	69.6	0.6%
アラムシロ	268	1.5%	57.2	0.5%
マガキ	19	0.1%	107.9	0.9%
イシガイ科	0	0.0%	0	0.0%
キクザルガイ	0	0.0%	0	0.0%
バカガイ	0	0.0%	0	0.0%
シオフキ	74	0.4%	250.2	2.2%
ニッコウガイ科	8	0.0%	0.3	0.0%
マテガイ	0	0.0%	0.2	0.0%
アサリ	9	0.0%	22.8	0.2%
ハマグリ	1551	8.6%	5790.7	50.4%
オキシジミ	8	0.0%	31.5	0.3%
合 計	18080	100.0%	11480.9	100.0%

023

種 類	個体数	重量 g	個体数	重量 g
イボキサゴ	4	0.7%	0.9	0.0%
ウミナナ属	1	0.2%	0.2	0.0%
ツメタガイ	1	0.2%	15.1	0.6%
アラムシロ	1	0.2%	0.2	0.0%
マガキ	5	0.9%	31.8	1.4%
バカガイ	1	0.2%	3.2	0.1%
シオフキ	30	5.2%	30.8	1.3%
マテガイ	9	1.6%	16.1	0.7%
アサリ	14	2.4%	59.4	2.5%
ハマグリ	513	88.4%	2180.5	93.2%
オキシジミ	1	0.2%	2.1	0.1%
合 計	580	100.0%	2340.3	100.0%

017

種 類	個体数	重量 g	個体数	重量 g
イボキサゴ	211	60.3%	91.2	16.5%
ウミナナ属	5	1.4%	1.6	0.3%
ツメタガイ	2	0.6%	7.2	1.3%
アラムシロ	6	1.7%	1.1	0.2%
シオフキ	2	0.6%	0.8	0.1%
ニッコウガイ科	1	0.3%	0.1	0.0%
ハマグリ	122	34.9%	450.6	81.4%
オキシジミ	1	0.3%	0.8	0.1%
合 計	350	100.0%	553.4	100.0%

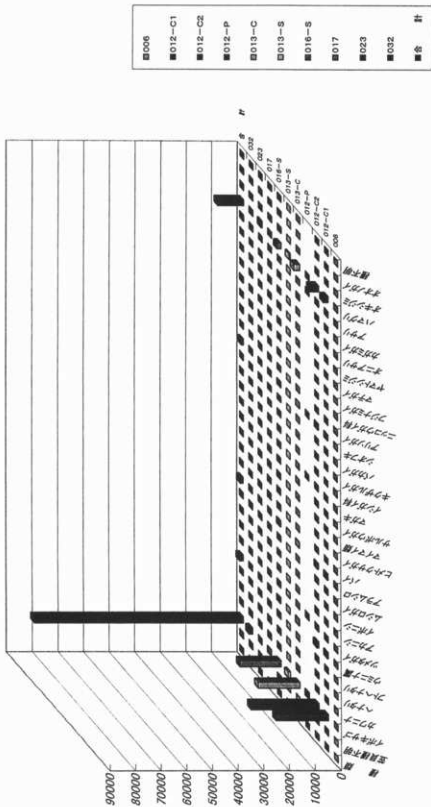
032

種 類	個体数	重量 g	個体数	重量 g
イボキサゴ	1346	95.4%	169.4	58.4%
ウミナナ属	15	1.1%	12.4	4.3%
アラムシロ	1	0.1%	0.2	0.1%
マガキ	10	0.7%	24	8.3%
キクザルガイ	1	0.1%	0.1	0.0%
シオフキ	2	0.1%	3.8	1.3%
アリソガイ	1	0.1%	7.5	2.6%
ニッコウガイ科	2	0.1%	0.2	0.1%
フジナミガイ	1	0.1%	1.8	0.6%
マテガイ	0	0.0%	0.2	0.1%
アサリ	3	0.2%	8.7	3.0%
ハマグリ	27	1.9%	57.5	19.8%
オキシジミ	2	0.1%	3	1.0%
種不明	0	0.0%	1.1	0.4%
合 計	1411	100.0%	289.9	100.0%

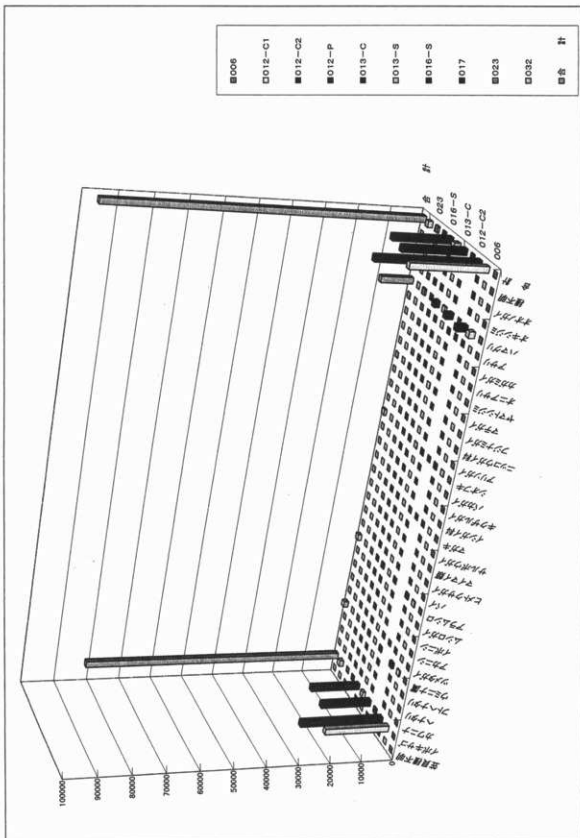
第15表 貨種同定差

品名	000			012-C1			012-C2			012-P			012-S		
	割合数	重量%	割合数	重量%	割合数	重量%	割合数	重量%	割合数	重量%	割合数	重量%	割合数	重量%	
空白未定明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0.1 0.0%	2 0.0%	0.1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
空耳用キャブ	0 0.0%	0 0.0%	2078 88.2%	6414.8 46.1%	10465.2 42.1%	26363 85.1%	10485.2 42.1%	335 92.5%	140.7 66.6%	1 0.0%	1 0.0%	18218 84.4%	7091.8 36.8%	924 50.1%	301.1 7.6%
カニナ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.0%	0.3 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ヘンチリ	0 0.0%	0 0.0%	10 0.0%	4.2 0.0%	7.7 0.0%	25 0.1%	7.7 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 0.0%	0.9 0.0%	1 0.1%	0.6 0.0%
ヘンチナリ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	0.6 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ウシニシ	1 1.1%	0.1 0.0%	338 1.4%	113.5 0.8%	267.1 1.1%	722 2.3%	267.1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	243 1.3%	122.8 0.6%	15 0.0%	5.8 0.1%	0 0.0%
ツナタガイ	1 1.1%	1.5 0.1%	28 0.1%	197.3 1.4%	33 0.1%	4 0.0%	33 0.1%	2 0.6%	22 10.7%	2 0.6%	22 10.7%	171.1 0.9%	7 0.6%	63.9 1.2%	0 0.0%
アイニシ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 0.0%	3.7 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ムシロガイ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0.7 0.0%	1 0.0%	3 0.0%	3 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	0.6 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
アラムシロ	0 0.0%	0 0.0%	317 1.4%	78.1 0.6%	95.3 0.4%	350 1.1%	95.3 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	181 0.9%	32.1 0.2%	17 0.9%	5.1 0.1%	0 0.0%
バヤ	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	11.5 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ヒメタカマガイ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	0.2 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
マイマイ類	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	3.8 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ヤルボウガイ	0 0.0%	0.9 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.0%	0.9 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
マダキ	0 0.0%	0 0.0%	10 0.0%	51.1 0.4%	15 0.0%	48.6 0.2%	0 0.0%	1 0.3%	2.8 1.3%	1 0.3%	6 0.6%	9 0.0%	2 0.1%	2.8 0.1%	0 0.0%
インガイ科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0.1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
キガサトガイ	0 0.0%	0 0.0%	7 0.0%	0.7 0.0%	0 0.0%	8 0.0%	0.7 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.0%	0.1 0.0%	1 0.1%	0.2 0.0%	0 0.0%
シロガイ	0 0.0%	2.8 0.2%	2 0.0%	16.2 0.1%	3 0.0%	17.3 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 0.6%	46.5 0.2%	1 0.1%	0.1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
シロカキ	12 13.6%	152.4 9.7%	159 0.7%	701 5.0%	218 0.7%	923.8 3.7%	3 0.8%	3 0.8%	3 1.4%	164 0.9%	756.3 3.9%	141 7.6%	662.4 13.2%	0 0.0%	0 0.0%
アソコガイ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ニクコウガイ科	0 0.0%	0 0.0%	3 0.0%	0.2 0.0%	8 0.0%	0.7 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 0.0%	0.6 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
フナタミガイ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
マサガイ	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	1.8 0.0%	3 0.0%	2.4 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 0.1%	14.1 0.1%	115 6.2%	25.3 4.0%	0 0.0%
キヤトシシ	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	1.5 0.0%	1 0.0%	3.1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
カサガイ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.0%	0.3 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
アサリ	7 8.0%	78.2 4.8%	46 2.0%	182 1.2%	41 0.1%	184 0.7%	1 0.3%	1 0.3%	3 1.3%	3 1.3%	30 0.2%	78.8 0.4%	29 1.6%	184.7 3.7%	0 0.0%
ハシヤリ	67 76.1%	1341.6 85.1%	1791 7.8%	5697.9 43.1%	3188 10.3%	12679 50.9%	20 5.5%	20 5.5%	38.7 19.3%	2316 12.0%	10851.3 58.3%	582 31.6%	4339.9 65.9%	306 1.6%	38.3 0.9%
キヤトシシ	0 0.0%	0 0.0%	2 0.0%	7.7 0.1%	16 0.0%	113.9 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 0.0%	54.6 0.3%	6 0.3%	20.9 0.4%	0 0.0%
キヤトガイ	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2.3 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
未定明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	88 100.0%	1575.8 100.0%	22206 100.0%	13015.8 100.0%	30986 100.0%	94921.5 100.0%	362 100.0%	211.2 100.0%	19279.7 100.0%	1844 100.0%	3158.4 100.0%				

第15表 員種別定表



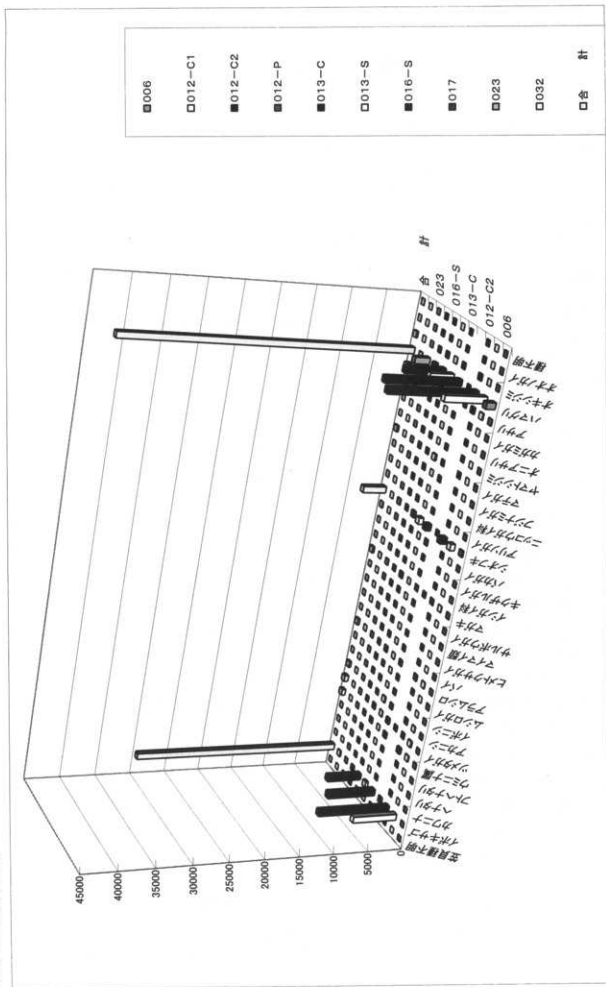
第16表 貝羅同定表 (個体数)



第17表 具備固定費(重積)

	005	012-C1	012-C2	012-P	013-C	013-S	016-S	017	023	032	合
役員報酬	0	0.1	0.1	0.0	0.1	0	0	0	0	0	0.3
役員手当	0	461.8	10685	66.0	7991.8	391.1	5103.8	91.2	0.9	189.4	28889
カゴシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘチカリ	0	4.2	7.7	0.9	0.9	0.6	0.2	0	0	0	12.6
フットナカリ	0	0	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0.6
ウミニシ風	0.1	113.5	285.1	122.8	5.8	0.1	46.5	1.6	0.2	4.3	589.9
フタナカリ	1.5	197.3	33	10.7	171.1	63.9	69.6	7.2	15.1	15.1	579.9
フタニシ	0.5	82.6	39.2	28.3	28.3	147	2.9	0	0	0	297.1
イボニシ	0	0	3.7	0	0.6	0	0	0	0	0	3.7
イボロシ	0	0.7	0.3	0	0.6	0	0	0	0	0	1.6
アラシロ	0	0.8	0.3	0	0.6	0	0	0	0	0	1.6
アラシロ	0	78.1	95.3	0	52.1	5.1	57.2	1.1	0.2	0.2	289.3
アラシロ	0	11.5	0	0	0	0	0	0	0	0	11.5
ヒメトナカリ	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0.2
マナカリ	0	3.8	0	0	0	0	0	0	0	0	3.8
マナカリ	0.9	0	0.9	0.9	0	2.8	0	0	0	0	4.9
マナカリ	0	51.1	48.6	1.3	9	0.1	107.9	0	31.9	24	279
マナカリ	0	0.1	0	0	0.4	0.1	0	0	0	0	0.6
マナカリ	0	0.7	0.7	0	0.1	0.2	0	0	0	0	1.8
マナカリ	2.6	18.2	17.3	0	46.5	0.1	0	0	3.2	0	83.3
マナカリ	132.4	5.0	923.8	1.4	758.3	682.4	250.2	0.8	90.8	3.8	3412.1
マナカリ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	7.5	9.5
マナカリ	0	0.2	0.7	0	0.6	0	0.3	0.1	0	2.1	2.1
マナカリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.8	1.8
マナカリ	0	1.8	2.4	0	14.1	236.3	0.2	16.1	0.2	0.2	261.1
マナカリ	0	1.5	3.1	0	0	0	0	0	0	0	4.6
マナカリ	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.3
マナカリ	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0.2
マナカリ	69	5.8	12.1	0	76.8	188.7	22.8	0	59.4	8.7	705.7
マナカリ	76.2	182	184	3.3	1.6	0	0	0	2.5	0	1444
マナカリ	5997.9	43.1	12919	38.7	10851	3398.9	5790.7	450.6	2180.5	57.5	14445
マナカリ	0	7.7	113.9	0	54.6	43.3	31.5	0.8	2.1	3	256.9
マナカリ	0	0	0	0	2.3	0	0	0	0	0	2.3
不明	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	1.1	1.2
合	1578.8	13916	24627	211.2	19329	5156.4	11481	853.4	2460.3	289.9	78299

第17表 貝種同定表 (重量)



第3章 ま と め

第1節 旧石器時代

鎌取場台遺跡では、石器集中地点が2か所、礫群が3か所検出された。遺物の総点数は549点、そのうち礫・礫片が460点で全体の8割以上を占め、石器は2割弱の89点と非常に少ない。石器に関する石器集中地点1が47点（IV層上）と最も多く、石器集中地点2の4点（VII層）、礫群中の石器22点（IV～V層）と出土層位は異なるがその数にもいくらかの差がある。いずれも規模的には小さい方であるが、VI層段階の資料として、下総型石刃再生技法というくに千葉県内で出土例が増加し、注目される資料が得られたことは収穫であった。また、礫群に関して、隣接する2か所のほぼ同様な規模の礫群を、接合関係を中心として検討することが出来た。ここではこの2点に関して、もう少し詳しく延べまとめたい。

今回の調査では石器集中地点が3層3か所にわたり検出された。その中で、成果があったものとして、第1に「下総型石刃再生技法」が行われていたことが確認できたことであろう。第2には隣接する2か所のほぼ同規模な礫群について、接合関係を含め検討できたことである。ここではこの2点についてまとめてみたい。

まずはじめに、前者の成果について述べたいと思う。下総型石刃再生技法の特徴として、VII～VI層段階中に出現するものであり、下総台地における石材事情からおこなわれたものである。VII層段階では大型・中型石刃を素材とするものであるが、VI層段階になると様相が異なり石刃自体も小型化し、中型の剥片も用いるようになる。

石器集中地点1における当技法の位置付けであるが、先にも述べたように小規模な一群であり、技法そのものが主体的になるとはいえず、どちらかといえば一般的な剥片剥離に重点が置かれている。石材についてみると、珩質頁岩が全体の半数を占め、安山岩、黒曜石がそれに続く。珩質頁岩については、当地において剥片剥離を行うものと、製品として搬入するものとに分けられる。これは既に述べたとおりである。分布状況から見ると、剥片（小石刃石核）1点と4点の小石刃のうち、他の4点に比ベ質の劣る小石刃（第9図4）のみ離れている。仮に集中地点を南北に分けるとすると、4点が北側、その1点が南側に分布する。石材的にも1点のみ異なることから、在地石材を用いて、小型石刃を作出したとも考えられる。

一般的な剥片剥離作業に用いられるような石材の中に、図9の4の様な下総型石刃再生技法を用いた小石刃があり、下総における石材と技法が結びついた例と考えることができなだろうか。もともとは良質なチョコレート頁岩が素材として用いられるわけであるが、そうした石材も欠乏してきたため、在地系石材を用い生活の中で適応させていったのである。

次に礫群の方を見てみると、460点中接合関係が得られたものは272点あり、6割近くが接合したことになる。また接合しないまでも同一母岩と見られるものが約90点あり、搬入された礫の母岩は40前後であったと考えられる。礫・礫片の総重量は7218.69gであり、所持していた石器の重量も併せて考えると、一集団で搬入された量にしては多い方であろう。

接合状況を見てみると、まず母岩別により33に分類され、個体数では59個体となっている¹⁴。母岩に比べ個体数が多いのは、例えば接合資料No22の母岩を8個体、No23の母岩を6個体としているためである。礫群を3つに分けているが、そのうち2つ以上にまたがり接合するものが21個体、礫群1の中で接合するも

のが13個体、礫群2では23個体、礫群3では1個体、その他に1個体が分布する。こうして見るとほとんどの母岩が礫群1及び礫群2に分布する。そのうち複数の個体をもつ母岩がすべて一つの礫群に分布するのは、礫群2では3母岩（接合資料№2、21、30）あるが、礫群1には見られない。そして、複数の個体をもつ母岩が礫群1と礫群2にまたがり分布するのが5母岩（接合資料№22～25、32）あった。礫・礫片の総重量は礫群1では3941.92g、礫群2では3082.61gであった。礫群1には接合資料№14(838.18g)が含まれるため重量に偏りが出ていることを考慮に入れても、礫・礫片の総数でも礫群1のほうが礫群2より57点少なく、相対的に見ても礫群1の方が個々の重量では礫群2のそれよりも多いことになる。

以上のように礫群について少々細かく検討してきたその結果をまとめると、まず礫群1は、礫群内の石器について見てみると、出土総数は22点である。この数から考えると石器の製作跡又は住居跡という可能性はないと考えられ、廃棄されたものであろう。これらの石器はまた被熱の痕跡が確認できないことから、礫群形成の後に廃棄された可能性が強いと考える。

また、礫群の礫には被熱の痕跡が多く認められるもののそのほとんどが破片であり、完形又は完形に近い礫もほとんど見られない。また、接合資料の検討からほとんどの礫（母岩）が礫群1と2にまたがること、礫群集中部又は周辺には焼土が確認されておらず、その場で直接使われていたとは考えられない。ことから、礫群についても石器と同様に廃棄されたと考えられる。

しかし、接合状況から見ると礫群1・2の2か所が同時に廃棄された可能性は低く、どちらか先に破棄されたはずである。礫群1では、北東方向に向かって遺物が散漫になり、集中部の礫分布は礫群2に比べやや疎である。礫群2は南西方向に向かって広がり、礫群1に比べ集中部の礫分布は密である。そして凹みに落ち込んだ様相を示す。周辺の土層の堆積状況はほぼ水平であることから、この部分を掘り込んだ可能性も十分にあるが確定できない。本礫群総体では7kg以上の礫が搬入されていることから、行動をとる複数の集団があり、凹みを利用し礫群2を最初に形成した。その後、礫片を移動させ、礫群1を新たに形成したことが礫片等の分布状況から推察される。

次に、礫群の分布範囲又は周辺から、焼土又はその痕跡が確認されていないことから、ここは礫群を使用していた地ではなく、ここからそう遠くはない場所から運ばれ廃棄されたのであろう。礫群の分布状況は、礫群1と2の遺物のない空間を挟んで対照的に広がっており、この場所から左右に分けて捨てられたようである。

第2節 縄文時代

今回の調査では竪穴住居跡16軒、土坑27基、炉穴1基が検出された。時代を新しくする遺構との重複はあるものの、当該期の多くは同時期での遺構どうしの重複は少なく、炉穴1基を除きほぼ時期的にも縄文時代中期中韓式・加曾利Ⅰ～Ⅱ式期という比較的短い期間に営まれた集落であると考えられる。また、調査地区外への遺構の分布も十分考えられ、さらに遺跡は周囲に広がる様相を示している。

住居跡は、平面形状がほぼ円形を呈し、直径が4m前後の規模のものがほとんどであり、直径が5mを超える大型の住居跡はなくほぼ同規模の住居跡であったと考えられる。施設について見ると、023号・036号両住居跡が一部に周溝状の落ち込みが検出されたが、ほかの14軒の住居跡からは検出されていない。炉は住居跡全域が検出された13軒についてはすべて認められた、そのうち023号・024号住居跡のみが埋燬炉である。主柱穴は不明な3軒を除き、12軒が4本と考えられる。土坑は直径が1m～2mの平面形状が円

形、断面形状が円筒状のものがほとんどで袋状を呈するものは4基のみであった。また、ピットを伴うものが10基確認された。

遺物の出土量は全体的に少なく、他時代の遺構との重複などもあり、当該期の遺構内出土が特定できないものが多くある。土器について見ると、中幹式から加曾利EⅠ・Ⅱ時期にかけての時期にほぼ限定される土器群が出土している。住居跡からは完形での出土はなく、ほとんどが破片で、復元できる土器の出土は僅かであった。土坑からは、すべて破片での出土であった。

住居跡や土坑からは貝層も検出されているが、すべて遺構内に破棄されており、集落を越えて台地上又は斜面に大規模な貝塚を形成するまでには至らなかったようである。本遺跡と谷を挟んで西側に隣り合う「南二重堀遺跡」⁹⁾からもほぼ同時期の遺構内に小規模な貝層を伴う住居跡が数は少ないが検出されている。当遺跡、特に縄文時代中期前半に集落が営まれていた時期には対岸の台地も含めた地域が1つの集落として構成されていたことも十分に考えさせられる。このことは、東南部地区を含めた地域の当該期の集落や貝塚のあり方をも考える上で一つの資料となりえるのではないかと考えられる。

第3節 古墳時代

今回の調査では竪穴住居跡8軒、方形周溝状遺構4基、円形周溝状遺構2基が検出されている。これらの遺構からは古墳時代前期の五領・和泉期の土器が出土している。今回の調査で検出された住居跡は、土器の様相や住居の形態から、集落の中心時期は五領期と見られる。各竪穴住居跡は、五領期の古い時期の002号、007号、009号の3軒と新しい時期の001号、003号の2軒、それより新しい和泉期の006号、021号の2軒の三時期に分けられる。010号住居跡は五領期と考えられるが、出土遺物も少なく詳細は不明である。また、周溝状遺構でも、出土した遺物等から005号、008号、011号の比較的規模の小さい方形周溝状遺構3基と規模の大きい方形周溝状遺構004号、円形周溝状遺構014号、015号の3基との間に時期的な違いが見られる。後者の3基が前者の3基より新しい時期に作られている。周溝状遺構どうし、竪穴住居跡どうし、そして周溝状遺構と住居跡間での重複も見られない。このことは、お互いに周辺の状況を考え造られたことを示していると考えられる。

規模の大きい周溝状遺構のうち004号と015号の周溝内から須恵器が破片であるが少数出土している。004号出土の大形壺の口縁部1片を除くほかの、器面には断面三角形の細い隆線が一条ないし二条が横走し、間を波形文が巡っている、また胎土の様子や灰色ないし青灰色を呈する色調などを陶器型式と対比すると6世紀初頭から前半ころの高蔵15号窯(TK15)・高蔵10号窯(TK10)出土の須恵器の特徴に類似している。ただし、出土した須恵器は小破片であり、周辺から出土している土師器等の時期をも考え合わせると、より古い時代の所産であるとも考えられる。今回の調査の中で検出された古墳時代遺構の中でこれら規模の大きい3基の周溝状遺構は最も新しい時期のものであり、古くは5世紀後半から6世紀前半ころの間に造られた遺構であると考えたい。

今回の調査では盛土等の存在が確認されなかった周溝状遺構ではあるが、004号方形周溝状遺構の状況を考え、時期的なものも考慮すると規模の大きい周溝状遺構には築造時には盛土等何らかの施設が地上に存在していた可能性が高い。

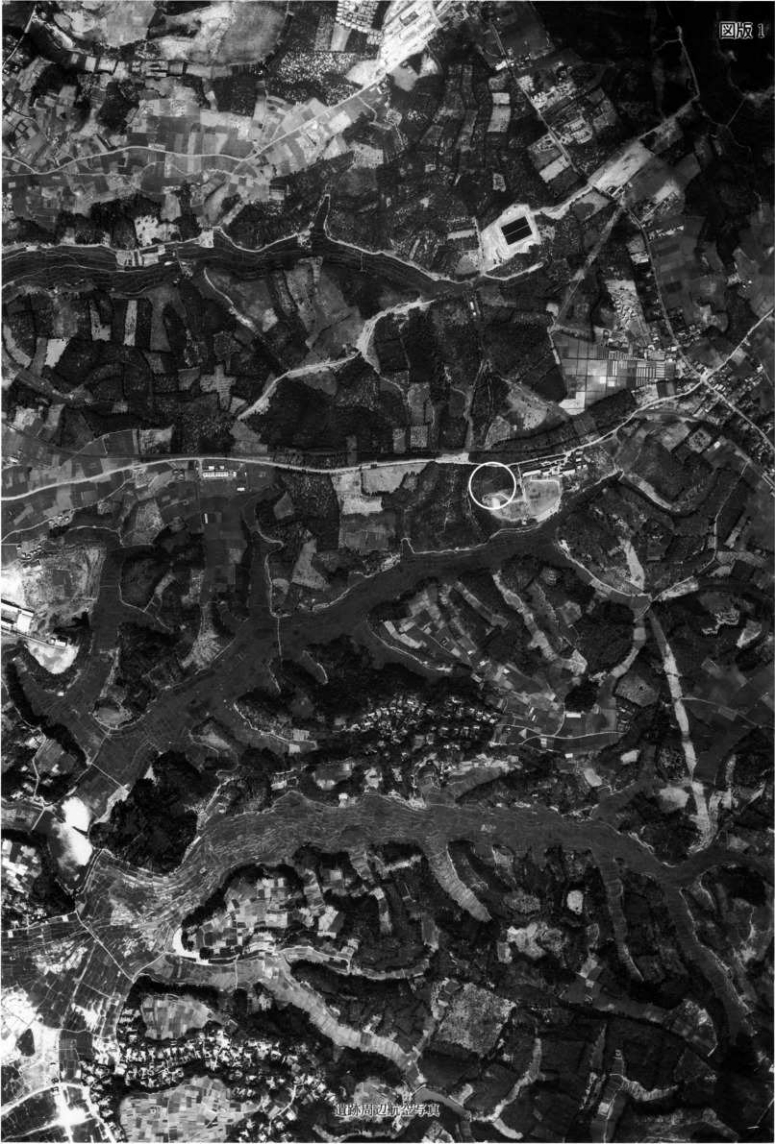
注1 新田浩三 1995 「下総型石刃再生技法の提唱」千葉県文化財センター 【研究紀要16】

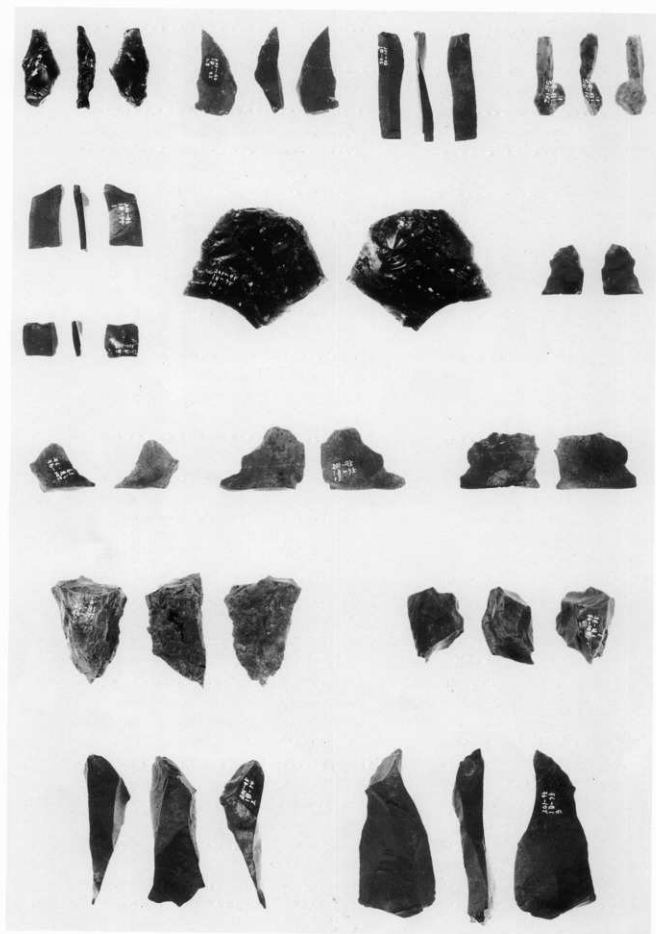
下総型石刃再生技法の定義として以下のように述べている。

「今回提唱する「下総型石刃再生技法」とは、「下総台地のⅦ層からⅥ層段階の石器群のうち、大型・中型石刃を石器素材として搬入し、石刃の縁辺を頻繁に再生し、新鮮な縁辺あるいは、刃部の作りだしを行うものをいう。また、このような石刃の再生が主体的であるが、再生の際に剝離された剥片・小型石刃も再利用するものも副次的にみとめられる。このような石刃の究極までの再利用を行う技法をさす。」

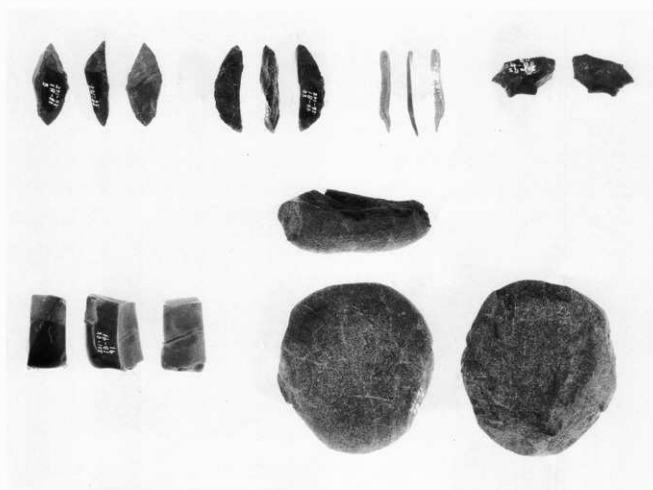
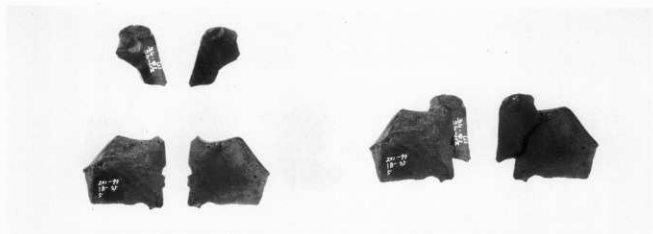
- 2 ここでの「個体」の使い方についての補足しておく。母岩No22を例にとって説明すると、一つの母岩の接合資料No22をa～hと細かく分けている。a b c……と分けられた資料もそれぞれ接合した資料であるのでこれらを個体と呼称し、母岩（接合資料）No22で括る。一方で、接合資料a～hは母岩としては同一であるが個体それぞれが接合せず元の母岩には復元ができないため枝番号（a～h）を附し同一母岩から派生した個体であることを示している。
- 3 伊藤智樹 1983「千葉東南部ニュータウン12—南二重堀遺跡—」財団法人 千葉県文化財センター

写 真 图 版

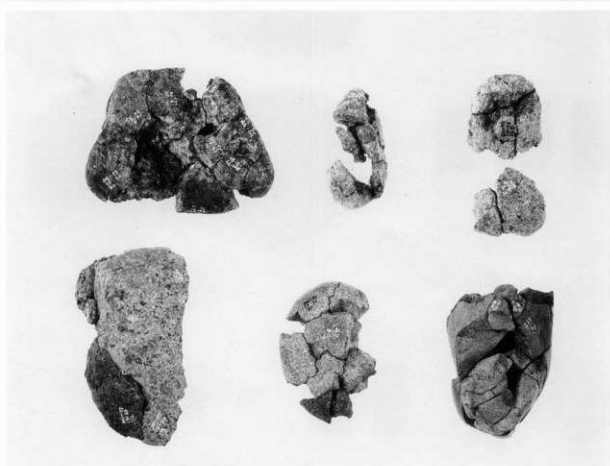




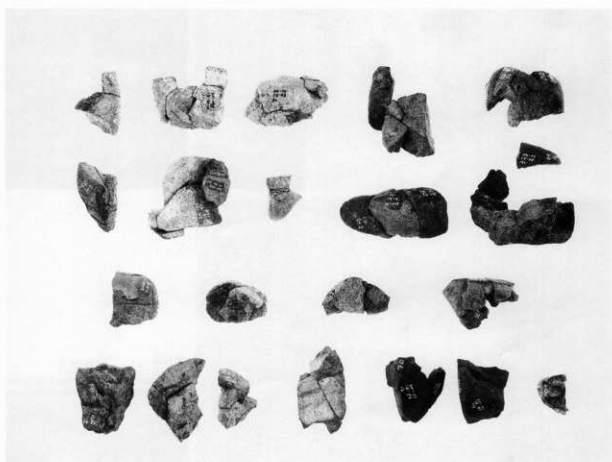
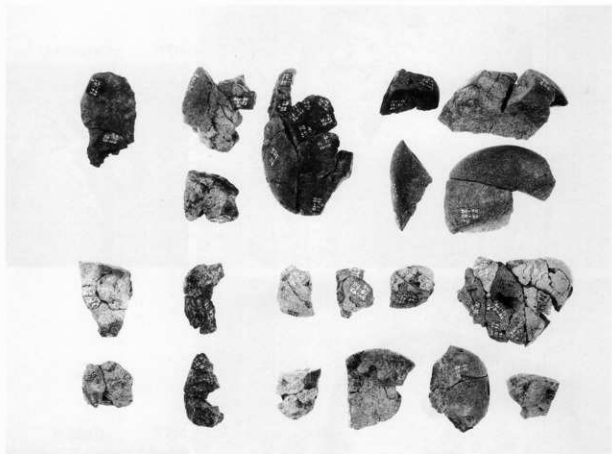
石器集中地点 1 出土石器



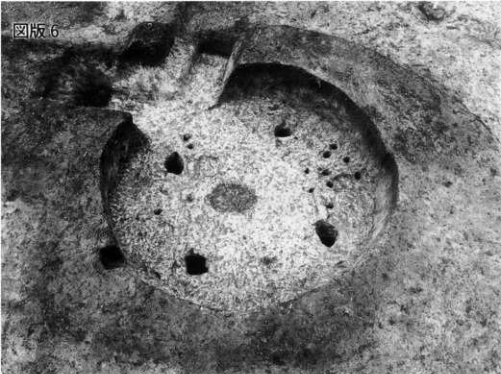
石器集中地点 1·2· 群内出土石器



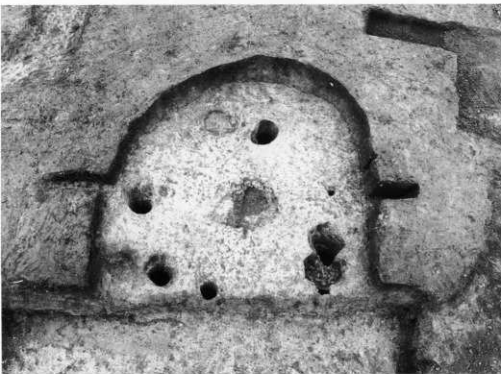
礫接合 (1)



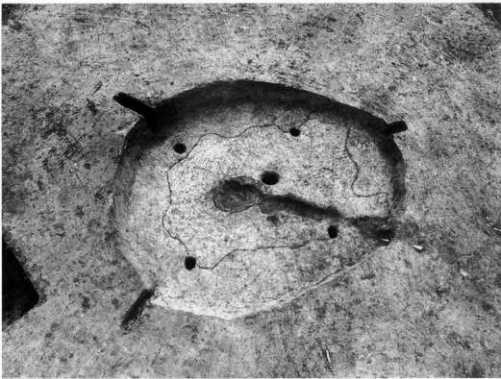
罽接合 (2)



012号 貝層検出状況

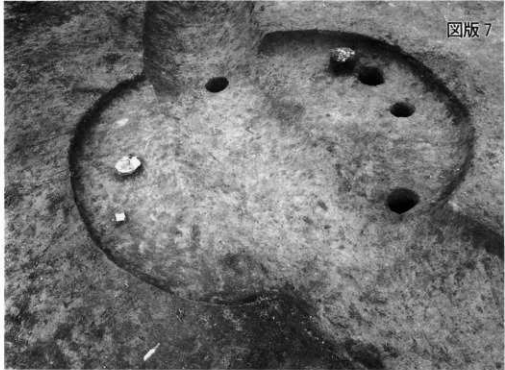


013号 貝層断面

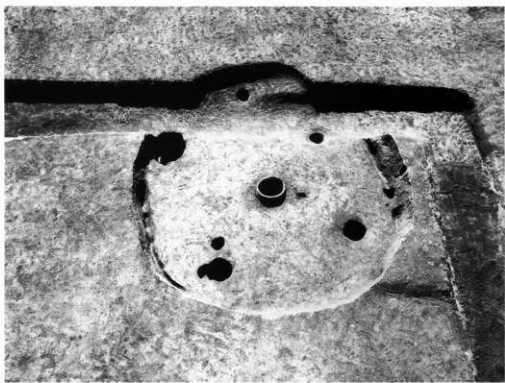


016号 貝層断面



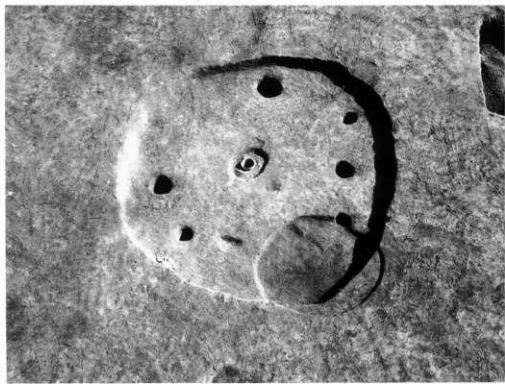


017号

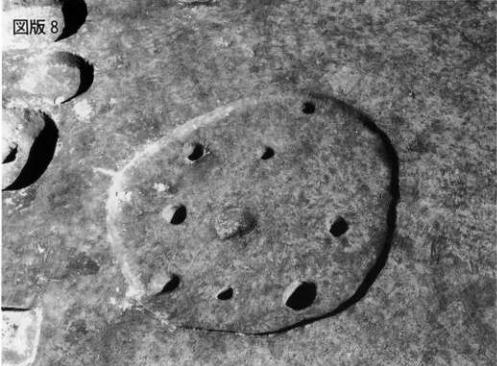


023号

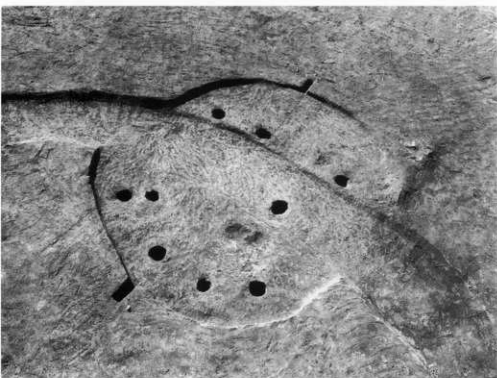
炉



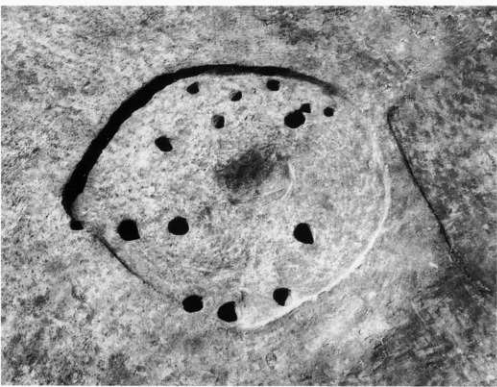
024号



025号



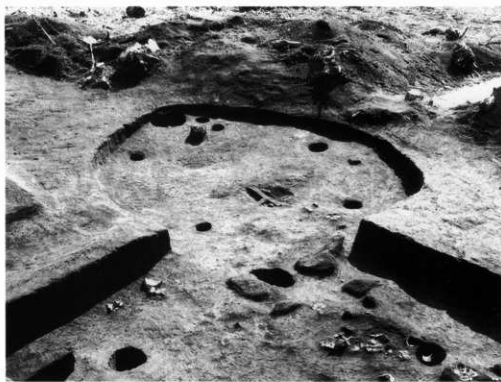
031号



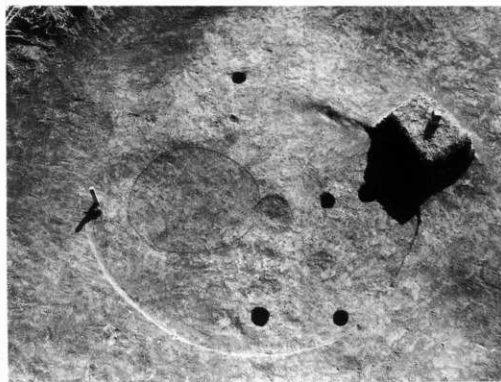
033号



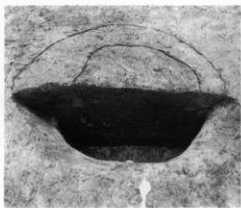
035号



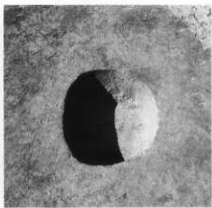
036号



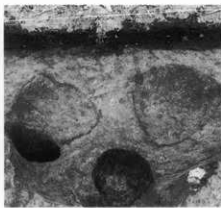
037号



018号断面



020号土坑



045号炉穴



012-3



012-1



012-4



012-2



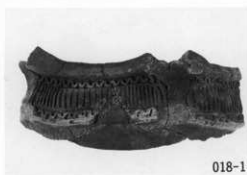
013-3



013-1



013-2



018-1



018-3



016-1

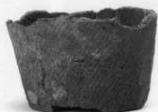
018号·020号土坑·045号炉穴、012号·013号·016号·018号遺構出土土器



023-8



023-5



024-1



031-1



035-1



035-2



051-2



057-1



053-1



C2-30



014-1



014-10



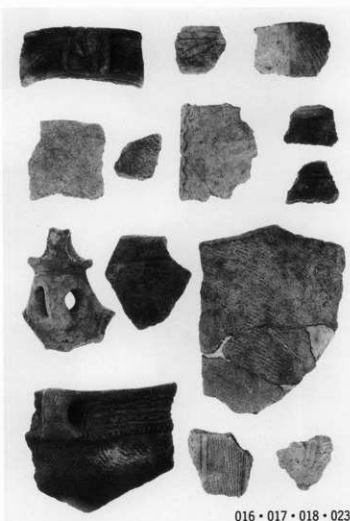
012



013-1

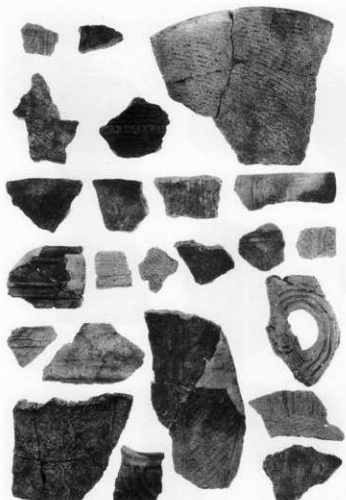


013-2



016 • 017 • 018 • 023

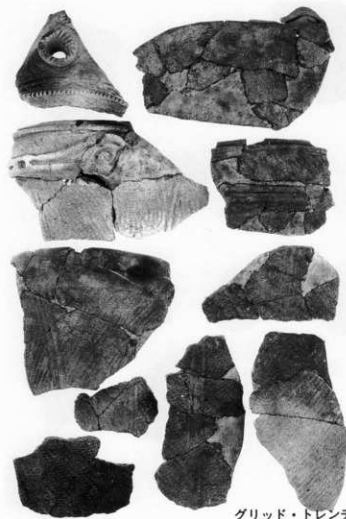
012号 • 013号 • 016号 • 017号 • 018号 • 023号遺構出土土器



024・025・028・032・033・035・036・039・052・060



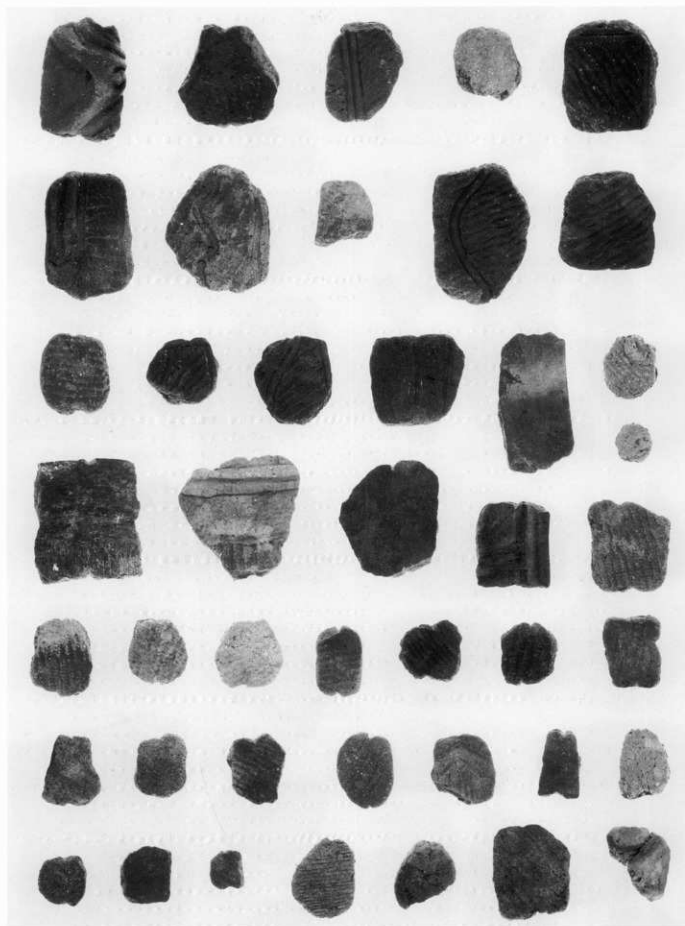
053・054・055・056・058・059・061



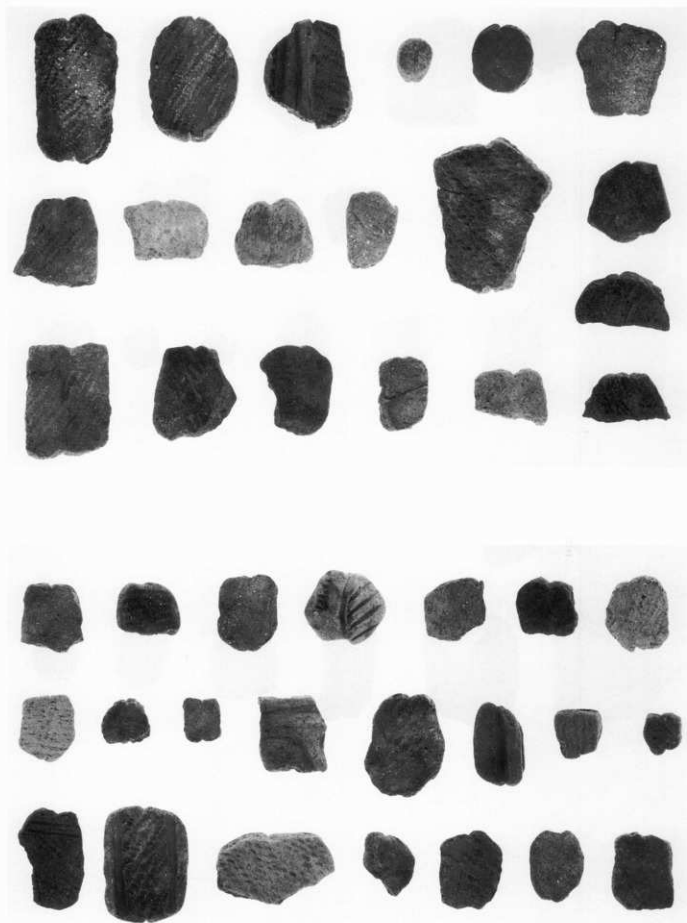
グリッド・トレンチ



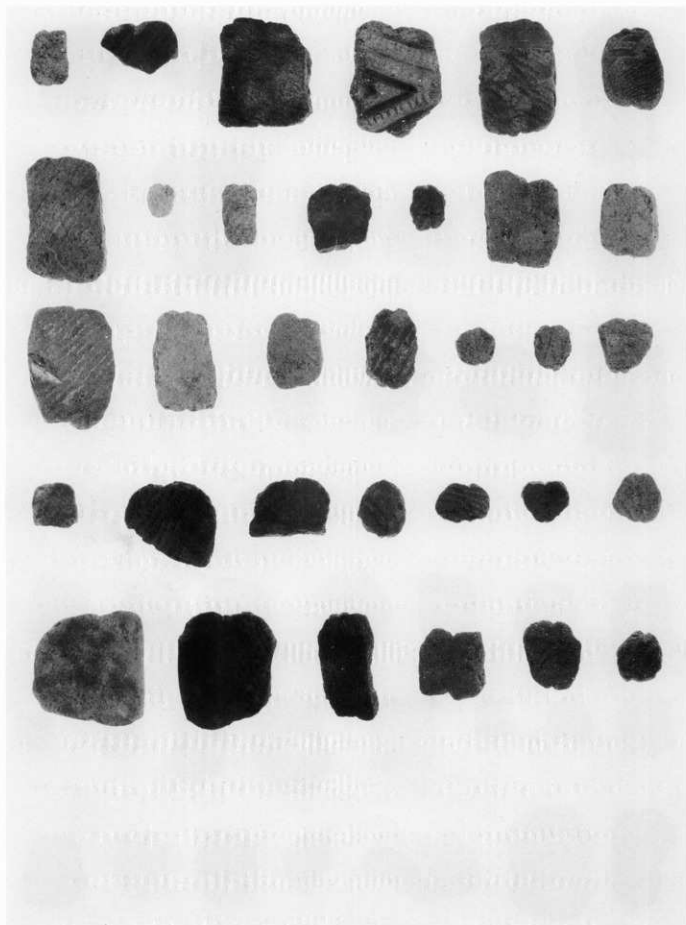
014・015



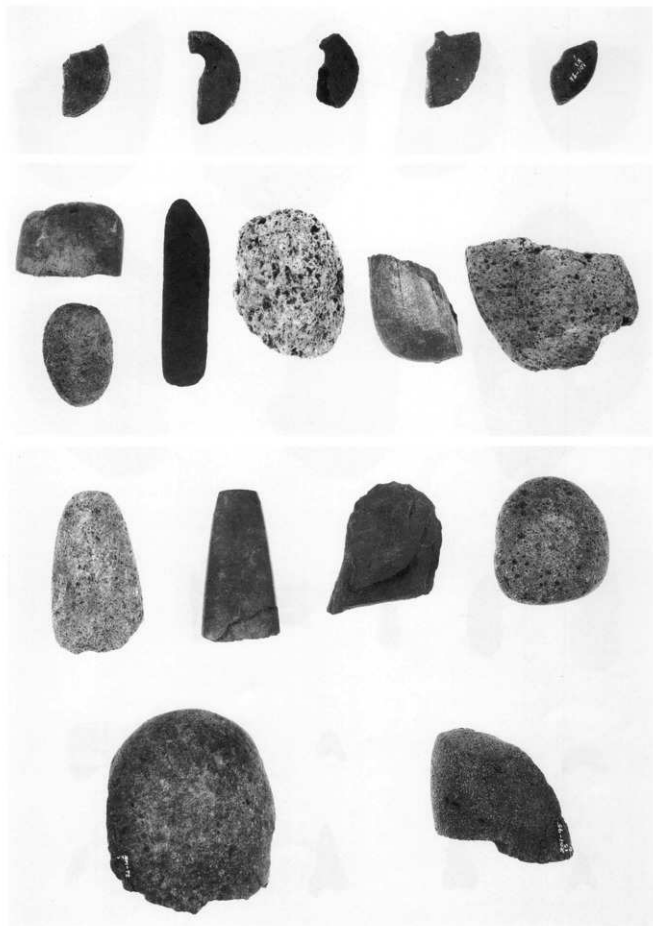
土器片錘 (遺構出土)



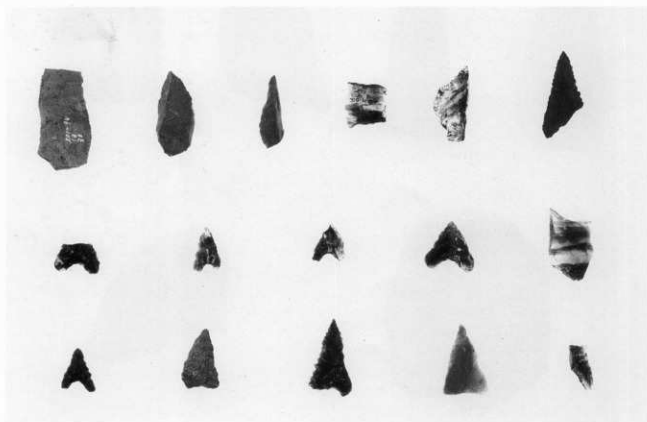
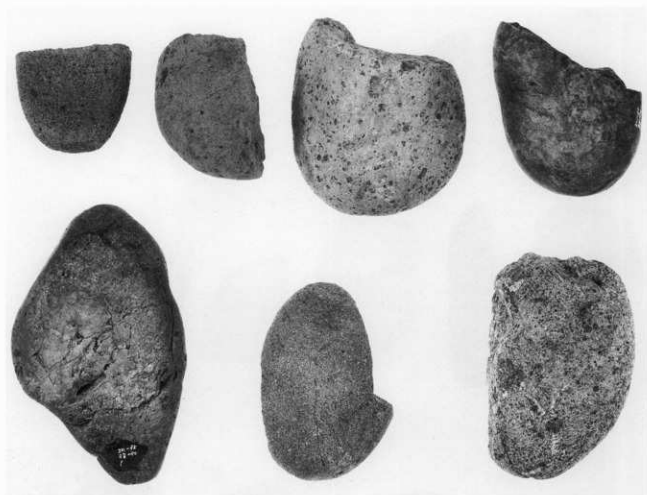
土器片錘 (遺構、トレンチ、グリッド)



土器片錘（縄文時代外遺構出土）



土製珧状耳飾、石製品



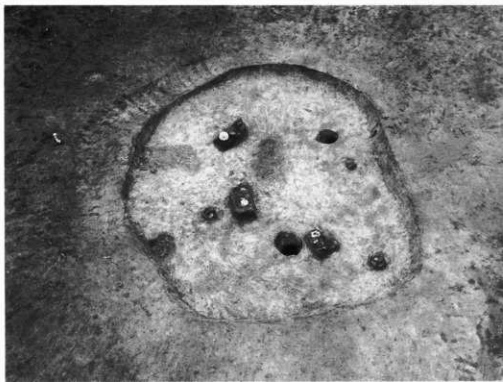
石製品



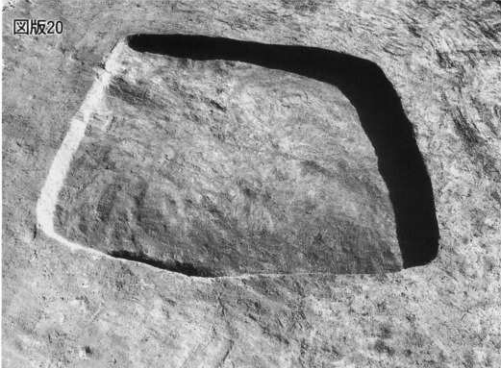
遺跡近景



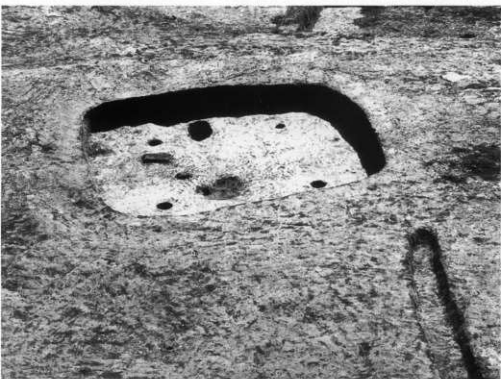
001号



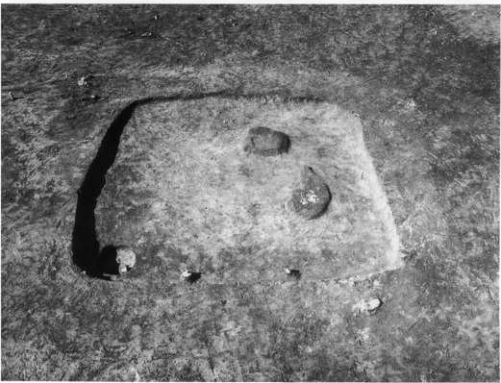
002号



003号



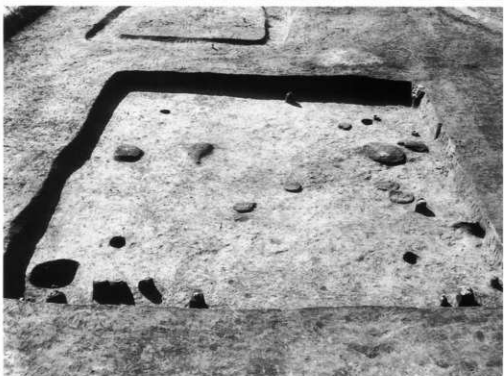
007号



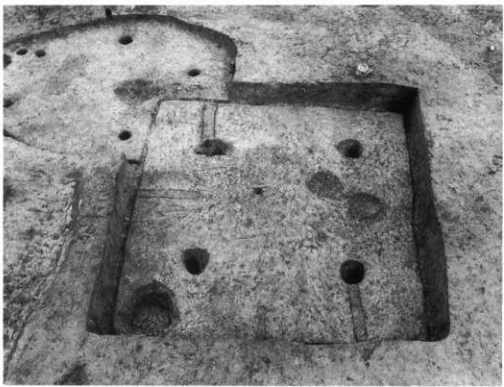
009号



010号



006号



021号

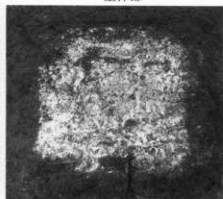
遺物出土状況



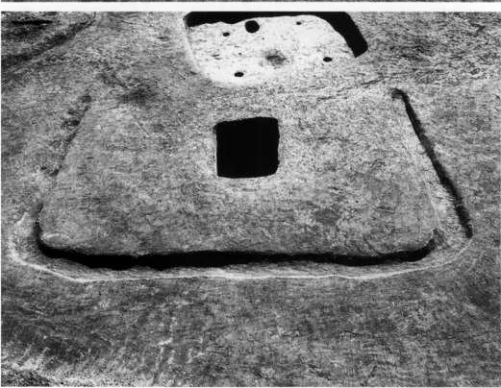


004号

主体部

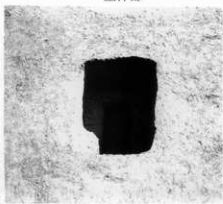


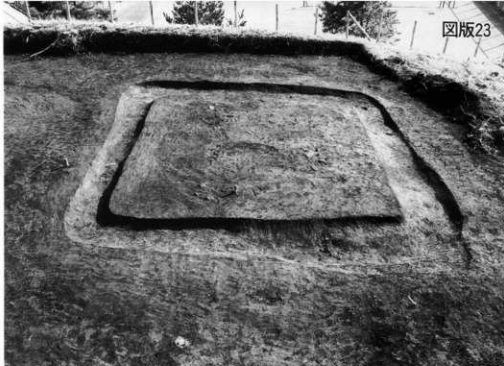
005号



008号

主体部





011号



014号



015号



002-1



002-2



002-3



002-4



002-5



002-6



002-7



002-8

002号住居出土土器



006-1



006-2



006-3



006-4



006-5



006-6



006-7



006-8



006-9



006-10



006-11



006-12



006-13



006-24



006-25

006号住居出土土器





021-1



021-2



021-3



021-4



021-5



021-14



021-7



021-8



021-12



021-10

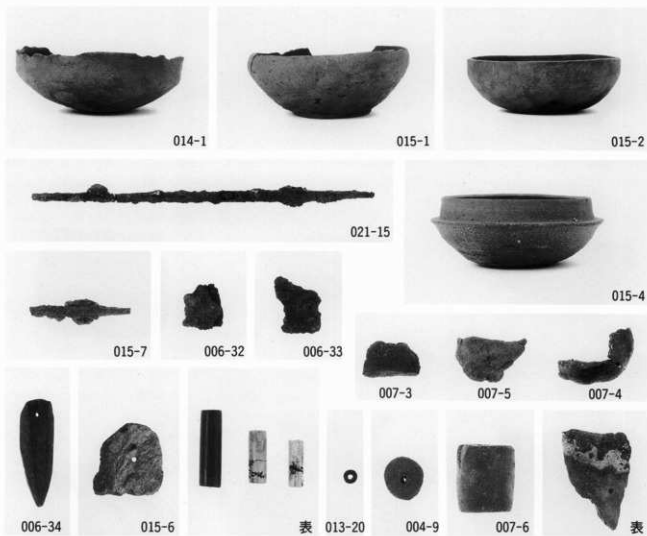


021-11

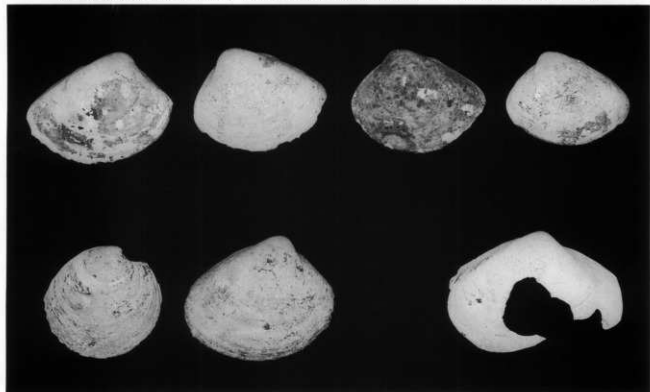


021-9

021号住居出土土器



004号・006号・013号・014号・015号・021号・007号遺構出土土器、鉄製品、土製品、玉類



遺構出土貝製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちぼとうなんぶにゅうたうん							
書名	千葉東南部ニュータウン							
副書名	鎌取場台遺跡							
巻次	22							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第368集							
編著者名	高橋博文							
編集機関	財団法人千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2						TEL 043(422)8811	
発行年月日	西暦1999年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鎌取場台	千葉県千葉市緑区鎌取町	201	095	35度 33分 38秒	140度 10分 22秒	19901101～ 19910330	3,700	土地区画整理事業に伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
鎌取場台	包蔵地 集落跡	旧石器 縄文 古墳	石器集中地点2か所 竪穴住居跡 土坑 炉穴 竪穴住居跡 周溝状遺構 地下式坑		ナイフ形石器、尖頭器 石刃、石核、剥片 縄文土器(中期)、石鏃、 石斧、磨石、敲石、貝 刃 土師器、須恵器、鉄製 品		当地域では数少ない古墳時代前期・中期の集落が検出されている。	

千葉県文化財センター調査報告第368集

千葉東南部ニュータウン22

— 鎌取場台遺跡 —

平成11年3月31日発行

編 集	財団法人	千葉県文化財センター
発 行	住宅・都市整備公団千葉地域支社	千葉県美浜区中瀬1-3
	財団法人	千葉県文化財センター
		四街道市鹿渡809-2
印 刷	株式会社	弘 文 社
		市川市市川南2-7-2
